

青森県立美術館

年報

平成28年度

目次

青森県立美術館の沿革

展覧会

- 006 企画展
- 038 コレクション展
- 046 重点事業

学芸

- 052 美術資料収集
- 069 美術資料貸出状況
- 070 作品保存修復

教育普及

- 072 普及プログラム
- 075 スクールプログラム
- 077 サポートスタッフ

パフォーミングアーツ

- 080 演劇
- 084 ダンス
- 087 音楽
- 090 映画

サービス等

- 098 貸館
- 100 図書室
- 101 キッズルーム
- 102 博物館実習
- 103 サポートシップ倶楽部

資料

- 106 広報
- 107 広聴
- 108 入館者数
- 109 運営予算・決算
- 110 組織
- 111 関係規程等
- 114 施設設備概要

青森県立美術館の沿革

1990年3月	美術館の設置について検討を開始することを表明
1991年1月	美術館、音楽・演劇ホール等の複合文化ゾーンである「総合芸術パーク」の検討開始
1996年2月	総合芸術パークの建設場所を三内丸山遺跡に隣接した移転予定の総合運動公園跡地に決定 総合芸術パークの核となる美術館を先行し整備することが決定
1999年度	美術館設計競技を実施、最優秀者に青木淳氏
2000年度	建築基本設計
2001年度	建築実施設計
2002年度	美術館建築工事着工
2003年度	別棟で建築予定であったアトリエとレジデンスを休止、同じく別棟で建築予定であったレストラン、ミュージアムショップを美術館本体に組み込むなどの見直しを行う
2005年9月20日	美術館竣工
2006年3月17日	「運営諮問会議」設置
2006年4月1日	青森県立美術館開館準備室設置
2006年10月17日	「青森県立美術館条例」制定
2006年6月13日	開館プレス発表開催
2006年7月13日	開館（館長 三村申吾）
2007年7月24日	博物館法に基づく博物館相当施設登録（青森県教育委員会告示第11号）
2007年9月13日	「県民のための美術館づくり懇話会」設置
2008年7月19日	あおもり犬屋外連絡通路開通
2008年7月20日	青森県立美術館2周年記念シンポジウム開催
2009年1月1日	新館長 鷹山ひばり 就任
2010年5月7日	入館者150万人達成
2010年7月8日	あおもり犬えさ皿完成
2011年7月11日	入館者200万人達成
2011年7月13日	開館5周年
2012年11月14日	入館者250万人達成
2013年11月14日	入館者300万人達成
2015年4月1日	新館長 杉本 康雄 就任
2016年3月	入館者350万人達成
2016年3月19日	「青森県立美術館アドバイザー・ボード」設置
2016年7月13日	開館10周年
2016年12月23日	八角堂リニューアル 《miss forest / 森の子》完成

展覧会

企画展

『オドロイテモ、おどろききれない 森羅万象:棟方志功とその時代』展

改組 新 第2回 日展 青森展

青森 EARTH2016 根と路

生誕 80 周年 澤田教一:故郷と戦場

コレクション展

コレクション展 I

コレクション展 II

コレクション展 III

コレクション展特別企画「青森コンプレックス 2016」

重点事業

10 周年記念事業

青森県立美術館 10 周年《夏の祝典》

県美の冬物語 WINTER WHITE MUSEUM

青森 EARTH アウトリーチ 立ち上がる風景

凡例

1 出品作品の項は、出品番号、作家・作品名、制作年、材質技法、寸法(高さ× 縦× 横、cm)、所蔵先の順に記した。

2 掲載記事は新聞記事を主として記載している。

『オドロイテモ、おどろききれない 森羅万象：棟方志功とその時代』展

開催概要

2016年4月16日（土）－2016年6月5日（日）

開催日数：48日

開館時間：9:30 - 17:00（最終入場 16:30）（4/16 - 5/31）

9:00 - 18:00（最終入場 17:30）（6/1 - 6/5）

休館日：4/25（月）、5/9（月）、5/23（月）

主催：棟方志功展実行委員会（東奥日報社、青森テレビ、青森県観光連盟、棟方志功記念館、青森県立美術館）

協力：日本民藝館、青い森鉄道株式会社、ねぶたの家ワ・ラッセ、株式会社 JR 東日本青森商業開発

後援：NHK 青森放送局、青森ケーブルテレビ、河北新報社、毎日新聞青森支局、読売新聞青森支局、産経新聞社青森支局、北海道新聞函館支社、東日本旅客鉄道株式会社 盛岡支局、青森県教育委員会、青森市教育委員会、青森市

観覧料：

一般 1,300円（1,100円）、高大生 800円（600円）

※（ ）は前売券及び20名以上の団体料金

入場者数

17,427人

関連行事

1. シンポジウム「青森の子 棟方志功から棟方志功について語る」

棟方志功のお孫さんである石井頼子氏、弘前大学教授の須藤弘敏氏、棟方志功記念館の武田館長補佐、当館の牧野館長特別補佐をパネリストに、池田美術企画課長がコーディネーターを務め、「青森の子棟方志功について語る」と題してシンポジウムを開催した。

日時：4月16日（土）13:30 - 15:30

場所：シアター

参加者：60名

2. 記念講演会「近代美術史における棟方志功」

女子美術大学教授の北澤憲昭氏を講師にお迎えし、「近代日本美術史における棟方志功」と題して記念講演会を開催した。

日時：5月14日（土）13:30 - 15:00

場所：シアター

参加者：36名

3. 講演会「棟方志功と民芸」

青森県民芸協会会長會田秀明氏を講師にお迎えし、「棟方志功と民芸」と題して講演会を開催した。

日時：5月15日（日）13:30 - 15:00

場所：ワークショップA

参加者：38名

4. お茶会「棟方志功流 お茶のたのしみ」

無類の抹茶好きだった棟方志功にちなみ、志功の活力の源だった抹茶を志功のお孫様である石井頼子氏と共に、志功が好んだ茶碗、志功ゆかりのお菓子と共に、棟方家の茶の間で気楽なお茶を楽しむ企画を開催した。

日時：4月30日（土）10:00 - 12:00、14:00 - 16:00

場所：ワークショップA

参加者：午前14名、午後17名





展示風景

棟方志功は青森市の鍛冶屋の息子として生まれ、「わだばゴッホになる」の言葉に象徴されるように西洋近代美術にあこがれ、画家を志す。油彩画から、ゴッホが傾倒した浮世絵版画に代表される日本の木版画へと制作の核を移した棟方は、柳宗悦と彼の主導した民芸運動との出会いにより、体内深くに流れる縄文の血を呼び起こされ、日本の伝統、さらには故郷の東北、青森の民俗的伝統をふまえた作品をつくるようになっていった。戦後の棟方はヴェネツィア・ビエンナーレでのグランプリを契機に世界のムナカタとして欧米諸国を歴訪し、晩年は再び故郷青森を題材に、自らのルーツと向き合った。

本展では、西洋近代美術の受容、日本美術の伝統、東北の民俗的文化を強烈な個性のうちに融合させた棟方志功の芸術を代表的な作品を網羅して紹介するとともに、その精神的なルーツである東北の民芸や民俗文化、および彼が吸収し、影響を受けた同時代の芸術家たちの作品を併せて紹介し、現代における「世界のムナカタ」の意義を考察した。

開催にあたり、棟方志功記念館、日本民藝館、棟方志功のご遺族などの協力を得、代表的な棟方志功の作品を網羅したのみならず、同時代の日本の近代洋画や棟方に影響をあたえたピカソの作品などを各地の美術館やコレクターから借用して展示した本展は、青森県立美術館の広大な展示室を活用し、青森県立美術館でなくては見ることのできない棟方志功展として、広く好評をもってむかえられた。とくに棟方の最大の木版画『大世界の柵』2点組をはじめて上下になるかたちで展示室Cの広大な壁面に展示した効果は極めて高く、棟方の作品を見慣れているような観客にたいしても大きな感銘をあたえた。当初より、棟方を見慣れている県民に対して訴求力がたりないのではないかと懸念されたが、中盤から、この『大世界の柵』の展示を広報の前面に押し出したことにより、県民の観覧者も増加したと考えられる。シンポジウム、講演会、常設展での棟方志功のデザインの仕事や、酸ヶ湯・椿館・蕨温泉の協力による三湯仏の展示などの関連展示の評判もよく、さらに終盤に青森市の主催でシアターで開催された「棟方志功サミット」の成功もあり、あらためて青森が生んだ唯一無二の芸術家としての棟方志功の意義を県民に広く示すことができた展覧会となった。

出品作品

第1章 フはゴッホになるっ ～棟方志功前夜 東京と青森 の近代美術

1 白樺第12巻2月号 1921.2.3 × 15.0 書籍 青森県近代文学館	7 岸田劉生 《天地創造》より「慾望」 1914 銅版・紙 12.7 × 12.6 額装 東京都現代美術館	14 カール・シュミット＝ロットルフ 海辺の嘆き 1914 木版・紙 39.5 × 49.8 額装 青森県立美術館	21 棟方志功 八甲田山麓図 1924 油彩・板 23.5 × 33.0 額装 青森県立美術館
2 フィンセント・ファン・ゴッホの《花瓶の5 本のひまわり》複製画 額装 兵庫県立美術館	8 岸田劉生 《天地創造》より「怒れるアダム」 1914 銅版・紙 12.6 × 12.5 額装 東京都現代美術館	15 中村彝 静物 1912 油彩・キャンバス 45.4 × 37.6 額装 個人	22 棟方志功 初冬風景図 1924 油彩・板 23.0 × 32.0 額装 棟方志功記念館
3 棟方志功 太陽花 紅図 1972 油彩・キャンバス 53.0 × 45.5 額装 棟方志功記念館	9 岸田劉生 《天地創造》より「石を噛む人」 1914 銅版・紙 12.6 × 12.9 額装 東京都現代美術館	16 中村彝 大島風景 1914-15 油彩・キャンバス 59.5 × 59.5 額装 東京国立近代美術館	23 棟方志功 雪国風景図 1924 油彩・板 23.0 × 32.0 額装 青森県立美術館
4 中村彝 向日葵 1916 油彩・板 33.0 × 24.0 額装 個人	10 マックス・クリンガー 《ある愛》より「献辞」 1887 銅版・紙 42.4 × 32.5 額装 青森県立美術館	17 岸田劉生 B.L.の肖像（バーナード・リーチ像） 1913 油彩・キャンバス 61.5 × 46.0 額装 東京国立近代美術館	24 棟方志功 善知鳥神社小品 1928 油彩・紙 24.0 × 32.5 額装 棟方志功記念館寄託
5 ウィリアム・ブレイク 《ヨブ記》より「余は若し汝は老いたり」 1825 銅版・紙 20.9 × 16.1 額装 青森県立美術館	11 マックス・クリンガー 《ある愛》より「公園で」 1887 銅版・紙 41.3 × 24.8 額装 青森県立美術館	18 萬鉄五郎 太陽の麦畑 1913年頃 油彩・板 23.4 × 33.0 額装 東京国立近代美術館	25 棟方志功 雑園習作 1928 油彩・キャンバス 38.0 × 45.5 額装 棟方志功記念館
6 ウィリアム・ブレイク 《ヨブ記》より「汝は愚者の審判を終われり」 1825 銅版・紙 20.3 × 16.2 額装 青森県立美術館	12 マックス・クリンガー 《死について 第二部》より「天才（芸術家）」 1898-1910 銅版・紙 41.9 × 31.6 額装 青森県立美術館	19 萬鉄五郎 女の顔（ボアの女） 1912 油彩・キャンバス 80.3 × 65.2 額装 岩手県立美術館	26 梅原龍三郎 薔薇図 1940 油彩・岩絵具・紙 65.4 × 39.5 額装 東京国立近代美術館
	13 マックス・クリンガー 《死について 第二部》より「美に」 1898-1910 銅版・紙 37.7 × 27.6 額装 青森県立美術館	20 萬鉄五郎 口髭のある自画像 1914 油彩・キャンバス 45.8 × 33.5 額装 萬鉄五郎記念美術館	27 棟方志功 バラ花卉図 1941 油彩・キャンバス 59.0 × 49.0 額装 棟方志功記念館

28
梅原龍三郎
桃太郎進軍図
水彩・紙
31.7 × 26.5
額装
棟方志功記念館

29
木谷末太郎
十和田御前ヶ浜
1918
油彩・キャンバス
33.5 × 45.5
額装
青森県立美術館

30
橋本花
卓上静物
1928
油彩・キャンバス
90.9 × 116.7
額装
青森県立美術館

31
今純三
バラライカ
1919
油彩・キャンバス
89.0 × 71.0
額装
弘前市立博物館

32
棟方志功
バラライカの女の柵
1962 (1974 摺)
木版・紙
23.3 × 40.0
額装
棟方志功記念館

33
松木満史
裸婦
1935
油彩・板
24.0 × 33.0
額装
青森県立美術館

34
松木満史
少女像
1936
油彩・キャンバス
72.5 × 60.5
額装
青森県立美術館

35
棟方志功
誓刻の柵
1967 (1974 摺)
木版・紙
40.7 × 23.0
額装
棟方志功記念館

36
棟方志功
東京弁穢古の図
1961
墨画・紙
18.0 × 24.0
額装
棟方志功記念館

37
今純三
棟方志功像
1936
銅版・紙
25.0 × 16.2
額装
青森県立郷土館

38
下澤木鉢郎
雑華堂像
1943
多色木版・紙
59.0 × 49.5
額装
青森県立美術館

39
関野準一郎
棟方志功像
1968
多色木版・紙
65.0 × 53.0
額装
青森県立美術館

40
関野準一郎
今純三とそのアトリエ
1975
多色木版・紙
45.0 × 33.0
額装
青森県立美術館

41
今純三
市日
1936
銅版・紙
24.1 × 34.2
額装
青森県立美術館

42
関野準一郎
堤川工事場
1938
銅版・紙
35.8 × 46.5
額装
青森県立美術館

43
川上澄生
うなち
1923
木版・紙
18.0 × 12.0
額装
栃木県立美術館

44
川上澄生
顔
1926
多色木版・紙
18.0 × 24.5
額装
栃木県立美術館

45
川上澄生
初夏の風
1926
多色木版・紙
22.8 × 35.0
額装
栃木県立美術館

46
川上澄生
異国春光 横浜山手之図 (川上澄生創作版画
輯 I)
1924
多色木版・紙
22.6 × 31.8
額装
栃木県立美術館

47
川上澄生
水妖精
1925 年頃
木版・紙
18.0 × 25.5
額装
栃木県立美術館

48
川上澄生
求愛
1926
木版・紙
14.0 × 13.8
額装
栃木県立美術館

49
棟方志功
星座の花嫁 ① 貴女等彗星を見る
1928
多色木版・紙
15.4 × 16.5
額装
棟方志功記念館

棟方志功
星座の花嫁 ② 貴女等聖堂を出づる
1928
多色木版・紙
17.0 × 10.8
額装
棟方志功記念館

棟方志功
星座の花嫁 ③ 聖堂に並ぶ三貴女
1928
多色木版・紙
8.8 × 19.5
額装
棟方志功記念館

棟方志功
星座の花嫁 ④ 星座の絵
1928
多色木版・紙
17.9 × 18.2
額装
棟方志功記念館

棟方志功
星座の花嫁 ⑤ 花か蝶々か
1929
多色木版・紙
21.3 × 21.5
額装
棟方志功記念館

棟方志功
星座の花嫁 ⑥ 貴婦人と蝶々
1929
多色木版・紙
9.7 × 18.2
額装
棟方志功記念館

棟方志功
星座の花嫁 ⑦ 貴女等雲を引く
1930
多色木版・紙
13.0 × 18.0
額装
棟方志功記念館

棟方志功
星座の花嫁 ⑧ ベチレヘムに聖星を観る
1930
多色木版・紙
15.8 × 22.0
額装
棟方志功記念館

棟方志功 星座の花嫁 ㊟貴女行路 1930 多色木版・紙 13.0 × 18.0 額装 棟方志功記念館	55 棟方志功 桃真盛り 1933 多色木版・紙 左：16.8 × 23.1、右：16.8 × 23.1 額装 青森県立美術館	62 棟方志功 東西南北頌 1939 木版・紙 各 119.2 × 41.0 屏風四曲一隻 棟方志功記念館	69 柳宗悦 見ルヤ君・・・ 墨・紙 32.5 × 44.5 軸装 棟方志功記念館
棟方志功 星座の花嫁 ㊟蔵書票 1930 多色木版・紙 6.2 × 8.6 額装 棟方志功記念館	56 棟方志功 雑華山房主人像図 1942 油彩・板 31.5 × 24.0 額装 青森県立美術館	63 棟方志功 門舞頌 1941 木版・紙 各 119.2 × 41.0 屏風四曲一双 棟方志功記念館	70 柳宗悦 ユルシマセハダカ 墨・紙 36.0 × 46.5 軸装 棟方志功記念館
50 棟方志功 「シラノ」劇版画 1930 多色木版・紙 18.0 × 11.8 まくり 青森県立美術館	第2章 民藝運動とともに ～帥・柳宗悦のもとで	64 棟方志功 般若心経版画欄 1941 木版・紙 各 25.0 × 35.0 額装 13 面 棟方志功記念館	71 河井寛次郎 辰砂碗 銘「愛染丸」 陶器 径 13.5 × 高 9.5 棟方志功記念館
51 棟方志功 歌舞伎版画動進帳 1931 多色木版・紙 13.5 × 9.0 まくり 青森県立美術館	57 棟方志功 萬染譜 1935 木版・紙 各 42.9 × 39.6 額装 6 面 棟方志功記念館	65 棟方志功 柳仰板画欄 1951 木版・紙 116.3 × 291 屏風 日本民藝館	72 河井寛次郎 白釉草花紋碗 陶器 径 12.0 × 高 10.0 棟方志功記念館
52 棟方志功 十和田・奥入瀬 C 1932 多色木版・紙 12.0 × 16.0 額装 棟方志功記念館	58 棟方志功 大和しめし 1936 木版・紙 各 26.5 × (21.3 ~ 41.7) 巻物 (双巻) 青森県立美術館	66 棟方志功 幾利壽當の柵 1956 (1958 摺) 木版・紙 60.5 × 27.5 軸装 棟方志功記念館	73 河井寛次郎 練上碗 1966 陶器 径 16.8 × 高 8.0 棟方志功記念館
53 棟方志功 亀田・長谷川邸の内園 1932 多色木版・紙 18.1 × 21.0 額装 棟方志功記念館	59 棟方志功 華巖譜 1936 (1938 摺り) 木版・紙 各 29.0 × 37.5 額装 23 面 棟方志功記念館	67 棟方志功 慈潤 1945 墨・紙 138.0 × 67.5 軸装 日本民藝館	74 河井寛次郎 辰砂花紋茶碗 陶器 径 10.8 × 高 9.5 棟方志功記念館
54 棟方志功 亀田・長谷川邸の裏庭 1932 多色木版・紙 16.0 × 21.4 額装 棟方志功記念館	60 棟方志功 東北経鬼門譜 1937 木版・紙 183.0 × 1028.0 屏風六曲一双 日本民藝館	68 柳宗悦 慈潤記譜々書 墨・紙 16.0 × 41.3 軸装 棟方志功記念館	75 濱田庄司 地掛鉄絵茶碗 陶器 径 15.0 × 高 8.0 棟方志功記念館
	61 棟方志功 勝鬘譜善知鳥版画曼荼羅 1938 木版・紙 各 24.0 × 28.0 額装 青森県立美術館	76 濱田庄司 塩釉唐黍文茶碗 陶器 径 13.3 × 高 8.7 棟方志功記念館	77 濱田庄司 楽茶碗 銘「道祖土オドシ」 1968 陶器 径 14.0 × 高 9.5 棟方志功記念館

78
バーナード・リーチ
益子窯花瓶
陶器
径 21.8 × 高 32.2
青森県立美術館

79
バーナード・リーチ
黒釉縮手蓋壺
陶器
径 28.1 × 高 25.2
青森県立美術館

第3章 傑作の森～戦争、疎開 そして世界へ

80
棟方志功
雨ニモマケズ板画欄
1944
木版・紙
各 17.0 × 26.7
巻物
棟方志功記念館

81
棟方志功
瞞着川板画卷
1950
木版・紙
書籍
日本民藝館

82
棟方志功
火の願ひ
1948
木版・彩色・紙
25.8 × 18.5
書籍
青森県立美術館

83
棟方志功
女人観世音板画卷
1949
木版・紙
各 29.5 × 45.0
屏風四曲一隻
棟方志功記念館

84
棟方志功
道祖土頌
1950
木版・紙
各 60.5 × 27.0
屏風二曲一隻
棟方志功記念館

85
棟方志功
運命頌
1951
木版・紙
各 87.5 × 88.5
額装 4 面
棟方志功記念館

86
棟方志功
挿頭花板画集
1948
木版・彩色・紙
各 22.5 × 17.0
額装
青森県立美術館

87
棟方志功
不來方板画欄
1952
木版・紙
22.0 × 29.5
額装 2 面
棟方志功記念館

88
棟方志功
御三尊像図
1950
彩色・板
(左) 167.0 × 88.0 (中) 166.6 × 87.3
(右) 166.6 × 93.6
額装 3 面
青森県立美術館

89
棟方志功
天駆妃妙薬青赫図
1950 年代
彩色・紙
各 41.0 × 65.0
額装 2 点
青森県立美術館

90
棟方志功
遼返板画欄
1955
木版・紙
130.2 × 154.5
額装
棟方志功記念館

91
棟方志功
華狩頌
1954
木版・紙
132.0 × 158.0
額装
青森市 (棟方志功記念館寄託)

第4章 世界のムナカタ ヴェネツィア・ビエンナーレ と晩年

92
棟方志功
angeles (A)
1953
木版・紙
121.1 × 122.2
屏風二曲一隻
青森県立美術館

93
棟方志功
angeles (B)
1953
木版・紙
121.1 × 122.2
屏風二曲一隻
青森県立美術館

94
棟方志功
二菩薩釈迦十大弟子
1939 (1948 改刻・1957 摺)
木版・紙
各 101.5 × 38.0
屏風六曲一双
棟方志功記念館

95
棟方志功
十二人の佛者達 B
1945
木版・彩色・紙
155.0 × 326.0
屏風六曲一隻
東京富士美術館

96
棟方志功
大蔵経板画欄 (湧然する女者達々)
1953
紙・木版
各 103.5 × 92.0
軸装双幅
日本民藝館

97
棟方志功
宇宙頌
1949 (1953 改刻・1959 摺)
木版・彩色・紙
各 106.2 × 99.8
軸装双幅
棟方志功記念館

98
棟方志功
柳緑花紅頌
1955
木版・紙
46.5 × 46.7
屏風六曲一隻
棟方志功記念館

99
須田国太郎
鵜
1952
油彩・キャンバス
71.5 × 90.0
額装
京都国立近代美術館

100
須田国太郎
海亀
1940
油彩・キャンバス
71.5 × 115.0
額装
京都国立近代美術館

101
脇田和
慈鳥
1953
油彩・キャンバス
162.1 × 112.1
額装
神奈川県立近代美術館

102
山口長男
作品 (かたち)
1954
油彩・合板
185.0 × 182.0
額装
東京都現代美術館

103
山本豊市
エチュード B
乾漆
75.5 × 21.0 × 32.0
立体
札幌芸術の森美術館

104
植木茂
作品
1954
木
63.5 × 27.0 × 19.0
額装
東京国立近代美術館

105
棟方志功
ハドソン河自板像の欄
1959
木版・紙
40.3 × 30.0
額装
棟方志功記念館

106 棟方志功 ミシシッピー河の自板像の柵 1965 (1971 摺) 多色木版・彩色・紙 29.3 × 25.5 額装 棟方志功記念館	113 バプロ・ピカソ 347 シリーズより No.262 1968 銅版・紙 26.7 × 21.0 額装 青森県立美術館	120 棟方志功 大印度彩面図 1972 油彩・キャンバス 33.3 × 24.2 額装 棟方志功記念館	127 棟方志功 谷崎歌々板画柵 1956 木版・彩色・紙 各 33.4×31.8 屏風六曲一隻 棟方志功記念館
107 棟方志功 ホイットマン詩集抜粋の柵 1959 木版・彩色・紙 各 30.5 × 29.5 額装 9 面 棟方志功記念館	114 棟方志功 津軽海峡の柵 1965 木版・紙 103.6 × 129.0 パネル装 棟方志功記念館	121 棟方志功 大印度厩濃図 1972 油彩・キャンバス 45.5 × 53.0 額装 棟方志功記念館	128 棟方志功 鍵板画柵 1956 木版・紙 6.7 × 22.4 / 13.1 × 16.7 屏風二曲一隻 棟方志功記念館
108 棟方志功 貝族の柵 1963 木版・紙 108.5 × 141.0 額装 棟方志功記念館	115 棟方志功 手に負う者達々の柵 1968 木版・紙 141.3 × 218.0 額装 棟方志功記念館	122 棟方志功 大印度旭河図 1972 油彩・キャンバス 41.0 × 31.8 額装 棟方志功記念館	(参考資料) 谷崎・棟方書簡 1956 個人、青森県近代文学館
109 棟方志功 摩奈那発門多に建立すの柵 1959 木版・紙 109.5 × 148.5 額装 青森県立美術館	116 棟方志功 大世界の柵 1963・1969 木版・紙 各 175.4 × 1284.0 パネル装 2 面 棟方志功記念館	123 棟方志功 太陽花 黄図 1972 油彩・キャンバス 65.2 × 53.0 額装 棟方志功記念館	129 棟方志功 瘋癲老人日記板画柵屏風 1962 木版・紙 / 木版・彩色・紙 5.9 × 5.3 ~ 25.2 × 34.2 屏風二曲一双 青森県立美術館
110 バプロ・ピカソ ミノトーロマシー 1935 銅版・紙 49.7 × 69.3 額装 東京都現代美術館	117 棟方志功 歓喜自板像・第九としてもの柵 1963 (1974 摺) 木版・彩色・紙 47.7 × 37.5 額装 棟方志功記念館	124 棟方志功 太陽花 青図 1972 油彩・キャンバス 65.2 × 53.0 額装 棟方志功記念館	130 棟方志功 緋薔薇頰 1956 (1958 摺) 木版・彩色・紙 各 20.0 × 15.0 額装 棟方志功記念館
111 バプロ・ピカソ 若い女の肖像 (クラナッハによる) 1958 リノカット・紙 64.0 × 53.4 額装 青森県立美術館	118 棟方志功 沢瀉風の柵 1970 木版・彩色・紙 20.1 × 14.4 額装 棟方志功記念館	125 棟方志功 厩濃の柵 1972 木版・紙 45.0 × 687.0 屏風八曲一双 棟方志功記念館	131 棟方志功 薔薇妃の柵 1957 木版・彩色・紙 23.2 × 25.5 額装 棟方志功記念館
112 バプロ・ピカソ 肘かけ椅子に坐る裸婦 1964 油彩・キャンバス 146.0 × 97.0 額装 国立国際美術館	119 棟方志功 大印度の花の柵 1972 木版・紙 36.4 × 31.0 額装 青森県立美術館	126 棟方志功 流離抄 1953 木版・彩色・紙 各 31.0 × 26.5 屏風四曲一双 棟方志功記念館	132 棟方志功 あかえくぼの柵 1959 木版・彩色・紙 23.0 × 25.5 額装 棟方志功記念館

第5章 文学と女性像～魔性と仏性

133
棟方志功
弁財天妃の柵
1965 (1974 摺)
木版・彩色・紙
25.5 × 19.8
額装
棟方志功記念館

134
棟方志功
門世の柵
1968 (1970 摺)
木版・彩色・紙
34.3 × 29.0
額装
棟方志功記念館

第6章 青森の子・棟方志功 ～故郷と父母への祈り

135
棟方志功
青森の子紋 大皿
1953
陶器
径 64.0 × 高 10.0
青森県立美術館

136
棟方志功
AOMORI NO KO
陶器
径 41.3 × 高 7.8
棟方志功記念館

137
棟方志功
青森ねぶた図
1960
彩色・紙
63.0 × 69.0
額装
棟方志功記念館

138
棟方志功
青森祢舞多図
1970
彩色・紙
35.0 × 45.5
額装
棟方志功記念館

139
棟方志功
青森風絵
1971
彩色・紙
各 60.0 × 43.2
額装 2 面
棟方志功記念館

140
棟方志功
フヂヤのオンチャのネプタ図
1972
彩色・紙
49.5 × 35.0
額装
棟方志功記念館

141
棟方志功
禰舞多運行連々絵巻
1974
彩色・紙
34.3 × 1721.0
巻物
棟方志功記念館

142
棟方志功
鷲囃の柵
1960
木版・紙
135.0 × 255.0
額装
青森県立美術館

143
棟方志功
花矢の柵
1961
木版・彩色・紙
215.0 × 688.0
パネル装
青森県立美術館

144
棟方志功
津軽三味線の柵
1967
木版・紙
各 55.0 × 32.3
額装
棟方志功記念館

145
棟方志功
龍鯉
1968
三味線に墨
三味線
棟方志功記念館寄託

146
棟方志功
恐山の柵
1963 (1964 摺)
木版・彩色・紙
70.2 × 91.0
額装
棟方志功記念館

147
棟方志功
道標の柵
1963 (1964 改刻・1964 摺)
木版・紙
46.8 × 76.7
額装
棟方志功記念館

148
棟方志功
飛神 (御志羅) の柵
1968
木版・彩色・紙
105.0 × 140.0
額装
棟方志功記念館

149
棟方志功
東北風の柵
1969
木版・彩色・紙
65.5 × 86.0
額装
棟方志功記念館

150
棟方志功
捨身飼虎の柵
1974
木版・金彩・紙
137.0 × 111.0
額装
棟方志功記念館

151
棟方志功
不盡の柵
1974
木版・紙
21.0 × 29.8
額装
棟方志功記念館

第7章 アニミズムと縄文 ～棟方志功の東北

152
棟方志功
夢応の鯉魚版画柵
1940
木版・紙
各 31.8 × 31.8
屏風四曲一双
棟方志功記念館

153
棟方志功
なめとこ山の熊版画
1936 頃
木版・紙
30.1 × 39.1
額装 8 面
棟方志功記念館

154
棟方志功
狩漁の柵
1960
木版・紙
147.0 × 108.0
軸装
棟方志功記念館

155
棟方志功
群生の柵
1957 (1960 摺)
木版・紙
各 140.8 × 373.0
屏風八曲一双
棟方志功記念館

縄文・民俗

156
深鉢形土器 五戸町
縄文前期
高 39.3
青森県立郷土館風韻堂コレクション

157
深鉢形土器 三戸町泉山遺跡
縄文中期
高 31.2
青森県立郷土館風韻堂コレクション

158
台付鉢形土器 青森市三内丸山遺跡
縄文中期
高 15.3
青森県立郷土館風韻堂コレクション

159
鉢形土器 青森市宮田遺跡
縄文晩期
高 18.0
青森県立郷土館風韻堂コレクション

160
板状土偶 青森市三内丸山遺跡
縄文中期
高 25.4
青森県立郷土館風韻堂コレクション

161
土偶頭部 八戸市是川城内
縄文晩期
高 4.7
青森県立郷土館風韻堂コレクション

162
土偶 木造町亀ヶ岡
縄文晩期
高 6.4
青森県立郷土館風韻堂コレクション

163

岩版 青森市宮田

縄文晩期

長 11.4

青森県立郷土館風韻堂コレクション

164

土版 田子町

縄文晩期

長 11.6

青森県立郷土館風韻堂コレクション

165

オシラサマ

木・布

高 108.0

青森県立郷土館

166

オシラサマ

木・布

高 93.0

青

掲載記事

東奥日報

2016年3月5日
社告

2016年4月12日
志功 尽きない魅力 16日から代表作展示

2016年4月16日
志功作品 網羅150点 県美きょうから回顧展

2016年4月30日
三湯仏 初顔合わせ 3温泉所蔵県美で展示

2016年5月7日
青森愛し続けた棟方志功 企画展関連シンポ

2016年5月12日
全国の包装紙、紙袋、装丁本 志功のデザイン業に注目

2016年5月14日
「わだばゴッホになる」生涯思い続けた向日葵

2016年5月14日
「ピカソ作品の影響」世界最大級の木版画生む

2016年5月17日
「谷崎潤一郎との出会い」女性像に新たな表現

2016年5月18日
「世界のムナカタ」の傑作 ヴェネツィアの展示を再現

2016年5月19日
自作に「青森の子」故郷への思い 年々強く

2016年5月20日
志功展1万人突破

2016年6月3日
志功展1万5千人突破

東奥日報 Juni Juni

2016年5月24日
青森出身 志功 迫力の版画を見て

陸奥新報

2016年4月3日
志功の代表作網羅 県美10周年記念第一弾

2016年4月28日
棟方志功を特集「あおり草子」236号刊行

2016年5月30日
志功作品を街づくりに ゆかりの5自治体初のサミット

毎日新聞

2016年4月5日
初の「棟方志功サミット」ゆかりの4市区長が集結

2016年4月17日
棟方志功とその時代 県美10周年記念展開幕

2016年4月22日
志功ゆかりの杉並区も参加 棟方サミット

河北新報

2016年4月17日
世界の「志功」に迫る 開館10周年企画展が開幕

北鹿新聞

2016年4月17日
情報ステーションに棟方展開催記事

信濃毎日新聞

2016年5月20日
作風変化 棟方志功の自在さ

新潟日報

2016年5月21日
変幻自在な作風紹介

愛媛新聞

2016年5月22日
棟方志功 変幻自在

大阪日日新聞

2016年5月22日
棟方志功変幻自在さ

福島民友新聞

2016年5月23日
棟方を刺激 同時代の芸術

山形新聞

2016年5月23日
変幻自在の棟方志功

宮崎日日新聞

2016年5月23日
棟方志功の変遷紹介

中国新聞

2016年5月24日
棟方志功 変幻自在の創作

大分合同新聞

2016年5月24日
変幻自在の作風で飛躍

熊本日日新聞

2016年5月25日
多様な刺激で作風変化

茨城新聞

2016年5月26日
創作の変遷紹介 棟方志功変幻自在さ

佐賀新聞

2016年5月27日
型つくらず変幻自在に

秋田さきがけ

2016年5月27日
変幻自在の過程追う

福島民報

2016年5月28日
刺激受け変幻自在に

改組 新 第2回 日展 青森展

開催概要

会期：2016年6月18日（土）－2016年7月10日（日）
主催：公益社団法人日展、日展青森展実行委員会（東奥日報社、青森放送、青森テレビ、青森朝日放送、青森県）
共催：東奥日報文化財団
特別協賛：青森銀行、みちのく銀行、青い森信用金庫、東北電力青森支店、三八五流通グループ
協賛：カクヒログループ、吉田産業、イマジン、東洋建物管理
特別協力：青い森鉄道、弘南バス
後援：青森県教育委員会、青森県観光連盟、青森県商工会議所連合会、NHK青森放送局、エフエム青森、青森ケーブルテレビ、岩手日報社、秋田魁新報社、北海道新聞函館支社

観覧料：

一般 1,000円（前売券800円）
高大生 500円（前売なし）
中学生以下 無料
※団体料金（20人以上）一般800円
高大生 400円（引率者800円）
※心身に障害のある方と付添者1名は無料
※小、中学生の団体鑑賞は引率者を含め無料（事前予約必要）

入場者数

19,094人

日展は、1907年、当時の文部省主催による「第一回美術展覧会」の流れを受け継いでいる展覧会として、棟方志功をはじめ、多くの青森県出身の作家にとっても、中央美術界への登竜門となっている展覧会で、日本の美術界を代表する巨匠や、第一線で意欲的に活躍されている中堅から新人に至るまで、幅広い世代の作品を擁する一大総合美術展として、多くの皆様に愛されている展覧会である。

本展覧会は、青森県立美術館開館10周年を記念し、改組新第2回日展の地方巡回展として開催したもので、日本画61点、洋画61点、彫刻41点、工芸美術41点、書42点、計246点の基本選定作品に本県関係を加えた約270点を展示した。なお、本県での日展開催は、平成25年以來3年ぶり4回目で、青森市では初の開催となった。



ポスター

出品作品

日本画 (61点)

三輪晃久
山河遙然
京都府

渡辺信喜
夏草
京都府

河村源三
無月
京都府

長谷川雅也
漏刻
京都府

諸星美喜
るろう
岡山県

中村賢次
煙籟
熊本県

水野収
おばあちゃん
京都府

澤野慎平
仰
京都府

長谷川喜久
視ル・聞ク・言ウ
岐阜県

中村徹
月、浮かぶ
石川県

能島浜江
物語の森
神奈川県

米倉正美
Sound
神奈川県

池田道夫
比叡山
京都府

森脇正人
無畏
東京都

大塚明
暁韻
滋賀県

福本達雄
雨上る
京都府

岡村倫行
影向
京都府

山崎隆夫
爽晨
京都府

土屋禮一
画家の空
東京都

鈴木竹柏
春陽
神奈川県

中路融人
錦秋の通天橋
京都府

福田千恵
箏
東京都

村居正之
耀く
大阪府

能島和明
知里幸恵像 (アイヌ神謡集)
神奈川県

佐々木曜
花野
東京都

川田恭子
神迎
東京都

加藤晋
むかし・むかしの今
埼玉県

北村恵美子
うたかた
滋賀県

藤島大千
待つ
茨城県

橋本正弘
発電所跡
徳島県

亀山祐介
Maze
埼玉県

古澤洋子
地球に挑む「ヒト」
石川県

大西守博
そばにいるよ
大阪府

森桃子
樹々を望む
京都府

田島奈須美
不思議の国のアリス
神奈川県

三上友子
日々
愛知県

朝倉隆文
相補性ノ時間ノ救済
神奈川県

林秀樹
海風
京都府

佐藤俊介
marginal
石川県

岡本明久
稽古
千葉県

安田敦夫
そののち
神奈川県

田村紀美枝
時
広島県

久米伴香
そよ風
兵庫県

玉置里美
潮だまり
岡山県

宮本脩子
陽光さす
愛知県

福田浩之
うつろう
京都府

池内璋美
遠雷
京都府

吉田千恵
rain
愛知県

中馬由輔
platform
京都府

丸山勉
爽韻
京都府

松崎十朗
静かな時
東京都

倉元敏見
循環
京都府

三浦弘
Berry Pancakes
東京都

鵜飼雅樹
ソファ
滋賀県

時田麻弥
蓮函
千葉県

中国ゆう子
時を待つ色
熊本県

西崎節子
スピダル村にサーカスが来た
岡山県

林真
喝采
岐阜県

石田育代
囁き
京都府

木村友彦
時の訪問者
岐阜県

棚町宣弘
分岐路
神奈川県

洋画 (73点)

一の瀬洋
冬の高原
神奈川県

立花博 海風 2015 岡山県	児島新太郎 颯々 石川県	町田博文 ボヘミアの冬 茨城県	佐藤哲 マイルスによせて 静岡県
山田郁子 秋日和 (与論島の菊お婆) 埼玉県	阪脇郁子 菊川太夫 京都府	樋口洋 流水遙か 神奈川県	中山忠彦 関秀書家K先生像 千葉県
吉引邦子 輪 大阪府	児玉健二 薄羽根 京都府	湯山俊久 秋韻 神奈川県	武藤初雄 湾岸にて (泉大津) 大阪府
丸山勉 フォレスト 東京都	根岸右司 北海の岬 埼玉県	難波滋 逍遙・波の華 岡山県	小灘一紀 沼河比売命 (古事記より) 大阪府
小川尊一 野薔薇咲く 岡山県	塗師祥一郎 山麓雪景 埼玉県	石田宗之 諸功德密蔵 岡山県	桑原富一 昼下がり 東京都
天野富美男 働く人 兵庫県	田代利夫 港の風景 佐賀県	稲葉徹應 祝された情景 岐阜県	斎藤秀夫 ルドベキアの咲く庭で 東京都
鈴木實 一隅 東京都	岡本猛 バタフライ 佐賀県	池田良則 OKINAWA 京都府	三沢忠 妙高残雪 東京都
渡邊裕公 横臥韶光 愛媛県	北本雅己 クアトロ 島根県	西田伸一 白い秋 石川県	金山桂子 古い薬瓶のある静物 東京都
倉林愛二郎 刻・魂の宿る所 埼玉県	井上武 都市の景 千葉県	三原捷宏 海景・潮騒 広島県	寺坂公雄 鼎立 秋高し 東京都
伊藤晴子 合わせ鏡 東京都	ナカジマカツ 羽化 千葉県	寺久保文宣 黄色の部屋 埼玉県	岡田征彦 コスチューム 2015 福岡県
田中里奈 凝視 神奈川県	福井欧夏 葵の庭 東京都	星川登美子 踊る (ゲラゲッツァより) 埼玉県	李曉剛 潮 兵庫県
和田貢 幕間 広島県	佐藤龍人 画室 東京都	武田敏雄 羽黒山五重塔 山形県	長谷川竹 古い港・暑い日 愛知県
佐々波啓子 雲中供養菩薩より「平安の響」 石川県	松野行 峠を行く 栃木県	村田省蔵 新涼 神奈川県	藤森兼明 アドレージョン パラ ドオーロ 愛知県
福田あさ子 瞬く 栃木県	伊藤寿雄 母の像 愛知県	桐生照子 温室のある果樹園 神奈川県	張山田鶴子 慈愛 青森県
日野功 川沿いに暮らす 愛媛県	橋本一貫 時 広島県	成田禎介 山間の連湖 神奈川県	三橋文彦 野の花の精Ⅱ 青森県
佐藤祐治 湖水眺望 神奈川県	柴田仁士 授乳の聖母 愛知県	高梨芳実 窓辺の人 静岡県	横山哲則 夏のアトリエ 青森県

秋山範子
浅き春
青森県

岩淵一憲
弘前城光景
青森県

丸井洋子
パーミヤンの仏陀
青森県

吉田幸子
黄色いリンゴ
青森県

杉山牧人
遠い潮騒
青森県

杉山淑子
集い
青森県

高崎楯子
運転室にて
茨城県

山下英夫
画家とその妻
埼玉県

彫刻 (42点)

山下清
日・月の予感—。
愛知県

山本眞輔
平和への折り
愛知県

石田陽介
blowin' in the breeze
石川県

石崎義弘
娘がいやいやを覚えた
茨城県

鈴木徹男
道標
茨城県

能島征二
エルビス (希望)
茨城県

近藤哲夫
土と生きる
愛媛県

上田久利
風のおと「遠雷」
岡山県

蛭田二郎
長い髪のY子
岡山県

前田真里
風ひかる今
鹿児島県

楠元香代子
施無畏の人
鹿児島県

中村晋也
天璋院 (篤姫)
鹿児島県

圓鐔元規
想いを込めて
神奈川県

神戸峰男
母
岐阜県

江里敏明
月光
京都府

谷口淳一
この手の先にあるものは
京都府

宮瀬富之
気魂の球人 HIROKI・KURODA
京都府

勝野眞言
標
熊本県

西村祐一
花が… (V)
埼玉県

寺山三佳
どこまでも…
埼玉県

伊庭照実
農
滋賀県

宮坂慎司
yocto-o
千葉県

上田ふみ
風を集めて
千葉県

柴田良貴
夕暮れの立像
千葉県

山田朝彦
朝の響き
東京都

吉岡徹
久遠の光
東京都

雨宮敬子
若き日の回想
東京都

橋本堅太郎
清新
東京都

川崎善照
涼風
東京都

川崎義昭
未来
東京都

寒河江淳二
捻
東京都

小西徳泉
堂々と'15
富山県

齋藤尤鶴
風かがやけり
富山県

熊谷喜美子
受け継がれた記録
富山県

藤原健太郎
未来への種
長崎県

佐藤敬助
さぁ、始まる！—生命の賛歌—
長崎県

牛山政幸
満
長野県

磯尾隆司
あの日
兵庫県

一锹田徹
LIFE (存在の証について)
広島県

白石隆幸
春陽
福岡県

森矢真人
雨華
山梨県

竹村松博
津軽・秋の詩
青森県

工芸 (44点)

川口満
未来∞記憶
千葉県

阿部順子
揺月其ノ式
青森県

南正剛
水裂 2015
北海道

村田好謙
彼方の光
京都府

渡辺真樹
波の幻影
青森県

貴田洋子
津軽・まほろばの飛翔
埼玉県

山本清
宙光季
富山県

高名秀人光
漲る
石川県

大西重広
水の惑星—起ち上がる文明
石川県

竹森公男
残照
長野県

木下五郎
地之祭—羅
長野県

大橋敏彦
早春 (芽生え)
愛知県

森田清照
輪廻
福井県

久保満義
回帰 2015 —Ⅲ
鹿児島県

本田宗也 舞 福岡県	今井政之 八重山のオジサン壺 京都府	土橋靖子 鈴虫 東京都	岩田海道 自然 福岡県
友定聖雄 MOONLIGHT 兵庫県	宮田亮平 月あかり 東京都	岩村節廬 荀子語 東京都	松村博峰 『列子』湯問より 和歌山県
百貫俊夫 伝説と夢物語 石川県	山岸大成 祈りの座 石川県	尾崎邑鵬 倉慶實 大阪府	日比野光鳳 新年 京都府
千田浩 BIRD「悠悠」 石川県	石川充宏 佇む王妃 高知県	吉川美恵子 春日の山 奈良県	吉川薫仙 微妙玄通 京都府
林香君 道 TAO - 無為 栃木県	尾長保 籃胎乾漆 記憶の渚 富山県	岡田直樹 酒興 大阪府	池田桂鳳 山頭火の句 京都府
原典生 天空の七宝樹林 神奈川県	吉賀將夫 萩釉陶壺「躍」 山口県	高木聖鶴 なよ竹の 岡山県	吉見靖子 大空 京都府
中村武郎 地に育つ一輪一 愛知県	桑原紀子 風紀行 京都府	寺坂昌三 鐘の音 岡山県	杭泊柏樹 麟壽 京都府
伊藤裕司 赤富士 京都府	安田佳代 神秘なる湖 滋賀県	吉澤劉石 旅懐 岐阜県	山本悠雲 妄窮 京都府
河合徳夫 牡丹 京都府	森克徳 爽気 愛知県	尾西正成 鷹を放つ 京都府	井上清雅 篆書九言二句 埼玉県
春山文典 宙の河 東京都	小西啓介 草むら 2015 石川県	中路佳保里 秋草の花 京都府	綿引滔天 不遠復 埼玉県
森野泰明 扁壺「松籟」 京都府	中村三喜雄 蕾む 東京都	真神巍堂 優曇花 京都府	永守蒼穹 われは弁慶 埼玉県
中井貞次 樹林逍遙 京都府	大樋年雄 Mother Earth 尊崇 - 2015 石川県	高木厚人 朧月夜 千葉県	新井光風 爽神 埼玉県
武腰敏昭 無鉛釉「空の王者」 石川県	徳力竜生 LAST MESSAGE 京都府	石飛博光 独楽 東京都	伊藤一翔 暮景 兵庫県
奥田小由女 天空への折り 東京都	三田村有純 黒い月輝く 埼玉県	歳森芳樹 白樂天詩 東京都	井茂圭洞 八雲立つ 兵庫県
大樋年朗 黒陶銀彩「申」天空走 石川県	書 (48点)	関根玉振 黄庭堅詩 愛知県	石澤桐雨 李賀詩 青森県
三谷吾一 黄昏 石川県	鈴木春朝 富嶽詩 東京都	榎倉香邨 春日向 兵庫県	土井汲泉 岑參詩 大阪府
	梅原清山 憑高眺遠 東京都		

一色白泉
藤克恭詩
長野県

内藤望山
満山黄紅
東京都

星弘道
闇森訓
東京都

関吾心
秋風
東京都

高木聖雨
駿歩
東京都

今村桂山
高青邱詩
福井県

黒田賢一
あしひきの
兵庫県

樽本樹邨
靈断
愛知県

浦郷綾子
初雪
青森県

對馬聖峰
劉基詩
青森県

白取波山
堀辰雄 風立ちぬ
青森県

後藤志華
小倉百人一首
青森県

穂高麗翠
春
岩手県

加藤大翔
風鈴
東京都

掲載記事

東奥日報

2016年4月28日
改組 新 第2回 日展 青森展 (社告)

2016年5月23日
美の探訪 作家の言葉 日展青森展 1
奥田小由女

2016年5月25日
美の探訪 作家の言葉 日展青森展 2
土屋禮一
美の探訪 作家の言葉 日展青森展 3
三沢 忠

2016年5月26日
美の探訪 作家の言葉 日展青森展 4
山本 眞輔

2016年5月27日
美の探訪 作家の言葉 日展青森展 5
武腰 敏昭

2016年5月30日
日展青森展 郷土作家の作品から
秋山 範子
美の探訪 作家の言葉 日展青森展 6
新井 光風

2016年5月31日
日展青森展 郷土作家の作品から
岩淵 一憲
美の探訪 作家の言葉 日展青森展 7
石澤 桐雨

2016年6月1日
日展青森展 郷土作家の作品から
杉山 牧人

2016年6月2日
美の探訪 作家の言葉 日展青森展 8
鈴木 實
日展青森展 郷土作家の作品から
杉山 淑子
美の探訪 作家の言葉 日展青森展 9
張山 田鶴子

2016年6月3日
日展青森展 郷土作家の作品から
丸井 洋子
美の探訪 作家の言葉 日展青森展 10
貴田 洋子

2016年6月4日
日展青森展 郷土作家の作品から
三橋 文彦

2016年6月6日
日展青森展 郷土作家の作品から
横山 哲則
美の探訪 作家の言葉 日展青森展 11
竹村 松博

2016年6月7日
日展青森展 郷土作家の作品から
吉田 幸子
美の探訪 作家の言葉 日展青森展 12
浦郷 綾子

2016年6月8日
日展青森展 郷土作家の作品から
阿部 順子

2016年6月9日
日展青森展 郷土作家の作品から
渡辺 真樹

2016年6月10日
特集「奥田小由女理事長に聞く」
日展青森展 郷土作家の作品から
白取 波山

2016年6月11日
日展青森展 郷土作家の作品から
後藤 志華

2016年6月14日
日展青森展 郷土作家の作品から
對馬 聖峰

2016年6月15日
日展青森展 郷土作家の作品から
高崎 楯子

2016年6月16日
日展青森展 郷土作家の作品から
山下 英夫
作品搬入 華やぐ県美 日展青森展 18日から

2016年6月17日
18日開幕前に展示物陳列指導／日展青森展

表情多彩 268点生き生き 日展青森展あす開幕
日展青森展 郷土作家の作品から
穂高 麗翠

2016年6月18日
日展青森展 きょう開幕
日展青森展 郷土作家の作品から
加藤 大翔

2016年6月19日
国内美術の粋
日展開幕 多彩な美 驚きの声

2016年6月22日
地元で特選「幸運」書家石澤さん(青森)会場へ

2016年6月25日
日展、連日にぎわい 開幕1週間 5千人突破

2016年6月26日
日本芸術院賞受賞 彫刻、工芸2作品搬入
きょうから公開

2016年6月27日
日展青森展 私の一押し①

2016年6月28日
日展青森展 私の一押し②

2016年6月29日
日展青森展 私の一押し③

2016年6月30日
修学旅行生もじっくり鑑賞

2016年6月30日
日展青森展 私の一押し④

2016年7月1日
日展青森展 私の一押し⑤

2016年7月3日
「改組新日展青森展」入場者1万人突破

2016年7月10日
日展青森展あす閉幕

2016年7月11日
最終日も大にぎわい 23日間 2万人堪能

陸奥新報

2016年6月12日
日展青森展 展覧会概要

2016年6月18日
洋画など268点 きょうから日展青森展
県美

デーリー東北

2016年6月24日
八戸の吉田さん、丸井さん 日展洋画部門
初の入選

青森EARTH2016 根と路^{みち}

開催概要

2016年7月23日(土) - 9月25日(日)

開催日数：62日

主催：青森EARTH2016展実行委員会(東奥日報社、青森朝日放送、青森県観光連盟、青森県立美術館)

協賛：株式会社ユニバース

協力：青森空港ビル株式会社、株式会社フジドリームエアラインズ、青い森鉄道株式会社、A-FACTORY、東北大学学際科学フロンティア研究所、東北大学大学院文学研究科、東北大学総合学術博物館、トモ・スズキ・ジャパン、eitoeiko、ホテル山上

後援：NHK青森放送局、青森ケーブルテレビ、エフエム青森、河北新報社、北海道新聞函館支社、青森県教育委員会

助成：平成28年度文化庁優れた現代美術の海外発信促進事業

観覧料：

一般1,500円(1,300円)、高大生1,000円(800円)

※()は前売および20名以上の団体料金

※心身に障がいのある方と付添者1名は無料

※小・中・特別支援学校の引率者が、学校教育活動として観覧する場合は無料。

※常設展観覧料を含まず。

入場者数

11,190人

関連行事

1-1. アートツアー「ジャッカ・ドフニの舟、あるいは記憶の海路 -T.Y. への手紙」

日時：8月13日(土) 10:00 - 17:00

場所：津軽半島各所

出演：今福龍太(文化人類学者、批評家)、中村達哉(ダンサー) 他

【青森県立美術館サポートシップ倶楽部協賛事業】

1-2. 講演会「半島、孤島、群島—根と路の交差点で」

日時：8月14日(日) 13:00 - 15:00

場所：スタジオ

出演：今福龍太

2. アピチャップン・ウィーラセタクン監督映画上映会

日時：9月3日(土)、4日(日) 各日10:00 - 16:00

場所：シアター

【青森県立美術館サポートシップ倶楽部協賛事業】

3. 担当学芸員によるギャラリートーク

日時：7月31日(日)、8月21日(日)、9月25日(日)

各日14:00 - 14:45

展覧会カタログ

「青森EARTH2016 根と路」

編集：奥脇嵩大

執筆：今福龍太、唄邦弘(美学者、京都精華大学非常勤講師)、奥脇嵩大

造本設計・デザイン：大西正一

発行：青森県立美術館

発行日：2016年8月31日



ポスター



展示風景



「青森EARTH」は縄文に創造の原点をたずね、青森の大地に根ざした新たなアートを探求する企画シリーズ。2016年度開催の本展は、2012年から行われてきたシリーズの集大成に位置づけられ、「根(ネ/Roots)」という語に託した文化の土着性と、「路(ミチ/Routes)」という語に託した現代アーティストの創造性の交差をもとに、青森発の、未来のための「場所」と成り得る企画展として開催した。青森の自然資料、民俗資料、国内外の現代美術作品の数々を組合せ、『浜辺にて』『シマ(島)の群像』『シマ(縞)の群像』『宇宙と山の間』『根と路』の5つの章で編まれた本展は、大地の地殻変動と縄文の昔から連続と続く人の営みとを地続きにつなぎ、人と自然が等しく息づく文化生態圏を描く試みとなった。

『浜辺にて』では、青森の大地を形成する岩石とブラジルのアーティスト、ヨナサス・デ=アンドラーデによるチリの政変と地震災害とを想像力でつなぐ映像作品、矢津吉隆による旅する家形の立体作品を展示し、人が生きるべき大地はどこにでもひらかれ得ることを考察した。『シマ(島)の群像』では、明治期青森の笹森儀助(政治家/探検家)の業績をもとに三内丸山遺跡出土資料や三瀬夏之介(日本画家)、皆川嘉左エ門(農民彫刻家)、エドワード・S.カーティス(写真家)、森永泰弘(音楽家)×dot architects(建築ユニット)、スーザン・ヒラー(アーティ

スト)の作品を展示し、芸術と土着的「空間」の様々な関係を紹介。『シマ(縞)の群像』では、奈良美智(アーティスト)による縄文資料とのコラボレーションによる立体作品やランドアートの代表作家・ロバート・スミッソンによる映像作品、クリスチャン・ヴィウム(文化人類学者/写真家)による過去の人類学調査をもとにした写真作品、平田五郎(アーティスト)によるアラスカに取材し、自己の内面の旅をモチーフにした写真・立体作品を展示し、芸術と土着的「時間」の様々な関係を紹介。『宇宙と山の間』ではアピチャッポン・ウィーラセタクン(映画監督/美術家)による映像作品や石川直樹(写真家)による写真作品を展示し、宇宙を含めた世界中を旅して回るような感覚を現実の空間に落とし込み、最後の『根と路』では志賀理江子(写真家)による東北の人と土地に根ざした写真インスタレーションと浅井裕介(画家)による青森の土を画材に青森のボランティアスタッフとともに作り上げた巨大絵画作品を展示し、総じて土着の要素と世界をつなぐ「青森EARTH2016根と路」の世界観を、現実世界と接続させる場とした。

なお展示導線として企画展示室E→C→D→映像室→B→Aの順とする通常とは逆の導線を採用し、Aを出てすぐの出口にある「縄文の小径」を通じて、美術館と三内丸山遺跡をつなぐ空間効果を演出した。

出品作品

浜辺にて

矢津吉隆

ヤマグスク／青森

2016

木造モルタル工法、映像、4Kモニター、漆黒塗料など

作家

協力：椎口工務店、ホルベイン工業（株）、kumagusuku B.C. project

ヨナサス・デ＝アンドラーデ

Pacific

2010

発泡スチロールの模型、板、地図、紙等を用いたアニメーション

12' 00"

作家

字幕制作：広島市現代美術館

青森で採集された岩石標本

- 黄銅鉱

- 水晶

- 流紋岩

- 安山岩

- 玄武岩

- 花崗閃緑岩

- 緑色凝灰岩（3点）

- 黒鉱

全て青森県立郷土館

シマ（島）の群像

三内丸山遺跡等出土資料

- 焼成粘土塊（12点）

縄文時代前期 - 中期

- 制作失敗土器

縄文時代前期 - 中期

- 補修孔のある土器（2点）

縄文時代前期

- 石製の石錐転用品（4点）

縄文時代前期 - 中期

- 磨製石斧の転用品（7点）

縄文時代前期 - 中期

- 編組製品断片

縄文時代前期 - 中期

縄文時代中期

- 原図（4点）

1994

紙、鉛筆

青森県教育庁文化財保護課

宮城県・幡谷貝塚出土品

加工鹿角（2点）

縄文時代晩期

東北大学大学院文学研究科

宮城県・大木岡貝塚出土品

鹿角

不詳

東北大学大学院文学研究科

スーザン・ヒラー

Midnight Liverpool Street

1984

発色現像方式印画

32 × 79.5cm

東京都写真美術館

スーザン・ヒラー

Midnight Kingscross

1984

発色現像方式印画

37.5 × 75cm

東京都写真美術館

スーザン・ヒラー

Midnight Waterloo

1987

発色現像方式印画

79 × 53.5cm

東京都写真美術館

エドワード・S・カーティス

A Zuni Governor

1905

PP

20.0 × 12.4cm

清里フォトアートミュージアム

エドワード・S・カーティス

Oyaygeh-o-Onyeh, Santa Clara Pueblo,

1905（ポートフォリオ 1/10 点組）

1905 (Print 1988)

PP

21.5 × 16.5cm

清里フォトアートミュージアム

エドワード・S・カーティス

Waihuswa, A Zuni Kyaqimassi, 1903（ポ

ートフォリオ 2/10 点組）

1903 (Print 1988)

PP

21.5 × 16.5cm

清里フォトアートミュージアム

エドワード・S・カーティス

Ohwo-wo-Songwi, San Ildefonso Pueblo,

ca.1905（ポートフォリオ 3/10 点組）

1905 (Print 1988)

PP

21.5 × 16.5cm

清里フォトアートミュージアム

エドワード・S・カーティス

Co-Ping, San Juan Pueblo, ca.1905（ポ

ートフォリオ 4/10 点組）

1905 (Print 1988)

PP

21.4 × 16.4cm

清里フォトアートミュージアム

エドワード・S・カーティス

Pobe Tommo, San Ildefonso Pueblo, 1904

（ポートフォリオ 5/10 点組）

1904 (Print 1988)

PP

21.5 × 16.5cm

清里フォトアートミュージアム

エドワード・S・カーティス

Juana, Acoma Pueblo, 1904（ポートフォ

リオ 6/10 点組）

1904 (Print 1988)

PP

21.5 × 16.5cm

清里フォトアートミュージアム

エドワード・S・カーティス

A Street scene, San Juan Pueblo, 1904

（ポートフォリオ 7/10 点組）

1904 (Print 1988)

PP

16.4 × 21.5cm

清里フォトアートミュージアム

エドワード・S・カーティス

Shiwawatiwa, Zuni Pueblo, 1903（ポ

ートフォ

リオ 8/10 点組）

1903 (Print 1988)

PP

16.5 × 21.5cm

清里フォトアートミュージアム

エドワード・S・カーティス

A Morning Chat, Acoma Pueblo, 1904（ポ

ートフォ

リオ 9/10 点組）

1904 (Print 1988)

PP

16.5 × 21.5cm

清里フォトアートミュージアム

エドワード・S・カーティス

Firing pottery, Santa Clara（ポ

ートフォ

リオ 10/10 点組）

1905 (Print 1988)

PP

16.4 × 21.5cm

清里フォトアートミュージアム

エドワード・S・カーティス

The maid of dream

1909

オロトーン

34.0 × 27.0 (額 48.0 × 40.5) cm

清里フォトアートミュージアム

エドワード・S・カーティス

The rush gatherer, Kutenai

1910

オロトーン

26.9 × 34.1 (額 41.0 × 48.5) cm

清里フォトアートミュージアム

エドワード・S・カーティス

An oasis in the bad lands (Red Hawk,

Ogallalla, Sioux)

1905

オロトーン

27.0 × 34.0 (額 40.5 × 48.0) cm

清里フォトアートミュージアム

エドワード・S・カーティス

The three chiefs, Piegan

1900

オロトーン

18.7 × 24.5 (額 26.5 × 32.0) cm

清里フォトアートミュージアム

エドワード・S・カーティス

Canyon de Chelly, Navaho

1904

PP

25.2 × 33.0cm

清里フォトアートミュージアム

エドワード・S・カーティス

Keres, At the old well of Acoma

1904

PP

26.0 × 33.0cm

清里フォトアートミュージアム

エドワード・S・カーティス

The Vanishing race-Navaho

1904

PP

25.2 × 32.9cm

清里フォトアートミュージアム

エドワード・S・カーティス

The Yuma

1904

PP

19.5 × 10.4cm

清里フォトアートミュージアム

エドワード・S・カーティス

Koskimo Woman

1914

PP

20.0 × 13.5cm

清里フォトアートミュージアム

エドワード・S・カーティス

Black Eagle, Assiniboin

1908

フォトグラビア

38.9 × 20.0cm

清里フォトアートミュージアム

エドワード・S・カーティス

Raven Blanket, Nez Perce

1908

フォトグラビア

39.4 × 28.0

清里フォトアートミュージアム

笹森儀助資料	- 旅枕	dot architects	シマ（縞）の群像
- 笹森家表札	1893	儀助の森	奈良美智
陶	木	2016	亀ヶ岡1号（Round Eyes）
青森県立郷土館寄託	弘前市立博物館寄託	木、鉄	2016
- 彫像	- 短刀①	作家	土
不詳	1893	特別協力：attier TUAREG 岡崎裕司	作家
笹森家	木、鉄	森永泰弘	協力：東北大学学際科学フロンティア研究所
- 笹森儀助ブロンズ像	弘前市立博物館寄託	Across the Border	奈良美智
1985	- 短刀②	中村タケ - 祭文：えびす大事〔青森県八戸〕2016年7月	亀ヶ岡2号（F word）
ブロンズ	1893	狩俣ヒデ - 神歌：モトノミチ〔宮古島狩俣〕2016年4月	2016
青森商業高等学校	木、鉄	2016	土
- 佐々木高行書額	弘前市立博物館寄託	スピーカー、声	作家
1870-1880年代？	- 標本（貝9石2種1）	作家	協力：東北大学学際科学フロンティア研究所
紙、墨	1893	三瀬夏之介	奈良美智
弘前市立博物館寄託	タカラガイ、石、植物の種	日本の絵 - 執拗低音 -	沼津貝塚1号（星眼の王子）
- 明治天皇肖像	弘前市立博物館寄託	2015	2016
写真	- ガラス乾板（「貧旅行」時の笹森儀助肖像）	和紙、墨 他	作家
弘前市立博物館寄託	ガラス	700 × 1,000cm	協力：東北大学学際科学フロンティア研究所
- 履歴書	弘前市立博物館寄託	金沢21世紀美術館	奈良美智
紙、墨	- ガラス乾板（「南嶋探検」時の笹森儀助肖像）	皆川嘉左エ門	沼津貝塚2号（おっきな目）
弘前市立博物館寄託	ガラス	休耕田に佇む	2016
- 田中彦次郎編「明治肖像録」	弘前市立博物館寄託	1970	土
1898	- ガラス乾板（「千嶋探検」時の笹森儀助肖像）	木	作家
弘前市立博物館寄託	ガラス	160 × 45 × 40cm	協力：東北大学学際科学フロンティア研究所
- 志賀重昂「日本風景論」	弘前市立博物館寄託（笹森家蔵）	秋田県立増田高等学校	奈良美智
1894	ガラス	皆川嘉左エ門	三内丸山1号（白い猫）
弘前市立博物館寄託	弘前市立博物館寄託	百姓老人	2016
- 佐藤弥六「津軽のしるべ」	- ガラス乾板_女性	1980	土
1900	ガラス	木	作家
弘前市立博物館寄託	弘前市立博物館寄託（笹森家蔵）	77 × 29 × 38cm	協力：東北大学学際科学フロンティア研究所
- 「免官 鹿児島県大島島司」	- 女性写真①	作家	奈良美智
1898	ガラス	皆川嘉左エ門	三内丸山2号（黒いミミズク）
紙、墨	弘前市立博物館寄託	吹雪の中の朝市	2016
弘前市立博物館寄託	- 女性写真②	1996	土
- 「辞令 青森県中津軽郡郡長」	ガラス	木	作家
1878	弘前市立博物館寄託	50 × 40 × 48cm	協力：東北大学学際科学フロンティア研究所
紙、墨	- 「貧旅行之記（乾）」	作家	奈良美智
弘前市立博物館寄託	1891	皆川嘉左エ門	三内丸山3号（縄文ベイビー）
- 「辞令 青森県地券掛兼務」	青森県立図書館寄託	大地の叫び	2016
1873	- 「貧旅行之記（坤）」	1993	土
紙、墨	1891	木	作家
弘前市立博物館寄託	青森県立図書館寄託	236 × 60 × 60cm	協力：東北大学学際科学フロンティア研究所
- 辞令「青森県立女子師範学校長兼務」	- 「千嶋探検」	作家	奈良美智
1880	1892	皆川嘉左エ門	三内丸山3号（縄文ベイビー）
紙、墨	弘前市立博物館寄託	春を待つ	2016
弘前市立博物館寄託	- 「千嶋群島密漁取締私見」	木	土
- 「辞令 岩木山神社大祭奉幣使代理」	1892	47 × 30 × 46cm	作家
1881	青森県立図書館寄託	作家	協力：東北大学学際科学フロンティア研究所
紙、墨	- 「台湾視察論」	皆川嘉左エ門	青森県・亀ヶ岡遺跡出土品
弘前市立博物館寄託	1896	開拓者	- 土偶①
- 「開墾願」	青森県立図書館寄託	2004	縄文時代晩期
紙、墨	- 「南嶋探検」	木	土
青森県立図書館寄託	1894	200 × 60 × 40cm	東北大学考古学研究室
- 旅券「教育のため韓国へ」	弘前市立博物館寄託	作家	- 土偶②
1899	- 「藤井富伝翁伝」	皆川嘉左エ門	縄文時代晩期
紙、墨	1896	開拓者	土
弘前市立博物館寄託	弘前市立博物館寄託	2004	東北大学考古学研究室
- 旅券「漫遊のため浦塩斯徳へ」	- 「南嶋探検 丙 3号」	木	宮城県・沼津貝塚出土品
1899	1894	作家	- 鉢
紙、墨	青森県立図書館寄託	皆川嘉左エ門	縄文時代後期
弘前市立博物館寄託	- 「八重山列島の木楸乃布を見て感を書す」	開拓者	土
- 憑単	1895	2004	東北大学考古学研究室
1899	青森県立図書館寄託	木	
紙、墨	- 「拾島状況録 巻一拾」（10冊組）	200 × 60 × 40cm	
弘前市立博物館寄託	1895	作家	
	青森県立図書館寄託		

- 遮光器土偶 縄文時代晩期 土 東北大学考古学研究室	石川直樹 8848 2011-2014 写真、映像によるインスタレーション -Everest # 1 2011 149 × 120cm type C print -Everest # 2 2011 149 × 120cm type C print -Everest # 3 2011 149 × 120cm type C print -Everest # 4 2011 149 × 120cm type C print -Road to Everest # 3 2011 73.0 × 90.0cm type C print -Road to Everest # 4 2011 73.0 × 90.0cm type C print -Everest # 5 2011 73.0 × 90.0cm type C print -Road to Everest # 2 2011 73.0 × 90.0cm type C print -Road to Everest # 5 2011 73.0 × 90.0cm type C print -Everest # 6 2011 73.0 × 90.0cm type C print -Everest # 7 2011 73.0 × 90.0cm type C print -Everest # 26 2011 73.0 × 90.0cm type C print -Everest # 27 2011 73.0 × 90.0cm type C print -Makalu #40 2014 120 × 149cm type C print -Makalu #26 2014 90 × 112cm type C print	-Makalu #22 2014 90 × 112cm type C print 作家 協力：Scai the bathhouse 志賀理江子 螺旋海岸 2008-2012 写真インスタレーション - お菓子の城 2011 120 × 180cm type C print - 手もねえ、足もねえ 2012 120 × 180cm type C print - 螺旋海岸 21 2012 120 × 180cm type C print - 緑のトンネル 2012 120 × 180cm type C print -349243 2012 120 × 180cm type C print -99879 2012 120 × 180cm type C print -348 2012 120 × 180cm type C print -1129298871 2012 120 × 180cm type C print -肉は肉、魚は魚 2010 120 × 180cm type C print -螺旋海岸 34 2010 120 × 180cm type C print -螺旋海岸 35 2009 120 × 180cm type C print -螺旋海岸 36 2010 120 × 180cm type C print	- 涙の庭 2010 120 × 180cm type C print - ジャイアント・ブー 2009 120 × 180cm type C print - 小さな手 2009 120 × 180cm type C print - 螺旋海岸 16 2012 120 × 156.3cm type C print - 振り返ってはならぬ 2011 110 × 165cm type C print - 子供のあそび 2011 120 × 146.5cm type C print - 螺旋海岸 33 2009 90 × 135cm type C print - 赤い階段 2010 90 × 135cm type C print - 砂の人 2009 75 × 165cm type C print - 五本の指 2009 90 × 135cm type C print - 波打ち際まで三百メートル 2011 120 × 182.9cm type C print - 宇宙人だった 2012 130 × 195cm type C print - 渡り鳥 2009 100 × 150cm type C print - 百万回生きる 2012 120 × 180cm type C print - みなさんさようなら 2012 120 × 180cm type C print - 朝いきなり死んだ 2011 120 × 180cm type C print
三内丸山遺跡出土品 - 土偶① 縄文時代前期 - 中期 土 青森県教育庁文化財保護課 - 土偶② 縄文時代前期 - 中期 土 青森県教育庁文化財保護課			
クリスチャン・ヴィウム Epitaph 1 (detail from the series The Wake, 2014-2016) 2016 Ink Jet Print 作家			
平田五郎 Inside Passage - 月を盗んだワタリガラス 2005 - 2016 カヤック、写真 (Pro Crystal Print)、石、貝、 ロウ、トリングット族の神話 作家			
ロバート・スミッソン Spiral Jetty 1970 映像 35' 00" Estate of Robert Smithson Courtesy James Cohan Gallery, New York / Shanghai and Electronic Arts Intermix (EAI), New York.			
ユタ州・グレートソルトレイクの岩塩結晶① 岩塩 資料提供：松井勝正			
ユタ州・グレートソルトレイクの岩塩結晶② 岩塩 資料提供：関貴尚			
宇宙と山の間			
アピチャッポン・ウィーラセタクン FAITH 2006 2画面による映像インスタレーション 11' 07" 作家 協力：Kick the Machine Films 機材協力：田中信至			

根と路

- 黄色の花が好き
2012
120 × 180cm
type C print
- 螺旋海岸 26
2012
120 × 180cm
type C print
- クジラの子供 2
2012
120 × 180cm
type C print
- 秘密どこ
2010
120 × 180cm
type C print
- 螺旋海岸 31
2010
120 × 180cm
type C print
- ヤマトツジ食べながら帰った
2010
120 × 180cm
type C print
- メキシコに行った
2012
120 × 180cm
type C print
- 青い人
2012
120 × 156.3cm
type C print
- 螺旋海岸 28
2012
120 × 156.3cm
type C print
- 父探し
2009
110 × 165cm
type C print
- 開墾の肖像
2009
120 × 180cm
type C print
- 私の家
2009
120 × 145.3cm
type C print
- カカン大会
2010
120 × 156.3cm
type C print
- 小さな顔
2012
180 × 270cm
type C print
- いまださめぬ
2010
254 × 141cm
type C print
- 何度も帰ってきた
2012
170 × 255cm
type C print

- 私には角が生えた
2012
180 × 270cm
type C print
- 螺旋海岸 17
2012
170 × 255cm
type C print
- 歌がだれにもわからない
2012
180 × 270cm
type C print
- 昏睡
2012
120 × 156.3cm
type C print
- たろうとはなこ
2009
100 × 150cm
type C print
- 無題
2012
130 × 195cm
type C print
- 螺旋海岸 3
2011
120 × 180cm
type C print
- 誘導灯
2012
180 × 270cm
type C print
- 二つの星
2012
170 × 255cm
type C print
- さんさしぐれ
2012
110 × 165cm
type C print
- 螺旋海岸 47
2008
170 × 255cm
type C print
- 私
2012
160 × 240cm
type C print
- 螺旋海岸 45
2012
180 × 270cm
type C print
- 世界地図
2011
110 × 165cm
type C print
- もう目が見えない
2011
120 × 156.3cm
type C print
-26273
2012
140 × 210cm
type C print

- 螺旋海岸 27
2012
140 × 210cm
type C print
- ちよこちゃん、ちよこちゃん
2010
165 × 110cm
type C print
- 目隠しパイロット
2010
100 × 158.9cm
type C print
- 鶏は眠らない
2010
120 × 145.3cm
type C print
- 兄ちゃんの春
2012
180 × 270cm
type C print
- ばけものと暮した
2012
180 × 270cm
type C print
岡崎市美術博物館寄託（作家蔵）

浅井裕介
根と路
2016
青森県内の土 15 種（青森県立美術館 2 種、
三内丸山遺跡、沖館川下流 2 種、新城テニ
スコート脇、松岡保養園 2 種、浅虫の崖、
夏泊半島の海岸 3 種、椿神社裏山、油布さ
んの庭 / 桜川、三浦さんの庭 / 玉水沖苑）、
アクリルレジン、水、帆布
825 × 1,620cm
作家
浅井裕介
大地の色見本
2016
青森県内の土 15 種（青森県立美術館 2 種、
三内丸山遺跡、沖館川下流 2 種、新城テニ
スコート脇、松岡保養園 2 種、浅虫の崖、
夏泊半島の海岸 3 種、椿神社裏山、油布さ
んの庭 / 桜川、三浦さんの庭 / 玉水沖苑）、
石、ガラス瓶、シャーレ、マスキングテープ、
ドローイング
作家

掲載記事

東奥日報

2016年6月29日(水)
社告掲

2016年7月23日(土)
現代アート「青森EARTH2016 根と路」展
きょう開幕

2016年8月23日(火)
縄文と現代 奈良美智 土器から着想
(連載記事(上) 担当学芸員による寄稿)

2016年8月24日(水)
笹森儀助と旅 大地の魅力は人がつくる
(連載記事(下) 担当学芸員による寄稿)

2016年7月23日(土)、8月3日(水)、
9月4日(日)
広告

陸奥新報社

2016年7月17日(日)
県美で「根と路」展開催

河北新報

2016年7月23日(土)
縄文アートを追求 青森県立美術館10周年
記念展

北鹿新聞

2016年9月7日(水)
「青森EARTH2016 根と路」展

大人の休日倶楽部

2016年7月号
「青森EARTH が照らす未来」

美術手帖

2016年8月号
ART NAVI

2016年10月号
楳村の芸術 - 人は大地に「根」を張り、旅と
いう「路」をゆく
文=福住廉(美術批評家)

新美術新聞

2016年8月21日号
青森EARTH2016 根と路

あおもり草紙

2016年8月1日号
青森EARTH2016 根と路

いけ花龍生

2016年8月号
「旅」と「土着」の交わりから

装苑

2016年10月号
ART 青森EARTH2016 根と路

小原流插花

2016年9月号
個性派ミュージアム探訪

CONFORT

2016年12月号
人と大地の「在るべき場所」を求めて
REVIEW:「青森EARTH2016 根と路」

WEB 「CINRA.NET」

青森EARTH2016 根と路

WEB 「ARTi」

おすすめ展覧会 青森EARTH2016 根と路
@青森県立美術館

WEB 「JDN (Japan Design Net)」

青森EARTH2016 根と路

WEB 「bitecho」

青森県美でアート×博物資料の「青森EARTH」
展が今年も開催

WEB 「dacapo」

青森県立美術館10周年記念 青森EARTH
2016 根と路
すべては「在るべき場所」へ、向かっている

生誕 80 周年 澤田教一：故郷と戦場

開催概要

2016年10月8日（土）－2016年12月11日（日）

開催日数：61日

休館日：10/11（火）、10/24（月）、11/14（月）、11/28（月）

主催：澤田教一展実行委員会（東奥日報社、青森放送株式会社、公益社団法人青森県観光連盟、青森県立美術館）

企画協力：IZU PHOTO MUSEUM

助成：公益財団法人アサヒグループ芸術文化財団、公益財団法人朝日新聞文化財団

協賛・展示協力：株式会社ニコン、株式会社ニコンイメージングジャパン

機材協力：株式会社DNP フォトイメージングジャパン

協力：gettyimages、株式会社カシマ、株式会社写真弘社、株式会社堀内カラー、青い森鉄道株式会社、株式会社JR東日本青森商業開発

学術協力：青森中央学院大学、立教大学・生井英考研究室

後援：駐日ベトナム社会主義共和国大使館、NHK青森放送局、青森ケーブルテレビ株式会社、株式会社エフエム青森、青森県教育委員会

観覧料：

一般 1,300円（1,100円）、高大生 800円（600円）

※（ ）は一般のみ前売券及び20名以上の団体料金

※心身に障がいのある方と付添者1名は無料

入場者数

10,195人

関連企画

1. 講演会「カメラマンの戦場」

UPI通信社時代の同僚で、澤田教一と交流のあった今城力夫氏に、生前のエピソードや戦地でのカメラマンたちの現場についてお話しいただいた。

日時：10月8日（土）14:00 - 15:30

場所：青森県立美術館シアター

講師：今城力夫（フォトジャーナリスト）

参加料：無料

参加者：50名

2. [株式会社ニコン主催] ポートフォリオレビュー＋澤田教一展鑑賞ツアー

テーマを持って撮影されている方、写真展の実施を目指す方々の

ための公開講評会を開催した。また、講評会後は講師や展覧会担当学芸員とともに澤田教一展の鑑賞ツアーを行った。

日時：10月29日（土）13:00 - 16:30

場所：青森県立美術館スタジオ

参加者：17名

講師：北島敬三（写真家・ニコンサロン選考委員、「フエの戦闘」プリント監修）

3. 青森中央学院大学プレゼンツ “ベトナム（かぜ）キッチン”

青森中央学院大学で学ぶベトナムからの留学生たちの協力を得て、青森リンゴ入りおこわ、揚げ春巻、ベトナムコーヒーなど本場のベトナム料理の味を楽しんでいただいた。また、会期中、青森県立美術館内カフェ「4匹の猫」では、留学生たちのレシピによるベトナム料理「炒めフォー」を提供した。

開店日：10月8日（土）、9日（日）、29日（土）、11月5日（土）、6日（日）

場所：青森県立美術館1階コミュニティホール

来客数：250名



4. 「SAWADA サワダ」上映会＋アフタートーク

青森県出身の五十嵐匠監督による澤田教一の軌跡をたどったドキュメンタリー映画を上映後、監督と澤田教一夫人のサタ氏をお招きしてアフタートークを開催した。

日時：10月15日（土）13:00 - 映画上映、

15:00 - 15:30 アフタートーク

場所：青森県立美術館シアター

参加者：上映会 100名、アフタートーク 80名

5. 「ダウン ドット（焼いてはいけない）」上映会＋アフタートーク
ベトナムを代表するダン・ニャット・ミン監督による、ベトナム戦争で戦死した実在の女性医師を描いた映画（アジアフォーカス・福岡国際映画祭2009「福岡観客賞」受賞作）を上映後、映画の歴史的背景やベトナムの映画事情などについて東南アジア映画研究所の坂川直也氏にお話しいただいた。

日時：11月23日（水・祝）13:00 - 映画上映、

14:50 - 15:30 アフタートーク

場所：青森県立美術館シアター

参加者：上映会 75 名、アフタートーク 55 名

協力：NPO 法人津山国際交流会

展覧会カタログ

『澤田教一 故郷と戦場』

A4 判変型 並製 296 頁

(カラー 240 頁)

著者：澤田教一

企画・構成：

高橋しげみ (青森県立美術館)、
小原真史

(IZU PHOTO MUSEUM)、

板倉容子 (青森県立美術館)

寄稿：生井英考、石川文洋 ほか

複写・画像処理：王子直紀、

フォトスタジオらいず

翻訳 (和文英訳)：ジャン・ユンカーマン

翻訳 (英文和訳)：コスモス翻訳通訳

ブックデザイン：小川順子

発行：株式会社羽鳥書店

発行日：2016 年 10 月 17 日



展示風景

1936 年に青森市に生まれた澤田教一は、1965 年に戦火の絶えないインドシナ半島に赴き、戦場カメラマンとして活躍した。1970 年に 34 歳で、取材中に命を落とした澤田が、戦地で活動したのはわずか 5 年ほどにすぎないが、その短い期間に、戦場の空気を鮮烈に伝える数々の傑作を残した。中でも、戦争により故郷を追われながらも、必死に生き抜こうとする家族の姿を捉えた《安全への逃避》(1965) は、ベトナム戦争の過酷な現実を最も雄弁に語る 1 枚として世界に知られている。

当館は、2013 年に澤田教一夫人の澤田サタ氏から、写真家の撮影フィルムや電送原稿写真など、多くの資料を寄託された。この展覧会では、それらの調査に基づき、未使用のカットも積極的に取り入れながら、澤田教一にとっての故郷と戦場、そして澤田の写真に写った人々の故郷と戦場について考えた。

ピューリッツァー賞を受賞した戦場カメラマンとして世界中に知られる澤田教一であるが、知られざる戦場カメラマンの顔をできる限り掘り起し、丁寧に紹介するという目的は、未発表のカットを多く含む 300 点余りの資料・作品の展示によって達成された。とりわけこれまで光を当てられることのなかった澤田の青森時代の写真は「澤田教一の「戦場以前」として『週刊新潮』(2016.10.24 号)のカラーグラビアで大きく取り上げられ、本展のテーマである「故郷」と「戦場」の関係性を強調することができた。

澤田教一の写真を通じて、ベトナム戦争写真の再評価を促すことも本展のねらいの一つであった。このねらいは、展覧会に「学術協力」として携わった青森中央学院大学のベトナム人の留学生からの協力によって果たすことができた。本展が、戦争を知らないベトナムの若者に、母国の戦争の歴史について改めて考えるきっかけを与えたことは、『朝日新聞』(2016 年 11 月 5 日、夕刊 1 面) や NHK BS「国際報道」などでも取り上げられ話題となった。

写真評論家・飯沢耕太郎氏は『日本カメラ』(2017 年 2 月号)展評において、本展について「よく練り上げられたいい展覧会だった。」と評した後、「地方の美術館は、潤沢な予算を使えるわけではない。入場者数や入場収入の足かせも年々きつくなってきているようだ。それでもそれらの施設が、地域に根ざした

その他

1. 澤田教一写真調査発表会

展覧会の開催に向け、青森中央学院大学経営法学部教授グエン・チ・ギア氏及び同大学ベトナム人留学生の協力により、澤田教一がベトナムで撮影した写真の撮影地特定のための調査を実施し、その調査結果発表会を行った。

日時：平成 28 年 7 月 15 日 (金) 14:00 - 16:00

場所：青森中央学院大学 2 号館 フリースペース

2. IZU PHOTO MUSEUM での巡回展

平成 29 年 9 月 9 日から 12 月 25 日まで、IZU PHOTO MUSEUM (静岡県長泉町) において巡回展が開催。



写真家たちに目を向けつつ、写真文化の振興を地道に進めていく、重要な役割を担っていることを忘れてはならないだろう。」と結ぶ。郷土の写真家を独自の視点で取りあげた本展の成果の一端が伝えられている。

展覧会に合わせて制作した写真集（羽鳥書店出版）は、「デザインに優れ、社会教育に役立つ」として、第58回「全国カタログ展」にて「文部科学大臣賞」に選ばれた。また、本展が評価の対象となり、公益社団法人日本写真協会主催「日本写真協会賞」の平成29年度「学芸賞」を当館の高橋しげみ学芸主幹が受賞した。

出品作品

NP = ニュープリント

【青森 1936 - 61】

1.1
母・まき
青森市
1955-1961年
NP2016
ゼラチンシルバープリント

1.2
〈子守〉
八戸市
1958年2月17日
NP2016
発色現像方式印画

1.3-4
八戸えんぶり
八戸市
1958年2月17日
NP2016
発色現像方式印画

1.5
青森ねぶた
青森市
1960年
NP2016
発色現像方式印画

1.6
〈仮橋を渡る人々〉
青森県上北地域
1955-61年
NP2016
発色現像方式印画

1.7
〈台風の子〉
青森県上北地域
1955-61年
NP2016
発色現像方式印画

1.8
〈防砂林の手入れ〉
青森県上北地域
1955-61年
NP2016
発色現像方式印画

1.9
〈菜種の刈入れ〉
青森県内
1958年7月21日
NP2016
発色現像方式印画

1.10
青森県内
1958年7月21日
NP2016
発色現像方式印画

1.11-15
小川原湖周辺
青森県上北郡東北町
1955-61年
NP2016
発色現像方式印画

1.16
平畑、大三沢町（現三沢市）
1955-61年
NP2016
発色現像方式印画

1.17
古間木駅（1961年3月より三沢駅と改称）
1955-61年
NP2016
発色現像方式印画

1.18
三沢基地正門前
1955-61年
NP2016
発色現像方式印画

1.19
三沢基地内軍司令部
1955-61年
NP2016
発色現像方式印画

1.20-21
三沢基地内
1958年
NP2016
発色現像方式印画

1.22-23
三沢基地内
1958年5月17日（米軍主催三軍統合記念日）
NP2016
発色現像方式印画

1.24
三沢基地内
1955-61年
NP2016
ゼラチンシルバープリント

1.25
三沢基地正門前
1955-61年
NP2016
ゼラチンシルバープリント

1.26
大三沢町（現三沢市内）
1955-61年
NP2016
ゼラチンシルバープリント

1.27
青森県内
1955-61年
NP2016
ゼラチンシルバープリント

1.28
平畑、大三沢町（現三沢市）
1955-61年
NP2016
ゼラチンシルバープリント

1.29
青森県内
1957年
NP2016
ゼラチンシルバープリント

1.30-31
三沢基地内のゴルフ場
1958-1961年
NP2016
発色現像方式印画

1.32
三沢基地内
1955-1961年
NP2016
発色現像方式印画

・三沢基地内の暮らし スライドショー
1955-1961年

・『サンケイカメラ』1958年6月号

・サタ夫人のライカ M2

・サタ夫人のローライフレックス

【東京 1961 - 64】

2.1
天ヶ森
青森県三沢市
1964年7月24日
NP2016
ゼラチンシルバープリント

2.2-9
恐山
青森県むつ市
1964年7月22-23日
NP2016
ゼラチンシルバープリント

2.10
新潟地震
新潟県新潟市
1964年6月 [4点]
ゼラチンシルバープリント

・1964年9月5日付『毎日新聞』（英語版）
の記事「巫女 霊場恐山」手書き原稿
1964年

【ベトナム 1965】

3.1-2
レバンジェット寺
サイゴン
1965年2月3日
NP2016
ゼラチンシルバープリント

3.3-4
レバンジェット寺
サイゴン
1970年頃
NP2016
ゼラチンシルバープリント

3.5
ベトナム市場
サイゴン
1970年
NP2016
発色現像方式印画

3.6
サイゴン
1965-70年
NP2006
ゼラチンシルバープリント
青森県立美術館蔵

3.7
南ベトナム
1965年頃
NP2016
ゼラチンシルバープリント

3.8
ダナン
1965年頃
NP2016
発色現像方式印画

3.9
ダナン
1965年2月1日
NP2016
ゼラチンシルバープリント

3.10
カンナック、ザライ省
1965年3月9日
NP2016
ゼラチンシルバープリント

3.11-12
カンナック、ザライ省
1965年3月9日
NP2016
発色現像方式印画

3.13
ピンロン省
1965年3月1日
NP2016
ゼラチンシルバープリント

3.14-17 ダナン 1965年4月15日 NP2016 ゼラチンシルバープリント	3.31-32 クイニョン, ビンディン省 1965年 NP2016 ゼラチンシルバープリント	【ベトナム 1966 - 68】 3.42 《敵を連れて》 ボンソン北方, ビンディン省 1966年1月29日 NP2006 ゼラチンシルバープリント 青森県立美術館蔵	3.53 南ベトナム 1965-68年 NP2016 ゼラチンシルバープリント
3.18 五行山 ダナン 1965-70年 NP2016 発色現像方式印画	3.33 クイニョン, ビンディン省 1965年9月6日 NP2006 ゼラチンシルバープリント 青森県立美術館蔵	3.43 《敵を連れて》 ボンソン北方, ビンディン省 1966年1月29日 NP2016 ゼラチンシルバープリント ゲッティ イメージズ提供 Sawada Kyoichi / Getty Images	3.54 ジアレ, トゥアティエン=フエ省 1966年9月11日 NP2016 ゼラチンシルバープリント
3.19 ラクソイ, キエンザン省 1965年3月4日 NP2016 ゼラチンシルバープリント	3.34 《安全への逃避》 ロクチュアン, ビンディン省 1965年9月6日 NP2006 ゼラチンシルバープリント 青森県立美術館蔵	3.44 《泥まみれの死》 タンビン, サイゴン 1966年2月24日 NP2006 ゼラチンシルバープリント 青森県立美術館蔵	3.55-56 非武装地帯から2km南 1966年9月2日 NP2016 ゼラチンシルバープリント
3.20 ラクソイ, キエンザン省 1965年3月4日 NP2016 発色現像方式印画	3.35 カンボジア国境付近, ロンアン省 1965年10月4日 NP2016 ゼラチンシルバープリント	3.45 ゴンジャン, クアンガイ省 1966年3月28日 NP2016 ゼラチンシルバープリント	3.57-58 デックハウスIV作戦 非武装地帯から2km南 1966年9月16日 NP2016 ゼラチンシルバープリント
3.21 ラクソイ, キエンザン省 1965年3月3-4日 NP2006 ゼラチンシルバープリント 青森県立美術館蔵	3.36-37 フォックビン北方, ロンアン省 1965年10月16日 NP2016 ゼラチンシルバープリント	3.46-47 ラブチュアン, クアンナム=ダナン省 1966年4月3日 NP2016 ゼラチンシルバープリント	3.59 非武装地帯南方 1966年9月21日 NP2006 ゼラチンシルバープリント 青森県立美術館蔵
3.22-23 南ベトナム 1965年 NP2016 発色現像方式印画	3.38 ブレイメ, ザライ省 1965年10月22日 NP2006 ゼラチンシルバープリント 青森県立美術館蔵	3.48-49 ラブチュアン, クアンナム=ダナン省 1966年4月3日 NP2006 ゼラチンシルバープリント 青森県立美術館蔵	3.60 南ベトナム 1965-68年 NP2016 ゼラチンシルバープリント
3.24 米空母「ボノム・リシャル」 南ベトナム 1965年8月2日 NP2006 ゼラチンシルバープリント 青森県立美術館蔵	3.39-40 ブレイメ, ザライ省 1965年10月23日 NP2016 ゼラチンシルバープリント	3.50 サイゴンの北約400km 1966年4月15日 NP2016 ゼラチンシルバープリント	3.61 非武装地帯付近 1966年10月3日 NP2016 ゼラチンシルバープリント
3.25-26 チュライ, クアンナム省 1965年8月20日 NP2006 ゼラチンシルバープリント 青森県立美術館蔵	3.41 サイゴン 1965年11月1日 NP2016 ゼラチンシルバープリント	3.51 サイゴン 1966年6月19日 NP2016 ゼラチンシルバープリント	3.62 ブレイク, ザライ省 1966年12月24日 NP2006 ゼラチンシルバープリント 青森県立美術館蔵
3.27-28 南ベトナム 1965-68年 NP2016 発色現像方式印画	・松下電送機器株式会社 201-M/J 形写真電 送送信装置 1979年7月製造 パナソニック株式会社 AVC ネットワー ク社蔵	3.52 カンボジア国境付近 1966年6月30日 NP2006 ゼラチンシルバープリント 青森県立美術館蔵	3.63 ブレイク, ザライ省 1966年12月24日 NP2016 ゼラチンシルバープリント
3.29-30 クイニョン, ビンディン省 1965年 NP2016 発色現像方式印画	・澤田教一が使っていたカメラ、レンズ、ア クセサリーと同機種、同型の機材:(ボディ) ライカ M3 白 / (レンズ) ズミクロン 90mm f 2 白 青森ライカクラブ協力		3.64 南ベトナム 1965-68年 NP2016 ゼラチンシルバープリント

3.65 南ベトナム 1965-68年 NP2016 ゼラチンシルバープリント	3.82-84 ボブ・ホープ・クリスマス・ショー カムラン湾 1967年12月27日 NP2016 ゼラチンシルバープリント	【《安全への逃避》の成り立ち】 ほか	・1968年アメリカ国防省から発行された非 戦闘員（日本人特派員）としての身分証明書
3.66 非武装地帯 1967年5月19日 NP2016 ゼラチンシルバープリント	3.85 戦闘区域C 1967年 NP2016 ゼラチンシルバープリント	4.1-2 ロクチュアン、ビンディン省 1965年9月6日 NP2016 発色現像方式印画 ゲッティ イメージズ提供 Sawada Kyoichi / Getty Images	・澤田教一の手帖（1967年）
3.67 非武装地帯 1967年5月20日 NP2016 ゼラチンシルバープリント	3.86 南ベトナム 1965-68年 NP2016 ゼラチンシルバープリント	4.3 ロクチュアン、ビンディン省 1965年9月6日 NP2016 発色現像方式印画	【ベトナム 1968：テト攻勢下の フェ】
3.68 ダナンの南16km 1967年10月25日 NP2006 ゼラチンシルバープリント 青森県立美術館蔵	3.87 ケサン、クアンチ省 1968年1月22日 NP2016 ゼラチンシルバープリント	4.4 ビュリツァー賞ポートフォリオ コロンビア大学所蔵 [表紙, no.1, 3-15, 17- 20, 22-28 : Sawada Kyoichi / Getty Images]	5.1 テト攻勢下のフェ フェ 1968年2月 インクジェットプリント [34点] * 北島敬三監修プリント
3.69 875高地、ダクト、コントゥム省 1967年11月17日 NP2016 ゼラチンシルバープリント	3.88 ケサン、クアンチ省 1968年3月1日 ゲッティ イメージズ提供 Sawada Kyoichi / Getty Images NP2016 発色現像方式印画	4.5 アンリ・ユエ（1927-71） 1965-70年 NP2016 ゼラチンシルバープリント	5.2 ナムジアオの墓地 フェ 1968年2月14日 インクジェットプリント [2点] * 北島敬三監修プリント
3.70-71 875高地、ダクト、コントゥム省 1967年11月21日 NP2016 ゼラチンシルバープリント	3.89 南ベトナム 1965-68年 NP2016 ゼラチンシルバープリント	4.6 取材中のホースト・ファース（1933-2012） 1965-70年 NP2016 ゼラチンシルバープリント	・テト攻勢下のフェ スライドショー 1968年2月
3.72 875高地、ダクト、コントゥム省 1967年11月21日頃 NP2016 ゼラチンシルバープリント	3.90 クアンチ省 1968年4月28日 NP2016 ゼラチンシルバープリント	4.7 セルフポートレート 1965-70年 NP2016 ゼラチンシルバープリント	・電送写真原稿（16点）
3.73 875高地、ダクト、コントゥム省 1967年11月22日 NP2016 ゼラチンシルバープリント	3.91 南ベトナム 1965-68年 NP2016 発色現像方式印画	・世界報道写真コンテスト 第1位受賞 金メダル	・フェでの撮影フィルムを送るための1968 年2月1日付封筒
3.74 ブドップ、ビンフォック省 1967年12月7日 NP2016 ゼラチンシルバープリント	・ブドップ、南ベトナム スライドショー	・コロンビア大学のビュリツァー賞選考委員 会から交付されたビュリツァー賞の賞状	・フェでの撮影フィルムを送るための1968 年2月14日付封筒
3.75-78 ブドップ、ビンフォック省 1967年12月8日 NP2016 ゼラチンシルバープリント	・ジアレでの撮影フィルムを送るための 1966年9月11日付封筒	・澤田教一が使っていたカメラ、レンズ、ア クセサリーと同機種、同型の機材 （ボディ）ライカM2黒 /（レンズ）ズミク ロン35mm f 2 黒 （ボディ）ライカM2白 /（レンズ）ズミルッ クス35mm f 1.4 白 （ボディ）ライカM3白 /（レンズ）エル マリット28mm f 2.8 黒 協力：青森ライカクラブ	【香港 1969】
3.79-81 南ベトナム 1966年頃 NP2016 ゼラチンシルバープリント	・澤田教一の手帖（1966年）	・澤田教一が使っていたカメラ、レンズと同 機種、同型の機材 （ボディ）ニコンF（初期型）黒 /（レンズ） ニッコール10.5cm f 2.5 （ボディ）ニコンS I型 /（レンズ）Wニッ コール35mm f 2.5 協力：株式会社ニコン、株式会社ニコンイ メージングジャパン、日本カメラ博物館	6.1-4 香港 1969年 NP2016 発色現像方式印画
	・「ヒッコリー作戦」の撮影フィルムを送る ための1967年5月20日付封筒	・澤田が戦場で使用していたヘルメット	【カンボジア 1970】
	・Cレーションの箱 今城力夫氏蔵		7.1-3 アンコール・ワット 1967年 NP2016 発色現像方式印画
			7.4 デヴァター（女神）像 バンテアイ・スレイ 1967年 NP2016 発色現像方式印画
			7.5-6 アンコール・ワット 1967年 NP2016 発色現像方式印画

7.7-8 トンレサップ湖 1967-70年 NP2016 発色現像方式印画	7.27 ブノンベン 1970年6月4日 NP2016 ゼラチンシルバープリント
7.9 ブノンベン 1969年11月9-10日 NP2016 発色現像方式印画	7.28 シェムリアップ 1970年6月 NP2016 ゼラチンシルバープリント
7.10 独立記念式典 ブノンベン 1969年11月9-10日 NP2016 発色現像方式印画	7.29 コンボンスプー 1970年6月 NP2016 ゼラチンシルバープリント
7.11-14 ブノンベン 1969年11月9-10日 NP2016 発色現像方式印画	7.30 カンボジア 1970年 NP2016 ゼラチンシルバープリント
7.15-16 ブノンベン 1967-70年 NP2016 発色現像方式印画	7.31-32 タンコク 1970年9月13日 NP2016 ゼラチンシルバープリント
7.17-18 カンボジア 1967-70年 NP2016 発色現像方式印画	7.33 タンコク 1970年9月14日 NP2016 ゼラチンシルバープリント
7.19-20 カンボジア 1967-70年 NP2016 ゼラチンシルバープリント	7.34-36 タンコク 1970年10月12日 NP2016 ゼラチンシルバープリント
7.21-22 ベトナムとの国境から6km 1970年5月7日 NP2016 ゼラチンシルバープリント	・電送写真原稿(1点) ・1970年8月13日付の教一から妻・サタへの手紙 ・1970年9月28日付の教一から妻・サタへの手紙
7.23 拘束された場所付近での隠し撮り 1970年5月23日 ゼラチンシルバープリント	・ロバート・キャバ賞のメダル 1971
7.24-25 トンレベット 1970年5月 NP2016 ゼラチンシルバープリント	・1970年5月23日、釈放後のインタビュー映像/提供:AP通信 ・1970年5月24日、トンレベットでの映像/撮影:平敷安常/提供:ABC news
7.26 トンレベット 1970年5月24日 NP2016 ゼラチンシルバープリント ゲッティ イメージズ提供 Sawada Kyoichi / Getty Images	

掲載記事

東奥日報

2016年4月29日

澤田教一「安全への逃避」オリジナルネガ
米で確認

2016年4月29日

澤田教一「安全への逃避」県美・高橋主査「撮影状況見えてきた」

2016年7月16日

フエの市場、クイニョンのすゝめ…200点の
撮影地特定

2016年8月14日

世界のサワダと再会 妻サタさん17年ぶり
ベトナム

2016年9月13日

澤田教一：故郷と戦場 10月8日から県立
美術館

2016年10月1日

澤田教一の人間味に光 過去最大の回顧展
写真など350点未発表多数

2016年10月8日

澤田教一展きょう開幕 過去最大、戦場以外
にも焦点

2016年10月28日

命懸け撮影「尊敬」韓国からサワダ訪ね
著名写真家、妻サタさん方へ

2016年11月12日

「澤田教一展」5000人突破

2016年11月17日

澤田教一 故郷と戦場 県立美術館回顧展①

2016年11月18日

澤田教一 故郷と戦場 県立美術館回顧展②

2016年11月19日

澤田教一 故郷と戦場 県立美術館回顧展③

2016年11月26日

澤田教一 故郷と戦場 県立美術館回顧展④

2016年12月3日

澤田教一 故郷と戦場 県立美術館回顧展⑤

2016年12月6日

「澤田教一展」全国最高賞 カタログ展図録
部門 県美編集、公式写真集

2017年1月22日

「夫の気持ちで撮影」写真家・澤田教一の妻
サタさん青森でトーク

デーリー東北

2016年4月30日

報道カメラマン澤田教一代表作「安全への逃
避」オリジナルネガ 米で確認

2016年7月16日

戦地と平和の風景同時に ベトナムの写真撮
影地特定

2016年9月26日

澤田教一の実像に迫る 来月から企画展 未
公開作品展示

河北新報

2016年4月30日

澤田幻のネガ発見 代表作「安全への逃避」
米で保管

2016年10月13日

平和愛した足跡たどる 妻サタさん資料多数
寄託 未発表作100点も

2017年1月22日

戦争と平和 討論 青森・澤田サタさん招き
集会

毎日新聞

2016年5月25日

ピューリッツァー賞受賞作「安全への逃避」オリ
ジナルネガ 米で確認

2016年10月13日

澤田教一の足跡たどる 青森で企画展 初公
開写真105点も

2016年11月12日

澤田生誕80周年企画展 入場者5000人達
成

陸奥新報

2016年7月16日

200枚の撮影地特定 ベトナム人留学生調
査 戦時の市井捉える

2016年10月8日

未公開写真や資料も きょうから澤田教一展

2017年1月22日

報道写真家・澤田教一の妻サタさん 青森で
トーク 留学生らと平和語る

聖教新聞

2016年10月8日

澤田教一展開幕「情報プラザ」掲載

読売新聞

2016年10月10日

澤田教一 戦場伝える330点 代表作や初
公開100点も

2016年10月23日

夫の平和への願い伝える

北鹿新聞

2016年10月13日

イベント散歩 記事掲載

朝日新聞

2016年11月5日

澤田教一のベトナム 留学生が向き合う 母
国の撮影地特定に協力
(関東夕刊)

2016年11月7日

澤田教一のベトナム 留学生が向き合う 母
国の撮影地特定に協力
(東北朝刊)

2016年12月7日

サワダのさがしもの 上 胸の奥にはのどか
な風景

2016年12月8日

サワダのさがしもの 中 ベトナムへの共感
と三沢

2016年12月9日

サワダのさがしもの 下 祖母の目線と米兵
らの姿と

日本経済新聞

2016年12月3日

澤田教一再評価 苦しむ戦場 まなざし追体
験

平成 28 年度コレクション展 Permanent Exhibition 2016

アレコホール：「マルク・シャガールによるバレエ〈アレコ〉の背景画」（通年展示）

展示室 F、G 奈良美智《Puff Marshie》《Hula Hula Garden》（通年展示）

国内外で活躍する奈良美智（1959- ）は、弘前市の高校を卒業後、東京と名古屋の大学で本格的に美術を学び、1980年代半ばから絵画や立体作品、ドローイングなど精力的に発表を続けている。当館では、開館前の1998年から奈良美智作品の収集をはじめ、現在その数は170点を超える。

当館が誇る90年代のコレクションを中心に、《Puff Marshie（パフ・マーシー）》（2006年）や《Broken Heart Bench（ブロークン・ハート・ベンチ）》（2008年）など、作家からの寄託作品を併せて展示。

コレクション展 I

棟方志功とその時代展関連企画「棟方志功と青森」「ジャパン・アヴァンギャルド 1950-1960's」ほか

会期：2016年3月12日（土）－6月26日（日）

「棟方志功と青森」

展示室 N | 関野準一郎《棟方志功像》ができるまで

関野準一郎（1914-1988）は、故郷、青森をはじめ、日本や世界各地を訪れて描いた風景や、身近な人々から著名人までをモデルにした人物像などで、現在も多くの人々に親しまれている版画家である。

関野にとって、11歳年長の棟方志功は、青森で版画の道を志した当初から交流を続けてきた敬愛する同郷の先輩画家であった。それから数十年を経て制作された《棟方志功像》（1968年）は、代表作である十大弟子を背にした緋の着物姿に特徴的な頭髪、トレードマークの度の強い眼鏡をかけた押しも押されぬ大家の風貌である。

青森県立美術館は、《棟方志功像》の作品とともに、遺族から寄贈された版木、さらに版木を摺り重ねて作品が出来上がっていく過程を連続して解説した摺り重ね見本と、版木のいくつかを個別に摺った見本を所蔵している。多色摺の版画が幾度もの摺り重ねによって完成していく様子が一目で実感できる、これらの貴重な資料を作品と併せて展示した。

展示室 M | 先を行く人 今純三

弘前出身の今純三（1893-1944）は、青森の近代美術の発展に重要な役割を果たした作家である。

帝展や文展をはじめとする公募展に洋画で入選を果たすなど、東京で新鋭の洋画家として活動していた今であったが、関東大震災をきっかけに帰郷し、1923年から青森市に居を構えて銅版画や石版画の研究に打ち込みはじめる。青森県師範学校で学生の指導にもあたり、市郊外の海沿いにある合浦公園そばの彼の自宅兼アトリエには、学校での教え子だけでなく、美術に心惹かれた多くの若者たちが訪れた。当時の青森において、今純三の存在は非常に大きいもので、今のアトリエを訪れた若者の中には、10歳年下の棟方志功、21歳年下の関野準一郎もいた。本展示では、関野が生涯愛蔵していたもので、昨年、美術館に寄贈された作品の他、当館が所蔵する今の作品から、青森で制作された油彩画、青森の黒石劇場の舞台背景幕制作のために描いた下絵を展示した。

展示室 L | 青森から世界へ 二人の後輩 関野準一郎と高木志朗

1950年代、日本の近代版画は、ほかのジャンルに先んじていち早く国際的な評価を確立していった。棟方志功はその代表格の一人で、サンパウロ・ビエンナーレやヴェネチア・ビエンナーレでの相次ぐ受賞により、一気に国際舞台へと飛躍していった。本展示では、棟方に続き、世界を舞台に活躍した青森出身の二人の作家の作品を紹介。

関野準一郎は、多色摺りの木版画による浮世絵の伝統を受け継ぎつつ、斬新な発想で新たな表現の可能性を切り開こうと探求を重ねた。風景画や人物像を創作活動の中心として、対象に向き合ってみ出した印象を、大胆な色彩感覚と巧みな画面構成で表現する独自の作風を築き、創作の舞台を日本だけでなく世界へと広げていった。

1950年代の後半から本格的に版画制作を始めた高木志朗（1934-1998）は、抽象表現による独自の作風を模索。国際展にも積極的に出品し、1960年代には、日本の伝統的な「色」や「形」を抽象表現として描き出す手法により、高い評価を得た。

展示室 P、Q | さすらう人 下澤木鉢郎

明治34年に弘前市に生まれた下澤木鉢郎（1901-1986）は、若くして画家を志して上京。大正13年には早くも帝展で入選を果たすなど、同郷の先輩画家として棟方志功にとっては憧れの存在であったという。上京後、「中央美術社」に入社した下澤は、版画家の平塚運一との出会い、創作の中心を版画へと移していくことになる。そして、下澤が若き日の棟方志功を平塚

に引き合わせたことが、棟方が本格的に版画の道を志す転機となった。

本展示では、簡潔な線と平明な色彩によって豊かに表現された日本各地の風景、風俗を題材とした作品を紹介。

協力：弘前市立博物館

棟方志功展示室 | 筆の世界—棟方の書

棟方志功（1903-1975）は板画の中に文字を彫り込んだり、絵の背景に詩や言葉を添えたりと、しばしば絵の中に書（文字）を取り込んでいる。それらは時には画讃の域を超え、余白を埋めつくし、絵と一体化している。

棟方が倭画と呼び表した肉筆画は、まず墨画を描き、乾いてからそれに絵の具で色付けしたもので、故郷青森のねぶた絵や凧絵に影響を受けたという。また、板下（板画の下絵）を描く時もやはり毛筆と墨を使用しており、絵手紙をしたためるような感覚で画中に文字（詩歌）を自由に配したのであろう。

下絵を描き、彫って摺るといふ、いくつもの工程を経て仕上がる板画は、無駄なものこそ落とされ、下絵とはまた違う新たな表情が生まれるが、倭画や書は、筆勢がそがれることなく揮毫した時の感性がそのまま表れている。

力強い書の大作《花深処无行跡》、岡本かの子の詩の全文を背景に記した倭画《円融無碍頌女人観世音菩薩図》、墨画の優品《青森山之神図》、そして晩年、熊野の筆匠に特注した大筆で描いた倭画《鷲栖図》など、棟方の筆の世界を紹介。

展示構成：棟方志功記念館

展示室 O | 棟方志功のデザイン業

板画家として知られる棟方志功だが、我々の生活に身近な、お菓子の包装紙やお酒のラベル、本の装幀といった商品のグラフィックデザインも生業としていた。自身の表現と向き合った作家活動の一方、我々一般の人々へ向けて設計された棟方志功のデザイン業を紹介。

パッケージデザイン：

北は北海道から南は沖縄まで、全国に棟方志功のパッケージデザインが残され、その多くが現在も使われ続けている。その多くは、民藝運動の縁で生まれた仕事であったが、中には純粋に棟方志功のデザインに惚れ込んで依頼されたというエピソードも残されている。

装幀本：

棟方志功が生涯に 1000 冊近い本や雑誌の装幀、挿絵の仕事をしたことは、あまり知られていないが、棟方が本質的に言葉に対して鋭い感覚を持ち、その仕事の基盤が言葉の世界にあったこと、文学者たちとの交流から数多くの作品が生まれたこと、加えて天性のデザイナー的気質を併せ持っていたことを考えれば、ごく自然な流れということもできるであろう。

展示監修：石井頼子

「ジャパン・アヴァンギャルド 1950-1960's」

展示室 J、K | ジャパン・アヴァンギャルド 1950-1960's

棟方志功の活躍した時代は 1920 年代後半から 1970 年代。つまり昭和の初期から戦争と敗戦を経て、復興と高度経済成長、そして「近代」が行き詰まりをみせた日本の激動期であり、そうした世相を受けて美術の動向において様々な「実験」と「挑戦」が繰り返されていた時代であった。

関西においては 1954 年に活動を開始した具体美術協会が、各種のパフォーマンスや身体的行為と密接に結びついた作品で注目を集め、関東でも東京都美術館で毎年開催されていた「読売アンデパンダン展」を主な舞台として、廃品や既製品など様々な素材を用いた作品や、挑発的な表現が多く見られるようになっていった。1960 年代以降、こうした動向は一気に拡大し、美術の概念は大きく広がりをみせていったのだった。

今回の展示では、そうした 1950 年代～1960 年代の美術状況を映し出した作品を紹介した。

展示室 I | 成田亨 異形の神々

「ウルトラ Q」、「ウルトラマン」、「ウルトラセブン」に登場するヒーロー、怪獣、宇宙人、メカニックのデザインを手がけ、その世界観を構築した成田亨（1929-2002）。もともと美術家、彫刻家であった成田は、成田が同時代の美術や西洋モダンアートから吸収した造形センスを惜しみなく怪獣デザインにつぎ込み、誰も目にしたことのない意外性を持つ形を次々に生み出した。

後年、成田は京都府大江山町（現・福知山市）から《鬼のモニュメント》（1990 年）の制作を依頼される。彫刻家として最高の仕事であるモニュメント制作に、成田は全身全霊をかけて取り組んだ。1990 年に完成した、身をよじらせた 3 体の鬼による躍動感あふれる造形は、まさに成田が彫刻で追究してきた「生命感と力の表現」そのものである。その 4 年後には岩手県北上市からの依頼で、鬼のレリーフを制作。こちらも入念な資料調査に裏打ちされたモチーフ選択と、成田独自のいきいきとした造形が見事に合致した作品と言えよう。

今回の展示では、怪獣と鬼を比較して紹介した。

コレクション展Ⅱ

特集展示「青森の色と形 Part1」ほか

会期：2016年7月9日（土）－9月25日（日）

特集展示「青森の色と形 Part1」

展示室 P、Q | 「赤」と「緑」

明快な四季を持つ青森県は色彩豊かな地域である。青森が有する豊かな自然や風土、さらに縄文から現代に至るエネルギーの堆積が、この地に強烈な芸術文化創造の磁場を作り出している。自然と人間の関係、そして人の心の原点ともいべき「心の自然」に立ち返り、既成の価値を超え、多様性豊かな表現がこの地から生み出されている。

本展示では、太陽の光のみならず様々な感情をあらわし、縄文遺物でも多用された「赤」と、八甲田、奥入瀬をはじめ青森の風景に顕著な「緑」という色彩を基調とした作品をとおして青森を考えてみたい。風景画、人物画、具象画、抽象画とイメージは異なっても、その多様な「色」と「形」を見れば、青森という土地が様々な創造的源泉となっていることが読み取れるであろう。

阿部合成、小野忠弘、斎藤真一、関野準一郎、高木志朗、村上善男、石ヶ森恒蔵、小坂圭二、小林喜代吉、鷹山宇一、名久井由蔵、橋本花、松木満史、松下千春、渡辺貞一の作品を展示。

展示室 J | アヴァンギャルドの「色」と「形」

1960年代から80年代初頭にかけてアングラ文化の旗手として幅広いジャンルで活躍した寺山修司（1935-1983）。柳田國男、折口信夫ら民俗学者が東北の風土に見出した、古い記憶をとどめる日本の姿や様々なフォークロア、そして自然と人間の関係…、寺山にとっての青森もまた、そうした示唆を与えてくれる存在であったであろう。ここでは、寺山が率いた「演劇実験室◎天井桟敷」の公演ポスターを紹介し、その鮮烈なイメージから、東北の風土や精神性が日本の「アヴァンギャルド」に与えた影響を振り返った。

展示室 K | 佐野ぬい、村上善男、豊島弘尚

弘前市生まれの佐野ぬい（1932-）は、豊かな色彩とリズム感溢れる作風で知られている。岩手県生まれの村上善男（1933-2006）は、岡本太郎の薫陶を受けて前衛表現を追求、1982年からは弘前市に滞在し、釘打ちをモチーフにした作品を数多く発表した。豊島弘尚（1933-2013）は八戸市に生まれ、郷土や北欧の風土、神話に着想を得た作品を手がけた作家である。ここでは、北の大地を創造の源泉においた3人の作家の仕事をとおして、青森の「色」と「形」に根差した多様な芸術を紹介した。

「その他の展示」

展示室 N、棟方志功展示室 | 青森を描く

棟方志功（1903-1975）は21歳のとき油絵画家を志して初めて上京した。青森で暮らしていたころは《故郷》というものを

特に意識して暮らしてはいなかったと思われるが、上京したことにより生活環境が変わったことで、自分の故郷というものを強く意識させられるようになったであろう。

棟方志功というと常に熱く郷土愛を語るという印象があるが、ネプタに没頭する夏、色鮮やかな紅葉に彩られる秋、白一色に埋もれる冬、目に鮮やかな新緑と一斉に花開く春。このような時を繰り返し過ごすことで、棟方志功の心に強い郷土愛が生まれたのであろう。

今回の展示では、上京したことで改めて故郷の素晴らしさを認識した棟方志功が生涯思い続けた故郷・青森を描いた作品を紹介した。

展示構成：棟方志功記念館

展示室 O、M | 馬場のぼるのスケッチ

青森県三戸町出身の漫画家、馬場のぼる（1927-2001）は、絵本『11ぴきのねこ』（こぐま社）シリーズの作者として広く知られている。一冊目の『11ぴきのねこ』は1967（昭和42）年に出版された作品だが、来年誕生50年を迎える現在も、多くの子どもたちに愛され続けている。

馬場のぼるの作品の魅力は、読者の予想を裏切るような驚くべきオチが用意されたストーリー展開と、シンプルでありながらも生き生きとした線で表情豊かに表現された絵が、互いを補い合いながら、一つのストーリーを奏でていくところにあるといえる。文章の語り口の面白さが読者を作品世界へと導き、絵がストーリーの細部や微妙なニュアンスを語り、その作品世界をより深めていくのである。

今回の展示では、作家のアトリエに残されていたスケッチブックを中心に紹介した。

展示室 I | 成田亨 異形の神々

「ウルトラQ」、「ウルトラマン」、「ウルトラセブン」に登場するヒーロー、怪獣、宇宙人、メカニックのデザインを手がけ、その世界観を構築した成田亨（1929-2002）。もともと美術家、彫刻家であった成田は、成田が同時代の美術や西洋モダンアートから吸収した造形センスを惜しみなく怪獣デザインにつぎ込み、誰も目にしたことのない意外性を持つ形を次々に生み出した。形そのものを創出する彫刻家の仕事をそこに認めることができるであろう。

今回の展示では、酒呑童子の伝説に着想を得た成田彫刻の集大成である《鬼モニュメント》（1991年）をはじめとする鬼の作品と、怪獣のデザイン原画を比較して展示した。

コレクション展Ⅲ

澤田教一展関連企画「身捨つるほどの祖国／小島一郎・寺山修司」
ほか

会期：2016年10月1日（土）－12月11日（日）

澤田教一展関連企画「身捨つるほどの祖国／小島一郎・寺山修司」
展示室 K | 小島一郎

青森市大町で、玩具と写真材料を扱う商店の長男として生まれた小島一郎（1924-1964）は、青森県立商業学校を卒業後、出征。戦後の混乱期を経て、1954年頃から本格的に写真を始めた。津軽平野の秋の田で一日中働く農夫たち。寒風吹きすさぶ下北の浜辺で、必死に船を引き揚げる漁師。郷土、青森に生きる人々への深い共感を、覆い焼きや複写の技法を駆使しながら、印画紙に刷り込むようにして焼きつけた写真の数々は、39歳という早すぎる死の後、展覧会や写真雑誌で取り上げられ、近年その評価は高まっている。

カメラマン・澤田教一は高校卒業後の一時期、この小島が経営する小島写真機店で働いていた。具体的なエピソードは知られていないが、暗室での作業をともにした2人の間には交流があり、澤田が小島の写真に取り組む姿勢に学んだことは少なくなかったと妻のサタ夫人は語っている。

小島一郎は1961年、フリーカメラマンとしての活躍の場を求めて東京へ移住するが、ちょうど同じ年に、澤田もまたプロのカメラマンを目指して上京している。その年の暮れ、UPI通信東京支局への就職が決まった澤田は、小島の自宅にその報告に訪れており、小島は澤田の就職をわが事のように喜んでいて、と妻の弘子夫人は述懐している。

身を削るようにして厳寒の地の撮影に挑んだ小島一郎。銃弾が飛び交う前線での撮影を繰り返した澤田教一。今人々の心をつたう二人の写真は命という大きな代償を伴っていた。そして被写体に向かうその強烈なエネルギーは、彼らが青森という地に生を受けたことと何かしら関係がある気がしてならない。

遺族から当館に寄託されている3,000点以上におよぶ作品と資料の中から、小島一郎の代表作を紹介した。

展示室 L、M、J | 寺山修司

澤田教一と寺山修司（1935-1983）は青森県立青森高等学校の第4期生として昭和29年に卒業した同級生。澤田は写真部に、寺山は文学部と新聞部に所属して高校時代から創作活動をはじめており、後の2人の世界的活躍の原点をこの高校時代に認めることができる。特に寺山は高校時代から、京武久美と俳句雑誌『牧羊神』を主宰したり、俳句の改革運動を推進する「全国学生俳句会議」を結成するなど、精力的な活動を行っていた。2人は同じ早稲田大学を受験。澤田は不合格となり青森にとどまる一方、寺山は合格し、教育学部国文学科（当時）へ進学。2人の人生はここで大きく分かれていく。早熟の天才であった寺山は、弱冠22歳で処女作『われに五月を』を出版。その後、俳人、歌人、劇作家、エッセイストなど多方面で才能を発揮、1967年には「演劇実験室◎天井桟敷」を結成し、日本のアンダー

グラウンドカルチャーを牽引する存在となっていったが、その様々なイメージの中にあられ、消えるのは故郷青森の風景と言葉、そして土俗のな力だった。

澤田展にあわせ、寺山芸術における「故郷」の存在が、東京という表現の「戦場」へどのように影響を与えたのかを探った。

協力：三沢市寺山修司記念館、テラヤマ・ワールド

特集展示「青森の色と形 part2」

展示室 O、P、Q | 石井康治：詩・季・彩－秋を思う

青森の自然に魅せられ、その光と風が織りなす北国の四季を、彩り豊かなガラス作品にうつし取った石井康治（1946-1996）。1991年、今、県立美術館が建つ場所に程近い、青森市内に工房を構え、1996年50歳で急逝するまで、この地で精力的にガラスの素材と技法について研究を重ね、「彩烈文」「環象文」「彩花文」など、青森の四季と風土にインスピレーションを受けた独自の文様を次々と生み出した。

「色ガラスを用いて自分のイメージを詩のような感じで作りたい。」と語っていた石井は、ドローイングやデッサンなどで自然を写生することからはじめ、工房で熱したガラスを中空の棹に巻き取り、息を吹き込んで膨らませ、そこに選び抜いた色ガラスを溶着させ、イメージしたかたちを作りあげていった。繊細な感性と優れた造形感覚、そして確かな手の技に裏打ちされつつ、自然との対話、ガラスという素材との対話から生まれた作品は、それぞれが彼の愛した青森の四季を謳う一篇の詩のように、私たちに語りかけてくる。

自らの創作テーマを「詩・季・彩」という言葉で語っていたように、石井がガラスで描き上げた四季、今回は秋をテーマにした作品を中心に紹介した。

「その他の展示」

展示室 N、棟方志功展示室 | 心のふるさと

棟方志功（1903-1975）の故郷は青森である。

棟方はその青森を板画に、倭画に、油絵に様々に描き、また多くの著書で故郷への想いを表現してきた。

それは八甲田山の山並みや青森を取り巻く海などの心をつたう風景であり、故郷の悲運な人々の幸せを願う心であり、或いはずっと親しんできたネブタなどの風物であった。

棟方は青森の風景、人々との交流、四季の移ろい、風物などをすべて含めて《青森の泣きも笑いも切なさも憂いも、みんな大好きなものです》と語っている。

しかし、また同時に、子供の頃のきびしい暮らしや、画業を容易に認めてくれない故郷の人々のことなど切ない思いもたくさんあったのではないだろうか。

一方、棟方志功には「心のふるさと」とも言うべき存在があった。「心のふるさと」には落ち着きや安らぎがあり、出会った人々との良い思い出があり、生まれ故郷では得られなかった人との触れ合いがある。

棟方は板画を始めてから間もなくして民藝運動を提唱していた柳宗悦、河井寛次郎、濱田庄司らと出会った。それが縁となって多くの先達の知遇を得、また日本各地の知人を訪ねるように

なったが、棟方はそれらの出会いによって自らを豊かにしてい
き、優れた作品を数多く生みだした。

今回の展示では青森の風物をはじめ棟方の心をとらえたもの、
人々との出会いから生まれた作品を紹介した。

展示構成：棟方志功記念館

展示室Ⅰ | 成田亨 異形の神々

(コレクション展Ⅱと同内容。※展示作品は異なる)

コレクション展特別企画 青森コンプレックス 2016

会期：2016年12月21日（水）－2017年3月5日（日）

青森県立美術館開館10周年にあたり、コレクション展特別企画「青森コンプレックス2016」を開催した。

棟方志功、奈良美智、成田亨など青森を代表する作家をはじめ、近代以降、新たな時代にふさわしい美を模索した画家たちや既成の枠組みに囚われないユニークな表現を追求した作家たちの作品、そして版画制作が盛んな青森ならではの第一級の版画コレクションなど、コレクションの中核をなす傑作群を常設展示室、企画展示室を使用して一挙公開。マルク・シャガールによる、バレエ「アレコ」の舞台背景画3点を展示する大空間「アレコホール」を中心に、街の広がりのように配された大小さまざまな展示室一部屋ごとに個性的な展示を展開した。

また、2011年、開館5周年に開催を予定しながら東日本大震災の影響で中止になった「青木淳×杉戸洋 はっばとはらっば」展のために準備されていた構造物「ぼよんな小屋」に着想を得て制作された、青木淳、杉戸洋を中心としたユニットspiders（本作では、建築家の大石雅之が参加）の《ぼよんろうそく》を美術館のエントランスに展示した。

棟方志功展示室 | 多彩な芸業

棟方志功（1903-1975）は板画家として知られているが、その画業の出発点は油絵であった。雑誌『白樺』に掲載されていたゴッホの《ヒマワリ》を見て「わだばゴッホになる」と叫んだという話は、棟方について語るときのエピソードとして、良く知られているものの一つである。

棟方は1924年帝展入選を目指して上京、独学で油絵を学び1928年に帝展初入選を果たした。この入選を機に版画を始めるようになったが、そのきっかけとなったのは川上澄生の版画作品《初夏の風》と出会ったことであった。棟方はこの作品を見た途端「いいなあと思い、心も体も伸びて行くような気持ちになっていました」と、そのときの感動の様子を語っている。版画を始めた棟方は、当初川上澄生の垂流のような作品を制作していたが、自分なりの表現というものを模索する中、徐々に自分のスタイルを確立していった。また、1950年代中頃からは「大首絵」とも呼ばれる棟方独自の美人画を制作するなど、常に新しい表現に挑み続けた。

棟方志功は板画家として高い評価を受けているが、その画業は版画だけではなく倭画（やまとが）と呼んでいる肉筆画、油絵、書など幅広いものがある。棟方はそれらの画業に余すところなく才能を発揮しており、それぞれに棟方らしさを見出すことができる。

今回の展示では初期の油絵をはじめ、習作期とも言うべき時期の版画作品などのほか、倭画や書などを紹介した。

展示構成：棟方志功記念館

展示室 M、N、L | みちのくの日本画 異端と伝統

青森県の戦前を代表する日本画家といえば、野澤如洋（1865-

1937）と篤谷龍岬（1886-1933）の二人の名が上げられる。野澤如洋は、明治以降、西洋美術の影響も受けながらさまざまな新しい試みがなされた日本画の世界において、あえて水墨画にこだわり、新たに生まれた官展に背をむけ、独自の世界を描き続けた。時代の趨勢からいえば異端ともいうべき如洋だが、より大きな東洋古来の水墨画の伝統に忠実であったともいえるであろう。また、篤谷龍岬は帝展・文展を中心に活躍し、特選受賞を繰り返し、審査員までのぼりつめた。源氏物語や平家物語といった題材を、日本の伝統的な大和絵のスタイルを学びながら描き、当時大きな人気を博した龍岬だが、彼の作品からは伝統におさまらない彼独自の濃厚な色彩感覚や詩情を感じ取ることができる。この二人の他に、龍岬の師であった寺崎廣業（1866-1919）、龍岬の組織した画塾鐸鈴社に所属した須藤尚儀（1902-1956）の作品を展示した。

展示室 O、P、Q | 近藤悠三：^{いのちみなぎ}生命漲る染付

青森県立美術館は、人間国宝にも認定された日本近代陶芸の巨匠、近藤悠三の一大コレクションを有している。作家と親交のあった八戸市出身のコレクターから寄贈された94件（150点）は、国内でも有数のコレクションとなっている。

京都に生まれた近藤悠三（1902-1985 本名：雄三）は、京都市立陶磁器試験場付属伝習所に学んだ後、同試験所に助手として勤務した。当時、河井寛次郎と濱田庄司が技手として在籍しており、近藤はここで濱田の助手を務め、続いて富本憲吉の助手として奈良に赴いた後、京都に戻って本格的な作品制作を始める。試験場で陶芸の基礎を学び、日本の近代工芸を築いてゆく先輩達と制作の現場で身近に接した近藤は、確かな手の技と伝統を受け継いだ美意識とともに、枠にとらわれない自由な発想による精力的な創作活動で日本の陶芸界に大きな足跡を刻み、1977年には、染付の技法で重要無形文化財保持者（人間国宝）の認定を受けた。

自然の草木果実や山々などのモチーフを、絵画的な筆致と濃淡の諧調によって表現するその作風は、豪放、雄勁、そして自ら名前に用いた「悠」の字のとおりぴやかで、作品全体に生命力が満ち溢れている。白と青の染付に加え、釉裏紅、赤絵、金彩など多彩な技法を駆使して、三次元の器に描かれた「絵画」を実現した近藤悠三独自の造形世界を、代表作の数々で紹介した。

展示室 J、I、H | ^{うた}詩われし心、^{あらか}現れし光、そして響き合う色と形
版画は多様性に富んでいる。簡単に言えば、版画は、版で形を作り、色を載せ、摺り上げてできるものなのであるが、一見単純にも思えるこの制作過程のなかで、材質の選定、版の作り方、絵の具やインクの載せ方、そして摺り具合まで、繊細な作業とさまざまな工夫が積み重ねられている。作家たちは、このような多様な創作技法を駆使して、各々が心に抱く作品世界を紙の上に創造してきた。そこには、制作上の形式においても、内容においても、驚くほど多彩な表現が包含されている。

青森県立美術館が20年にわたり収集を続けてきた版画コレクションから、今回は三つのテーマにより、版画の多様性を紹介した。

[展示室J 詩われし心]

清宮質文（1917-1991）は、静謐な詩情を湛えた作風で、木版画に独自の境地を切り拓いた作家である。作品には蝶や魚などの小さな生き物が愛おむように描かれ、ガラスの小壺や小筐のような小さな容れものが仄かな燦めきを放っている。

清宮は、これらのモチーフを包み込む光を含んだ空気を、水彩絵具を薄く重ねた色彩と、筆の刷毛目や版の木目を生かした繊細な風合いによって創り出し、作品に命を吹き込む。清宮自身の言葉を借りると、それは「深く、澄んだ、無限に深い」空気であり、その透明な世界は、私たちのさまざまな想いをその中に溶かし込んでくれるかのようなのである。

[展示室I 響き合う色と形]

19世紀後半の、アカデミックな規範から離反し、自らの感覚を第一とした印象派の誕生を経て、20世紀に入ると、自らの内面に注目し、感情や精神性の表現を志向する新たな美術運動が抬頭してきた。そこでは、それまで美術の主要な主題であった、目に見える具体的な対象や、物語をそれらしく描くことから解放され、その時作品の主役となったのは、色と形そのものであった。

「何が描かれているか」を理解することが重要なのではなく、理解しなくとも、色と形によって直接心に働きかける作品を観る体験は、音楽を聞くことに近いものとなる。事実、このような美術作品の創造を目指した画家たちの多くは音楽にも造詣が深く、音楽からインスピレーションを受けた作品も制作している。また、色と形による創作理論を音楽と関連づけることもよく行われた。

近代日本における抽象表現の先駆者である恩地孝四郎（1891-1955）、色と形が人間の精神にもたらす効果を音楽と対比して理論的に考察し、創作において実践したカンディンスキー（1866-1944）、音楽教師の父と声楽を学んだ母のもとに生まれ、妻もピアニスト、自身も幼いころから音楽に親しみ、ヴァイオリンの腕はプロ級だったクレー（1879-1940）、そして、「色彩の魔術師」と評される一方、優れた造形力も兼ね備えていたマティス（1869-1954）など、20世紀の初めから、色と形による新たな表現に挑んだ作家たちの作品を紹介した。

[展示室H 現れし光]

光の表現は、古くから芸術家たちにとって、精神的にも技術的にも大きなテーマであった。

光は世界を色彩で満たすが、本展示では、色彩ではなくモノクロームの版画作品における光の表現を紹介した。

そこでは、黒を基調にしたモノクロームの微妙な諧調や質感で、「光」を表現するために「影」や「闇」を丹念に描くという逆説的な手法を用いて、さまざまな光が生み出されている。

モノクロームの世界であるがゆえに、そこに現れた光は、現実を超えた精神性を帯び、画面に神聖さや崇高さをもたらす。眩い輝き、幽かなきらめき、暖かな光、凜と冴えた光、そして画面に差し込む光と画面から放たれる光。一つ一つの作品に宿った光を展覧した。

展示室E、C | 幻想の青森

北国の厳しい自然環境の中で、青森県には縄文以来連綿とつらなる精神的な文化風土が育まれてきた。太宰治や寺山修司をはじめとする文学者のもとより、美術の分野においても、豊かな想像力で独自の世界を描く画家達を輩出している。

弘前生まれの工藤甲人（1915-2011）は、若き日にポッシュの絵画の影響を受け、鳥や樹木などを題材に幻想的な作品を描いた。湘南に居を移してから、故郷の津軽の風景を岩絵の具を用いた華麗な色彩で描いているが、今回展示した代表作の四季シリーズは、それぞれの季節のなかで生きとし生けるものたちの姿を幻想的な自然のなかに描いている。

また、田舎館村出身で、同じく湘南に住んでいた田沢茂（1925-2014）は、奔放な想像力で日本の鬼や神仏などを描いている。伝統的な日本の美術の題材とモダンなスタイル、津軽の土俗的な味わいなど自由奔放に描かれた絵画世界は晩年まで衰えることはなかった。

青森市浪岡出身の阿部合成（1910-1972）はシベリア抑留など過酷な戦争体験をもった画家。《野ざらし（軍歌A）》に描かれる、忘れ去られて野にさらされたしゃれこうべに深い祈りと怒りの感情がこめられているかのようなのである。

青森市出身の渡辺貞一（1917-1981）、八戸市出身の名久井由蔵（1917-1979）はともに国画会を中心に活動した画友。重厚なマチエールに静かな夜の詩情を感じさせる。

七戸町出身の鷹山宇一（1908-1999）は二科会で活躍。戦前はシュールレアリスムの木版画を中心に制作していたが、戦後は暗緑色を基調に、遠い記憶の底をのぞき込むような深い幻想に満たされた作品を描いた。

軍隊に属していた父親の赴任地である弘前で生まれた斎藤義重（1904-2001）は、鷹山宇一と同じく、戦前の二科会の前衛的なグループである九室会、美術文化協会に属していた。板を用い、平面と立体、絵画と彫刻の領域を超えていく抽象的な作品群は「もの派」にも大きな影響を与え戦後前衛美術を代表する作家の一人となっていった。本展示では、戦後すぐの珍しい具象の作品《あほんだらめ》（1948年）を紹介した。

展示室C、D | 反芸術から汎芸術へ：〈もう一つの〉青森のための連鎖反応

反芸術はダダや未来派にルーツをもち、主に50年代～60年代にかけて世界各地で展開された芸術運動である。既存の社会観の解体を試みる反芸術は、芸術を人の日常や社会全体の中で捉え直すもの、いわば汎芸術を志向するものといえる。

日本における反芸術の走りとしては、身体行為と密接に結びついた関西の「具体美術協会」の活動などが挙げられるが、一般化するのには美術批評家・東野芳明が執筆した1960年「読売アンデパンダン展」出品の工藤哲巳（1935-1990）らの作品に対する批評文「ガラクタの反芸術」以降のことであった。既存の美術制度との軋轢を抱え込みながらも、ここで一気にブームとなった反芸術を弾みに、「ネオ・ダダイズム・オルガナイザーズ」「ハイレッド・センター」といった芸術活動が次々と生まれる。その先鋭的な活動はやがて70年代、物と人・空間の関係を極



青森コンプレックス 2016 「反芸術から汎芸術へ：〈もう一つの〉青森のための連鎖反応」
(展示室C) 展示風景

限まで突き詰める「もの派」の活動に行き着くことになった。そしてこれらの芸術活動の核には、上述の工藤哲巳や村上善男(1933-2006)、斎藤義重など実に多くの青森ゆかりの作家たちが含まれていた。

本展示では、青森県立美術館所蔵の国内外の反芸術～もの派的な動向を示す作品に、時代を同じくして美を見出された縄文の資料(三内丸山遺跡出土)や民藝の手仕事の作品を加えて展示した。戦後芸術の軌跡を紹介するとともに、反／汎芸術の世界—即ち戦後の「ガラクタの廃墟から根生えた強烈な観念の世界」(東野)と現実を改めてつなぎ、その狭間に見え隠れする〈もう一つの〉青森を連鎖反応的に呼び起こす試みともなった。

展示室 B | 成田亨 異形の神々

(コレクション展Ⅱと同内容。※展示作品は異なる)

展示室 A | 菊地敦己 重さと軽さ Heaviness and Lightness

菊地敦己は、青森県立美術館のVI(ヴィジュアルアイデンティティ)計画を担当するアートディレクター／グラフィックデザイナーである。美術館全体の体験をイメージとして伝達していくことを意図してデザインされたシンボルマークやロゴタイプ、サイン等は美術館の建物や周囲の環境と調和しながら独自の景色を作り出し、開館以来多くの来館者に親しまれている。美術やファッション、建築などの分野のグラフィックデザインを菊地は多く手掛けているが、それと平行してグラフィックデザインそのものを言及した作品制作や発表を行なっている。今回は、これまでに発表されたプリント作品とカットティングシート、扇風機により再構成された新作インスタレーションを展示した。

開館 10 周年記念事業

青森県立美術館 10 周年《夏の祝祭》

1 事業概要

2006年7月13日に開館した青森県立美術館は今年10周年の節目の年を迎えました。それを記念して、企画展、コレクション展の他、様々な記念事業を行いました。青森県立美術館のこれまでの10年の歩みを振りかえりつつ、美術館の空間を活かした様々な祝祭イベントを展開しました。

(1) 青森県立美術館、10回目の誕生日！

7月13日は青森県立美術館の誕生日。10回目の誕生日を記念して、来館者先着100名様に10周年記念特製ポストカードセット（非売品）をプレゼントしました。

日時：7月13日（水）9:00-18:00

プレゼント引き渡し場所：1F チケットカウンター

(2) 5台ピアノコンサート：「北十字星からの贈りもの」

アレコホールにおいて青森県立美術館の開館10周年を記念し『5台ピアノコンサート「北十字星からの贈りもの」』と題し、7月22日（金）・23日（土）の全2公演開催しました。演奏者は青森県在住のピアニスト、浅野清氏、矢野吉晴氏、佐藤慎悟氏、村田恵理氏と、北海道函館市在住のピアニスト、高実希子氏、5人のピアニストが一堂に会し、アレコホールに配置された5台のピアノを演奏するという貴重な公演となりました。

日時：7月22日（金）・7月23日（土）

各 19:00 開演（開場 18:30 / 受付開始 18:00）

場所：アレコホール

参加人数：計 400 人

(3) 青森県立美術館：10年の歩み展

青森県立美術館はその特徴的な建築、V.I.（ヴィジュアル・アイデンティティ）の可能性を引き出しながら、地域に根ざしたコレクション展、そして国内外の様々な芸術を体感してもらう企画展を開催することで青森と美術館の個性を顕在化させてきました。この展示では美術館の魅力に迫るとともに、これまでの企画展ポスターやドキュメントを紹介することでその10年の歩みを振り返りました。さらに、伊藤ゴロー氏×ホンマタカシ氏による、美術館をモチーフにした新作インスタレーションをあわせて公開しました。

日時：7月23日（土）－8月7日（日）9:00-18:00

（入館は 17:30 まで）

会場：コミュニティギャラリー

観覧料：無料

参加人数：1,216 名



(4) アートフィルム上映：ちかの名作劇場

青森県は川島雄三、鈴木清順、寺山修司、相米慎二、佐藤真、安彦良和、下山天、横浜聡子など、出身／ゆかりを含め、数多くの映画監督を輩出してきた地域です。なかでも寺山修司による実験映画は映画のあらゆる「約束事」を否定し、感情や欲望を刺激するイメージに満ちたもので、その後の映像表現に大きな影響を与えました。今回の上映会では、そうした寺山の先駆的作品から現在に至るアートフィルムを愛知芸術文化センターの全面的な協力により紹介しました。

日時：7月30日（土）、31日（日）各 13:00～17:00

会場：シアター

観覧料：無料

定員：200名（先着順）

協力：愛知芸術文化センター

参加人数：65名

上映プログラム

○30日

＝寺山修司作品を中心に＝

- ・寺山修司「トマトケチャップ皇帝」（1971年、27分）
- ・「一寸法師を記述する試み」（1977年、19分）
- ・「二頭女」（1977年、15分）
- ・「消しゴム」（1977年、20分）
- ・「書見機」（1977年、22分）
- ・和田淳子「ボディドロップアスファルト」（2000年、96分）
- ・佐藤真「SELF AND OTHERS」（2001年、53分）
- ・萩原朔美氏（映像作家・多摩美術大学教授・前橋文学館館長）と越後谷卓司氏（愛知県美術館主任学芸員）によるアフタートーク

○31日

＝愛知芸術文化センター・オリジナル映像作品＝

- ・勅使川原三郎「T-CITY」（1993年、28分）
- ・キドラット・タヒミック「フィリピンふんどし 日本の夏」（1996年、39分）
- ・大木裕之「3+1」（1997年、82分）
- ・石田尚志「フーガの技法」（2001年、20分）
- ・辻直之「影の子供」（2006年、18分）
- ・大山慶「HAND SOAP」（2008年、10分）
- ・山城知佳子「想像の発端－アブダクション／子供」（2015年、18分）

(5) 矢野顕子×伊藤ゴロー スペシャルライブ in アレコホール
美術館竣工時にこけら落としとして素晴らしい演奏を披露した矢野顕子さんと、青森出身のボサノヴァ・ギタリスト伊藤ゴローさんによるスペシャルライブを開催しました。

日時：8月7日（日）19:00開演（18:30開場）

会場：アレコホール

観覧料：無料

定員：200名（全席自由）

申込方法：往復はがきによる申し込み

参加人数：200名（応募総数700通）

(6) 青森県・函館デスティネーションキャンペーン特別企画：

青森県立美術館建築ツアー

隣接する三内丸山遺跡の発掘現場のような土壁、その上に覆い被さった白い構造、その間に生まれた数々のユニークな空間、そして、統一されたオリジナルフォントによる案内サイン等、当館の建築・デザインにスポットを当てた建築ツアーを行いました。

日時：7月2日（土）～9月24日（土）の毎週土曜

13:30～14:00 / 14:30～15:00

集合：地下2階エレベータ前

定員：各回先着15名（参加者にはオリジナルグッズプレゼント）

申込：不要



県美の冬物語

WINTER WHITE MUSEUM

1 事業概要

開館 10 周年を迎えた県立美術館は、雪の中の白い美術館で、白い季節を彩るイベントを開催した。

(1) 八角堂リニューアルオープニングセレモニー

開館 10 周年を記念し、美術館南側の八角堂に、奈良美智氏によるブロンズ像の新作《Miss Forest / 森の子》が設置されたことから、その初披露となる、オープニングセレモニーを開催した。

当日は、やわらかな光でライトアップされた八角堂の周りで、青森明の星高校音楽部の皆さんによる美しい歌声とハンドベル演奏を実施し、クリスマスに開催されたセレモニーに花を添えた。

日時：2016 年 12 月 23 日（金・祝）

16:00 - 18:00

会場：八角堂周辺

セレモニー参加者：知事 三村申吾
館長 杉本康雄
副館長 小笠原博
招待者 奈良美智氏ほか
一般来館者 約 300 人

司会：上明戸華恵

コーラス・ハンドベル演奏：青森明の星高等学校音楽部



八角堂リニューアルオープニングセレモニー

(2) クリスマスライトアップ

クリスマスに合わせて新しくなった八角堂の周辺をクリスマスにちなんだ照明によりライトアップした。

日時：2016 年 12 月 23 日（金・祝） - 25 日（日）

16:00 - 18:00

会場：八角堂周辺

※カフェ「4匹の猫」・ミュージアムショップは 18 時まで延長

営業。（カフェのラストオーダーは 17:30）

(3) 美術館からのお年玉

元日から開館することに合わせ、三が日にコレクション展特別企画「青森コンプレックス 2016」をご鑑賞いただいた方に 10 周年記念オリジナルポストカードセットをプレゼントした。

日時：2017 年 1 月 1 日（日・祝） - 1 月 3 日（火）

引き渡し場所：総合案内

※各日先着 200 名様限定

(4) 雪まつり

奈良美智氏の新作《Miss Forest / 森の子》が展示された八角堂の周りに、大きな「かまくら」を 3 基制作したほか、美術館の正面には、馬場のぼる氏の絵本「11 ぴきのねこ」を題材にした雪像を設置した。なお、かまくらと雪像の制作にあたっては、陸上自衛隊青森駐屯地隊員の皆様の御協力をいただいた。

日時：2017 年 2 月 11 日（土・祝） - 19 日（日）

10:30 - 17:30

会場：正面エントランス周辺・八角堂周辺

観覧者数：約 2,200 人

※八角堂階段降り口設置のカウンターによる期間内延人数

かまくら：

3 基（直径約 3 m 高さ約 2.5 m）

ライトアップ照明 15:30 - 18:15

・中に入ることも可能

・ホットドリンク等持込可

※かまくらは、陸上自衛隊青森駐屯地隊員の制作。展示期間中も安全管理及びメンテナンスのため、隊員が常駐。

※併せて、当館ボランティア「草刈隊」によりミニかまくらを制作、補修などのメンテナンスも同隊メンバーが行った。



かまくら

雪像：

馬場のぼる作の絵本「11 ぴきのねこ」に登場する“とらねこたいしょう”がモデル

長さ約 4 m 高さ約 2.4 m

※陸上自衛隊青森駐屯地隊員の制作

※雪像展示のとりやめ

2月11日(土・祝)から展示されていた雪像は、数日続いた暖気の影響で、2月13日(月)午前一部が崩れ、雪まつり中の修復は不可能と判断し、同日、展示を取りやめることとした。



雪像 (題材「11びきのねこ」から)

(5) プロジェクションマッピング

美術館の真っ白な壁をスクリーンに見立て、シャガールの「アレコ」や棟方志功の作品などを交えた青森県立美術館ならではの幻想的な世界を演出した、プロジェクションマッピングを初めて実施した。

日時：2017年2月11日(土・祝)

3回 ① 17:10 - / ② 17:30 - / ③ 17:50 -

2月18日(土)

3回 ① 17:30 - / ② 17:50 - / ③ 18:10 -

会場：正面エントランスの外壁

上映時間：約7分15秒

観覧料：無料

観覧者数：

2月11日(土・祝) ①約500人 ②約300人 ③約300人

2月18日(土) ①約150人 ②約80人 ③約40人

観覧エリア：

美術館正面駐車場側入り口付近を観覧エリア指定

※エリア外で観覧した場合、映像が立体に見えないなど、演出効果を十分に体験できない可能性があるため。

※当日、荒天により開催できない場合は、翌日(12日(日)・19日(日))に延期。

延期のお知らせは、当日12時までに美術館ウェブサイト(<http://www.aomori-museum.jp/>)に掲載。

※カフェ「4匹の猫」では、観覧エリアにおいてホットドリンク等の販売を実施

2 広報宣伝、営業概要

(1) 冬の祝祭記者発表

日時：2016年12月6日(火) 10:00 から

場所：青森県庁県政記者室

出席者：館長 杉本康雄

理事(副館長) 小笠原博 ほか

配付資料：

- ・八角堂リニューアルプレスリリース
- ・八角堂取材申込書
- ・「県美の冬物語」プレスリリース及びチラシ

(2) 宣材物作成枚数：

チラシ (A4版/カラー) 50,000枚

ポスター (B2版/カラー) 1,000枚

(3) 広報：

- ・2016年12月上旬から宣材物配布開始。
- ・青森県内の高等学校・大学・文化施設・各商店街等を中心に広報物を配布し、掲示を依頼。



青森 EARTH アウトリーチ 立ち上がる風景

青森 EARTH アウトリーチ

立ち上がる風景: new documentary for 'atopic site'

「青森 EARTH」は縄文に創造の原点をたずね、青森の大地に根ざした新たなアートを探求する企画シリーズ。2012 年から継続して実施。その中で本企画は、美術館とその周辺環境をモチーフとした「展覧会」「レクチャーワークショップ」「成果発表展示」の3ステップを軸に構成され、2016 年度企画展「根と路」と並行して進化した。本企画の主旨は美術館と縄文遺跡を擁する三内地域の住民、アーティスト、美術館が地域の過去を記録し、そこから未来のあり方を実践する「アウトリーチ(館外連携)」活動を行うことにある。2015 年度に広く津軽半島域を対象として実施した「青森 EARTH2015」で構築したアーティストと地域住民が一体となって「地域をつくる」方法論をさらに深化・展開させた具体的な実践として位置づけられる。

参加アーティストは廣瀬俊介(ランドスケープデザイナー)とhyslom(アートユニット)の二組。地域環境の綿密な調査をもとに人と自然の調和する環境デザインを手がける廣瀬氏と「遊び」を通じた風景への独自の介入・寄り添い方を実践する hyslom の活動は、いずれも三内地域の住民たちや団体の熱心さ、関心の高さに支えられ、地域の人々との協働で地域の「風景をつくる」実践となり、過去(=遺跡)と現在(=美術館)が交差する三内地域への自然誌的かつ詩的な介入として、三内の土地を未来の場所へと接ぎ木する試みとなった。

展覧会

廣瀬俊介氏によるスケッチを通じた三内地域の環境調査の結果と、ヒスロムによるこれまでの作品および今後の青森での制作プランを展示。

会期: 7月23日(土)-9月25日(日)

会場: 青森県立美術館常設展示室H

入場者数: 計 2,007 名 ※監視スタッフによる個別カウント

1,224 名(一般/510 円)、183 名(高大生/300 円)241 名(小中学生/無料)、359 名(招待者)



レクチャーワークショップ

参加アーティストのコーディネートの下、地元研究者らによるレクチャーワークショップを開催した。

総参加者数: 283 名

<廣瀬俊介企画>

(1) 青森の風景を読む会

廣瀬俊介と地元講師陣による、地域の風土を地形・気候・動植物・人間活動等の切り口を通じて学び合う連続講座を開催した。全回入場無料・申込不要

第1回「三内の大地の形について」

日時: 7月24日(日)13:00-15:00

講師: 山口義伸(日本第4紀学会会員)

会場: 美術館ワークショップ A

参加者数: 22 名



第2回「三内を取り巻く気象・海象について」

日時: 8月6日(土) 10:00-12:00

講師: 廣瀬俊介

会場: 美術館ワークショップ A

参加者数: 14名

第3回「三内に生きる動植物たち」

日時: 8月7日(日) 10:00-12:00

講師: やぶなべ会、青森・草と木の会 の方々

会場: 美術館ワークショップ A、三内丸山遺跡内「縄文植物園」

参加者数: 20名



第4回「三内に生きる人間たち I (近代編)」

日時: 8月27日(土) 14:00-16:00

講師: 逢坂淳(一般財団法人松丘保養園松桜会緑化委員)

会場: 美術館ワークショップ A

参加者数: 22名

第5回「三内に生きる人間たち II (現代編)」

日時: 9月17日(土) 14:00-16:00

講師: 一町田工(一般社団法人三内丸山遺跡応援隊代表理事)、工藤健志(青森県立美術館学芸員)

会場: 美術館ワークショップ A

参加者数: 19名

(2) 青森の風景をつくる会

廣瀬俊介による地域の新しい環境デザインを検討するためのレクチャーワークショップを開催。地域の古写真や航空写真を用いた回想法を援用するなどしながら地域の歴史を掘り下げ、地域の過去を未来につなげることを目指して行われた本シリーズには、地域の環境美化や歴史調査に取り組む市民らによるグループ「三内を美しく元気にする会」メンバーをはじめとした熱心な地元住民の参加があった。全回入場無料・申込不要

第1回「風景をつくる会への招待」

日時: 10月29日(土) 13:00-15:00

会場: 美術館ワークショップ A

参加者数: 10名

第2回「昔語りの会」

日時: 11月20日(日) 13:00-15:00

会場: 美術館ワークショップ A

参加者数: 15名



第3回「三内の風景についての提案(1)」

日時: 12月17日(日)13:00-15:00

会場: 美術館ワークショップ B

参加者数: 12名

第4回「三内の風景についての提案(2)」

日時: 2017年1月14日(土)13:00-15:00

会場: 美術館ワークショップ B

参加者数: 12名

第5回「展示計画発表」

日時: 2017年2月11日(土)13:00-15:00

会場: 美術館ワークショップ A

参加者数: 10名

〈ヒスロム企画〉

(1)「ヒスロム活動報告会」

ヒスロムが自身の活動を地域住民に向けて報告する会を開催した。

入場無料・申込不要。

日時: 8月14日(日)10:00-12:00

会場: 美術館ワークショップ A

参加者数: 13名

(2)「青森のレース鳩小屋をめぐる。」

ヒスロムによる青森のレース鳩の観察と鳩の飼い主の方への聞き取りを通じて地域の形を知る手法を体験するバスツアー。バス内ではヒスロムと工藤昇氏(日本鳩レース協会青森中央連合会会長)によるレース鳩についてのレクチャーを実施。バスツアー後はヒスロムと廣瀬氏による対談を行う。参加無料・申込不要。

日時: 12月17日(土)9:00-12:00

集合: 青森県立美術館

参加者数: 10名



〈番外編〉

「青森の風景を聴く」

前年度事業「青森 EARTH2015」における森永泰弘(サウンドデザイナー)の制作に参加した OSIM VIDEO 氏らが森永氏の助言の下、継続的な試みとして、三内地域に流れる「音」から立ち上がる風景を体験するワークショップを実施。

日時: 9月18日(日)13:00-16:00

講師: 竹谷裕平 + OSIM VIDEO

会場: 美術館ワークショップ A、美術館野外

参加者数: 16名

成果発表展示

廣瀬俊介と地域の人びとがワークショップを経て見出した、自然が響き合う「生命の風景—陸に水の点を打つように」という視座を、廣瀬氏によるスケッチや文章に、工藤正廣(ロシア文学者/詩人)による絵画作品《三内伽羅松/画譜》(2015/松丘保養園蔵)などを組み合わせて構成し展示。ヒスロムは大阪で切り出し、青森に運んだ一本の木《Good Wood Family》や木から制作したコンクリート彫刻、青森で撮影した映像作品や、青森で行ったレース鳩のリサーチ資料などを「出土のイメージ」としてまとめ、館内各所で展示。二組の成果を通じて、青森の土地と人の中で新たに「立ち上がる風景」として紹介した。

会期: 2017年3月14日(火)-同月26日(日)

会場: 青森県立美術館常設展示室H、館内各所(ワークショップヤード、図書室)

入場者数: 計 277名

157名(一般/510円)、35名(高大生/300円)、30名(小中生/100円)

円)、55名(招待者)



関連企画(1)

「ホンマタカシ ニュードキュメンタリー『最初にカケスがやってくる22分』青森上映会+トーク」

ホンマタカシ氏(写真家)による知床のエゾジカ獺を取材、定点撮影1カット4時間弱の野生のドキュメンタリー《最初にカケスがやってくる》(2015年/225分)を上映。続ヒスロムとのアフタートークでは両者の映画制作の手法を通じて、映像と「風景」の関わりを探った。入場無料・申込不要。

日時:2017年3月18日(土)開場 11:30 開演 12:00(トーク含め 17:00 終了)

会場:青森県立美術館シアター

出演:ホンマタカシ、ヒスロム

参加者数:38名

関連企画(2)ライブイベント「見えざる風景の振動を読み解く」

一年間三内地域の環境音を記録し続けてきた市内の音楽家・竹谷裕平(Yuragi Spin)企画による、三内地域の環境音を素材に青森の音楽家らが奏でる電子音楽イベントを開催。入場無料・申込不要。

日時:2017年3月19日(日)13:30-16:00頃

会場:ワークショップA

企画:竹谷裕平

参加者数:50名

記録集

「青森 EARTH2015 みちの奥へ+青森 EARTH アウトリーチ 立ち上がる風景」

編集:奥脇嵩大

執筆:奥脇嵩大

造本設計・デザイン:大西正一

発行:青森県立美術館

発行日:2017年3月15日



学芸

美術資料収集

美術資料貸出状況

作品保存修復

凡例

- 1 「美術資料収集」における作品データは、作家名、作品名、制作年、寸法（高さ×縦×横、cm）、技法、収集区分の順に記した。
- 2 「美術資料貸出状況」における作品データは、作家名、作品の順に記した。

美術資料収集

平成 28 年度収集美術資料

田澤茂 トンネルのある長屋 1953 油彩・キャンバス 73.0 × 91.0	田澤茂 鳩を飛ばす男 1977 油彩・キャンバス 131.0 × 163.0	田澤茂 地の声 (野の地蔵) 1996 油彩・キャンバス 97.0 × 194.0	田澤八甲 こけし 不詳 木地に彩色 高さ 20.0
田澤茂 風景 1958 油彩・キャンバス 194.0 × 131.0	田澤茂 風 1980 油彩・キャンバス 131.0 × 163.0	田澤茂 魍魎魍魎 1997 油彩・キャンバス 194.0 × 259.0	石井康治 彩花文器 1995 年 ガラス、宙吹き 高 33.5 × 幅 30.0 × 奥行 27.0
田澤茂 民話・線 1964 油彩・パラフィン・蠟 131.0 × 163.0	田澤茂 地藏杵 (鎮魂杵) 1982 油彩・キャンバス 163.0 × 163.0	田澤茂 石仏の詩 1990 年代 油彩・キャンバス 163.0 × 131.0	澤田教一 クイニョン, ビンディン省 1965 年 ゼラチンシルバープリント 35.5 × 23.7 青森県立美術館サポートシップ倶楽部より寄贈
田澤茂 鬼の話 1967 油彩・インク・キャンバス 131.0 × 163.0	田澤茂 ヒロシマの夏 1985 油彩・キャンバス 131.0 × 163.0	田澤茂 魍魎魍魎 2004 油彩・キャンバス 162.0 × 194.0	澤田教一 ラブチュアン, クアンナム=ダナン省 1966 年 ゼラチンシルバープリント 35.5 × 23.7 青森県立美術館サポートシップ倶楽部より寄贈
田澤茂 積木の街 1968 油彩・キャンバス 194.0 × 260.0	田澤茂 鬼の門 1988 油彩・キャンバス 194.0 × 162.0	田澤茂 茂菩薩 (自画像) 2005 油彩・キャンバス 41.0 × 31.8	澤田教一 ブドップ, ビンフォック省 1967 年 ゼラチンシルバープリント 35.3 × 23.7 青森県立美術館サポートシップ倶楽部より寄贈
田澤茂 女と男と 1969 油彩・キャンバス 163.0 × 131.0	田澤茂 樹海菩薩・恵 1993 油彩・キャンバス 194.0 × 131.0	田澤茂 羅漢と地藏 2013 油彩・キャンバス 163.0 × 131.0	澤田教一 南ベトナム 1965-68 年 ゼラチンシルバープリント 23.7 × 35.4 青森県立美術館サポートシップ倶楽部より寄贈
田澤茂 楽しい話 1971 油彩・フェルトペン・キャンバス 91.0 × 117.0	田澤茂 樹炎菩薩 (太陽と菩薩) 1994 油彩・キャンバス 194.0 × 131.0	田澤茂 日本人の神々 2014 油彩・キャンバス 163.0 × 131.0	澤田教一 南ベトナム 1966 年頃 ゼラチンシルバープリント 26.2 × 38.9 青森県立美術館サポートシップ倶楽部より寄贈
田澤茂 家族 1975 油彩・キャンバス 131.0 × 163.0	田澤茂 家族 1995 油彩・キャンバス 131.0 × 163.0	田澤八甲 初夏の妙義山 不詳 板・油彩 31.4 × 40.5	澤田教一 フォックビン北方, ロンアン省 1965 年 ゼラチンシルバープリント 35.5 × 23.7 青森県立美術館サポートシップ倶楽部より寄贈
田澤茂 夏の想出 1975 油彩・インク・キャンバス 131.0 × 163.0	田澤茂 鬼の門 1995 油彩・キャンバス 131.0 × 163.0	田澤八甲 少女像 不詳 板・油彩 33.1 × 24.0	澤田教一 コンボンスプー 1970 年 ゼラチンシルバープリント 23.7 × 35.5 青森県立美術館サポートシップ倶楽部より寄贈
			澤田教一 三沢基地内 1958 年 ゼラチンシルバープリント

40.5 × 27.0 青森県立美術館サポートシップ倶楽部より寄贈	澤田教一 恐山 青森県むつ市 1964年7月22-23日 ゼラチンシルバープリント 20.5 × 30.4	澤田教一 タンコク 1970年10月12日 ゼラチンシルバープリント 35.4 × 23.7	澤田教一 ビンロン省 1965年3月1日 ゼラチンシルバープリント 43.0 × 28.8
澤田教一 小川原湖周辺 青森県上北郡東北町 1955-61年 ゼラチンシルバープリント 27.0 × 40.4 青森県立美術館サポートシップ倶楽部より寄贈	澤田教一 恐山 青森県むつ市 1964年7月22-23日 ゼラチンシルバープリント 20.5 × 30.4	澤田教一 カンボジア 1967-70年 ゼラチンシルバープリント 43.0 × 28.8	澤田教一 ダナン 1965年4月15日 ゼラチンシルバープリント 23.7 × 35.4
澤田教一 三沢基地内 1958-1961年 ゼラチンシルバープリント 27.0 × 41.0 青森県立美術館サポートシップ倶楽部より寄贈	澤田教一 恐山 青森県むつ市 1964年7月22-23日 ゼラチンシルバープリント 20.5 × 30.5	澤田教一 カンボジア 1967-70年 ゼラチンシルバープリント 28.6 × 43.0	澤田教一 ダナン 1965年4月15日 ゼラチンシルバープリント 23.7 × 35.5
澤田教一 米軍三沢基地内 1955 (昭和30) -61年 ゼラチンシルバープリント 17.5 × 43.0	澤田教一 恐山 青森県むつ市 1964年7月22-23日 ゼラチンシルバープリント 20.5 × 30.5	澤田教一 カンボジア 1970年 ゼラチンシルバープリント 35.4 × 23.7	澤田教一 ダナン 1965年4月15日 ゼラチンシルバープリント 23.7 × 35.5
澤田教一 大三沢町 (現三沢市内) 1955 (昭和30) -61年 ゼラチンシルバープリント 20.5 × 30.5	澤田教一 恐山 青森県むつ市 1964年7月22-23日 ゼラチンシルバープリント 30.5 × 20.5	澤田教一 トンレベット 1970年5月 ゼラチンシルバープリント 26.2 × 38.9	澤田教一 ダナン 1965年4月15日 ゼラチンシルバープリント 23.7 × 35.5
澤田教一 青森県内 1955 (昭和30) -61年 ゼラチンシルバープリント 20.5 × 30.5	澤田教一 トンレベット 1970年5月24日 ゼラチンシルバープリント 23.6 × 35.4	澤田教一 トンレベット 1970年5月 ゼラチンシルバープリント 23.7 × 35.5	澤田教一 カンボジア国境付近, ロンアン省 1965年10月4日 ゼラチンシルバープリント 23.7 × 35.5
澤田教一 青森県内 1955 (昭和30) -61年 ゼラチンシルバープリント 20.5 × 30.5	澤田教一 ベトナムとの国境から6km 1970年5月7日 ゼラチンシルバープリント 28.6 × 43.0	澤田教一 タンコク 1970年10月12日 ゼラチンシルバープリント 8.2 × 43.0	澤田教一 フォックビン北方, ロンアン省 1965年10月16日 ゼラチンシルバープリント 35.4 × 23.7
澤田教一 平畑, 大三沢町 (現三沢市) 1955 (昭和30) -61年 ゼラチンシルバープリント 20.5 × 30.5	澤田教一 ベトナムとの国境から6km 1970年5月7日 ゼラチンシルバープリント 28.6 × 43.0	澤田教一 南ベトナム 1965年頃 ゼラチンシルバープリント 23.6 × 35.4	澤田教一 ブレイメ, ザライ省 1965年10月23日 ゼラチンシルバープリント 23.6 × 35.4
澤田教一 青森県内 1957 (昭和32)年 ゼラチンシルバープリント 20.5 × 30.5	澤田教一 シェムリアップ 1970年6月 ゼラチンシルバープリント 23.7 × 35.5	澤田教一 ダナン 1965年2月1日 ゼラチンシルバープリント 23.6 × 35.5	澤田教一 ブレイメ, ザライ省 1965年10月23日 ゼラチンシルバープリント 23.7 × 35.5
澤田教一 恐山 青森県むつ市 1964年7月22-23日 ゼラチンシルバープリント 30.4 × 20.5	澤田教一 カンボジア 1970年 ゼラチンシルバープリント 23.6 × 35.4	澤田教一 レバンジェット寺 サイゴン 1965年2月3日 ゼラチンシルバープリント 20.5 × 30.5	澤田教一 サイゴン 1965年11月1日 ゼラチンシルバープリント 35.4 × 23.7
澤田教一 恐山 青森県むつ市 1964年7月22-23日 ゼラチンシルバープリント 20.5 × 30.4	澤田教一 タンコク 1970年10月12日 ゼラチンシルバープリント 23.7 × 35.5	澤田教一 レバンジェット寺 サイゴン 1965年2月3日 ゼラチンシルバープリント 20.5 × 30.5	澤田教一 ブレイク, ザライ省 1966年12月24日 ゼラチンシルバープリント 23.7 × 35.5
澤田教一 恐山 青森県むつ市 1964年7月22-23日 ゼラチンシルバープリント 30.5 × 20.5	澤田教一 タンコク 1970年9月14日 ゼラチンシルバープリント 26.2 × 38.9	澤田教一 ラクソイ, キエンザン省 1965年3月4日 ゼラチンシルバープリント 23.6 × 35.5	澤田教一 フーミ, ビンディン省 1965年 ゼラチンシルバープリント 23.7 × 35.5
	澤田教一 トンレベット 1970年5月 ゼラチンシルバープリント 23.7 × 35.5	澤田教一 カンナック, ザライ省 1965年3月9日 ゼラチンシルバープリント 23.7 × 35.5	

澤田教一 ジアレ、トゥアティエン=フエ省 1966年 9月11日 ゼラチンシルバープリント 35.4 × 23.7	澤田教一 ブレイク、ザライ省 1966年12月24日 ゼラチンシルバープリント 35.4 × 23.7	澤田教一 ブドップ、ビンフォック省 1967年12月 8日 ゼラチンシルバープリント 26.2 × 38.9	澤田教一 南ベトナム 1966年頃 ゼラチンシルバープリント 35.5 × 23.7
澤田教一 シルバーシティ作戦 1966年3月14日 ゼラチンシルバープリント 23.7 × 35.3	澤田教一 非武装地帯 1967年5月19日 ゼラチンシルバープリント 35.3 × 23.7	澤田教一 ブドップ、ビンフォック省 1967年12月 8日 ゼラチンシルバープリント 35.5 × 23.7	澤田教一 南ベトナム 1965-68年 ゼラチンシルバープリント 23.6 × 35.4
澤田教一 シルバーシティ作戦 1966年3月14日 ゼラチンシルバープリント 23.5 × 35.4	澤田教一 非武装地帯 1967年5月20日 ゼラチンシルバープリント 23.6 × 35.4	澤田教一 ブドップ、ビンフォック省 1967年12月 8日 ゼラチンシルバープリント 35.3 × 23.7	澤田教一 サイゴン 1965-70年 ゼラチンシルバープリント 38.8 × 26.1
澤田教一 ゴンジャン、クアンガイ省 1966年3月28 日 ゼラチンシルバープリント 23.7 × 35.4	澤田教一 ベンサック、サイゴン 1967年1月14日 ゼラチンシルバープリント 35.4 × 23.7	澤田教一 ボブ・ホープ・クリスマス・ショー カムラ ン湾 1967年12月27日 ゼラチンシルバープリント 23.7 × 35.5	澤田教一 南ベトナム 1965-68年 ゼラチンシルバープリント 35.5 × 23.7
澤田教一 ラブチュアン、クアンナム=ダナン省 1966 年4月3日 ゼラチンシルバープリント 35.5 × 23.7	澤田教一 875高地、ダクト、コントウム省 1967年 11月17日 ゼラチンシルバープリント 23.7 × 35.4	澤田教一 ボブ・ホープ・クリスマス・ショー カムラ ン湾 1967年12月27日 ゼラチンシルバープリント 23.7 × 35.5	澤田教一 南ベトナム 1965-68年 ゼラチンシルバープリント 23.7 × 35.5
澤田教一 サイゴン 1966年6月19日 ゼラチンシルバープリント 23.7 × 35.4	澤田教一 875高地、ダクト、コントウム省 1967年 11月21日 ゼラチンシルバープリント 23.7 × 35.5	澤田教一 ボブ・ホープ・クリスマス・ショー カムラ ン湾 1967年12月27日 ゼラチンシルバープリント 35.4 × 23.7	澤田教一 南ベトナム 1965-68年 ゼラチンシルバープリント 23.7 × 35.5
澤田教一 非武装地帯から2km南 1966年9月2日 ゼラチンシルバープリント 35.4 × 23.7	澤田教一 875高地、ダクト、コントウム省 1967年 11月21日 ゼラチンシルバープリント 23.7 × 35.5	澤田教一 ボブ・ホープ・クリスマス・ショー カムラ ン湾 1967年12月27日 ゼラチンシルバープリント 35.4 × 23.7	澤田教一 南ベトナム 1965-68年 ゼラチンシルバープリント 26.3 × 38.8
澤田教一 非武装地帯から2km南 1966年9月2日 ゼラチンシルバープリント 23.6 × 35.5	澤田教一 875高地、ダクト、コントウム省 1967年 11月21日頃 ゼラチンシルバープリント 23.7 × 35.5	澤田教一 ブドップ、ビンフォック省 1967年12月 8日 ゼラチンシルバープリント 23.7 × 35.4	澤田教一 南ベトナム 1965-68年 ゼラチンシルバープリント 23.6 × 35.3
澤田教一 デッキハウスIV作戦 非武装地帯から2km 南 1966年9月16日 ゼラチンシルバープリント 23.7 × 35.4	澤田教一 875高地、ダクト、コントウム省 1967年 11月22日 ゼラチンシルバープリント 26.0 × 39.0	澤田教一 戦闘区域C 1967年 ゼラチンシルバープリント 23.6 × 35.5	澤田教一 南ベトナム 1965-68年 ゼラチンシルバープリント 23.6 × 35.5
澤田教一 デッキハウスIV作戦 非武装地帯から2km 南 1966年9月16日 ゼラチンシルバープリント 23.7 × 35.4	澤田教一 ブドップ、ビンフォック省 1967年12月 ゼラチンシルバープリント 23.7 × 35.3	澤田教一 クアンチ省 1968年1月22日 ゼラチンシルバープリント 35.5 × 23.6	澤田教一 サイゴンの北約400km 1966年4月15日 ゼラチンシルバープリント 23.5 × 35.5
澤田教一 非武装地帯付近 1966年10月3日 ゼラチンシルバープリント 35.5 × 23.7	澤田教一 ブドップ、ビンフォック省 1967年12月 7日 ゼラチンシルバープリント 26.1 × 38.9	澤田教一 クアンチ省 1968年4月28日 ゼラチンシルバープリント 23.7 × 35.5	澤田教一 レバンジェット寺 サイゴン 1970年頃 ゼラチンシルバープリント 20.5 × 30.4
澤田教一 カンボジア国境付近 (ボール・リヴィアIV 作戦) 1966年12月21日 ゼラチンシルバープリント 35.5 × 23.7	澤田教一 ブドップ、ビンフォック省 1967年12月 8日 ゼラチンシルバープリント 26.2 × 38.9	澤田教一 ブノンベン 1970年6月4日 ゼラチンシルバープリント 23.7 × 35.5	澤田教一 北ベトナム正規軍の将校 ゼラチンシルバープリント 35.3 × 23.7

澤田教一 レバンジェット寺 サイゴン 1970 年頃 ゼラチンシルバープリント 20.5 × 30.5	澤田教一 青森ねぶた (北川啓三作「森蘭丸と安田作兵衛」) / 運行: 日本通運 青森市 1960 (昭和 35) 年 デジタル銀塩プリント・タイプ C 27.0 × 39.7	澤田教一 小川原湖周辺 青森県上北郡東北町 1955 (昭和 30) -61 年 デジタル銀塩プリント・タイプ C 27.0 × 40.9	澤田教一 南ベトナム 1965-68 年 デジタル銀塩プリント・タイプ C 40.5 × 27.0
澤田教一 南ベトナム 1966 年頃 ゼラチンシルバープリント 35.5 × 23.7	澤田教一 三沢基地内 1958 (昭和 33) 年 デジタル銀塩プリント・タイプ C 27.0 × 40.5	澤田教一 小川原湖周辺 青森県上北郡東北町 1955 (昭和 30) -61 年 デジタル銀塩プリント・タイプ C 27.0 × 40.8	澤田教一 南ベトナム 1965-68 年 デジタル銀塩プリント・タイプ C 40.6 × 27.0
澤田教一 南ベトナム 1965-68 年 ゼラチンシルバープリント 23.7 × 35.5	澤田教一 三沢基地内 1958 (昭和 33) 年 デジタル銀塩プリント・タイプ C 27.0 × 40.5	澤田教一 青森県内 1958 (昭和 33) 年 7 月 21 日 デジタル銀塩プリント・タイプ C 27.0 × 40.9	澤田教一 南ベトナム 1965-68 年 デジタル銀塩プリント・タイプ C 32.0 × 48.2
澤田教一 南ベトナム 1965-68 年 ゼラチンシルバープリント 13.3 × 43.0	澤田教一 平畑, 大三沢町 (現三沢市) 1955 (昭和 30) -61 年 デジタル銀塩プリント・タイプ C 27.0 × 38.0	澤田教一 三沢基地内のゴルフ場 1958 (昭和 33) -1961 年 デジタル銀塩プリント・タイプ C 27.0 × 37.2	澤田教一 南ベトナム 1965-68 年 デジタル銀塩プリント・タイプ C 28.0 × 40.3
澤田教一 南ベトナム 1965-68 年 ゼラチンシルバープリント 35.5 × 23.7	澤田教一 古間木駅 (1961 年 3 月より三沢駅と改称) 1955 (昭和 30) -61 年 デジタル銀塩プリント・タイプ C 27.0 × 40.2	澤田教一 《防砂林の手入れ》 青森県上北地域 1955 (昭和 30) -61 年 デジタル銀塩プリント・タイプ C 27.0 × 40.5	澤田教一 南ベトナム 1965-68 年 デジタル銀塩プリント・タイプ C 27.0 × 40.2
澤田教一 米軍三沢基地正門前 1955 (昭和 30) -61 年 ゼラチンシルバープリント 20.5 × 30.5	澤田教一 三沢基地正門前 1955 (昭和 30) -61 年 デジタル銀塩プリント・タイプ C 27.0 × 40.8	澤田教一 《菜種の刈入れ》 青森県内 1958 (昭和 33) 年 7 月 21 日 デジタル銀塩プリント・タイプ C 27.0 × 40.7	澤田教一 クイニョン, ビンディン省 1965 年 デジタル銀塩プリント・タイプ C 27.0 × 27.2
澤田教一 澤田教一撮影の母・まき 1955-1961 年 ゼラチンシルバープリント 20.5 × 30.5	澤田教一 三沢基地内 1958 (昭和 33) 年 5 月 17 日 (米軍主催三軍統合記念日) デジタル銀塩プリント・タイプ C 27.0 × 37.5	澤田教一 《守子》 八戸市 1958 (昭和 33) 年 2 月 17 日 デジタル銀塩プリント・タイプ C 41.0 × 27.0	澤田教一 クイニョン, ビンディン省 1965 年 デジタル銀塩プリント・タイプ C 27.0 × 27.0
澤田教一 天ヶ森 青森県三沢市 1964 年 7 月 24 日 ゼラチンシルバープリント 23.6 × 35.4	澤田教一 小川原湖周辺 青森県上北郡東北町 1955 (昭和 30) -61 年 デジタル銀塩プリント・タイプ C 27.0 × 40.7	澤田教一 《飯橋を渡る人々》 青森県上北地域 1955 (昭和 30) -61 年 デジタル銀塩プリント・タイプ C 40.2 × 27.0	澤田教一 カンナック, ザライ省 1965 年 3 月 9 日 デジタル銀塩プリント・タイプ C 27.2 × 27.0
澤田教一 ロクチュアン, ビンディン省 1965 年 9 月 6 日 ゼラチンシルバープリント 43.8 × 31.9	澤田教一 小川原湖周辺 青森県上北郡東北町 1955 (昭和 30) -61 年 デジタル銀塩プリント・タイプ C 27.0 × 40.7	澤田教一 三沢基地内 1955 (昭和 30) -1961 年 デジタル銀塩プリント・タイプ C 27.0 × 41.0	澤田教一 南ベトナム 1965 年 デジタル銀塩プリント・タイプ C 27.0 × 27.1
澤田教一 アンリ・ユエ (1927-71) 1965-70 年 ゼラチンシルバープリント 30.3 × 20.5	澤田教一 三沢基地内軍司令部 1955 (昭和 30) -61 年 デジタル銀塩プリント・タイプ C 27.0 × 41.5	澤田教一 五行山 ダナン 1965-70 年 デジタル銀塩プリント・タイプ C 32.0 × 48.3	澤田教一 南ベトナム 1965 年 デジタル銀塩プリント・タイプ C 27.0 × 27.0
澤田教一 取材中のホースト・ファース (1933-2012) 1965-70 年 ゼラチンシルバープリント 20.5 × 30.4	澤田教一 小川原湖周辺 青森県上北郡東北町 1955 (昭和 30) -61 年 デジタル銀塩プリント・タイプ C 27.0 × 40.9	澤田教一 ダナン 1965 年 デジタル銀塩プリント・タイプ C 27.0 × 27.1	澤田教一 カンナック, ザライ省 1965 年 3 月 9 日 デジタル銀塩プリント・タイプ C 27.0 × 27.1
澤田教一 セルフポートレート 1965-70 年 ゼラチンシルバープリント 20.5 × 30.4		澤田教一 南ベトナム 1965-68 年 デジタル銀塩プリント・タイプ C 32.0 × 48.1	澤田教一 南ベトナム 1965 年 デジタル銀塩プリント・タイプ C 27.0 × 27.0

澤田教一 南ベトナム 1965_68 年 デジタル銀塩プリント・タイプ C 32.0 × 48.2	澤田教一 カンボジア 1967-70 年 デジタル銀塩プリント・タイプ C 32.0 × 48.3	澤田教一 八戸えんぶり 八戸市 1958 (昭和 33) 年 2 月 17 日 デジタル銀塩プリント・タイプ C 25.0 × 37.8	小島一郎 下北郡大間町 1961 年 ゼラチンシルバープリント 24.2 × 16.7 青森県立美術館サポートシップ倶楽部より寄贈
澤田教一 南ベトナム 1965_68 年 デジタル銀塩プリント・タイプ C 27.0 × 40.6	澤田教一 カンボジア 1967-70 年 デジタル銀塩プリント・タイプ C 40.6 × 26.1	澤田教一 香港 1969 年 デジタル銀塩プリント・タイプ C 40.5 × 27.0	小島一郎 《墓場》下北地方 1961 年頃 ゼラチンシルバープリント 16.1 × 24.2 青森県立美術館サポートシップ倶楽部より寄贈
澤田教一 ラクソイ、キエンザン省 1965 年 3 月 4 日 デジタル銀塩プリント・タイプ C 27.0 × 27.0	澤田教一 カンボジア 1967-70 年 デジタル銀塩プリント・タイプ C 32.0 × 48.3	澤田教一 香港 1969 年 デジタル銀塩プリント・タイプ C 27.0 × 40.2	小島一郎 《夕暮れ》五所川原市十三 1957 年頃 ゼラチンシルバープリント 16.1 × 24.6 青森県立美術館サポートシップ倶楽部より寄贈
澤田教一 アンコール・ワット 1967 年 デジタル銀塩プリント・タイプ C 32.0 × 48.5	澤田教一 ブノンベン 1969 年 11 月 9-10 日 デジタル銀塩プリント・タイプ C 40.8 × 27.0	澤田教一 香港 1969 年 デジタル銀塩プリント・タイプ C 27.0 × 40.4	小島一郎 津軽地方 1958-61 年 ゼラチンシルバープリント 16.7 × 24.6 青森県立美術館サポートシップ倶楽部より寄贈
澤田教一 アンコール・ワット 1967 年 デジタル銀塩プリント・タイプ C 48.0 × 32.0	澤田教一 「東洋のモナリザ」と呼ばれるデヴァター（女神）像 バンテアイ・スレイ 1967 年 デジタル銀塩プリント・タイプ C 41.4 × 27.0	澤田教一 香港 1969 年 デジタル銀塩プリント・タイプ C 40.5 × 27.0	小島一郎 つがる市木造～出野里 1960 年 ゼラチンシルバープリント 21.2 × 29.6 青森県立美術館サポートシップ倶楽部より寄贈
澤田教一 トンレサップ湖 1967-70 年 デジタル銀塩プリント・タイプ C 40.8 × 27.0	澤田教一 アンコール・ワット 1967 年 デジタル銀塩プリント・タイプ C 32.0 × 48.1	小島一郎 つがる市木造 1957-58 年 ゼラチンシルバープリント 18.5 × 30.2 青森県立美術館サポートシップ倶楽部より寄贈	小島一郎 下北地方 1961 年頃 ゼラチンシルバープリント 24.5 × 16.0 青森県立美術館サポートシップ倶楽部より寄贈
澤田教一 ブノンベン 1969 年 11 月 9-10 日 デジタル銀塩プリント・タイプ C 40.6 × 26.0	澤田教一 トンレサップ湖 1967-70 年 デジタル銀塩プリント・タイプ C 32.0 × 48.0	小島一郎 つがる市木造 1957-58 年 ゼラチンシルバープリント 18.5 × 30.2 青森県立美術館サポートシップ倶楽部より寄贈	小島一郎 津軽地方南部 1958 年 17.1 × 30.6
澤田教一 独立記念式典 ブノンベン 1969 年 11 月 9-10 日 デジタル銀塩プリント・タイプ C 27.0 × 40.6	澤田教一 アンコール・ワット 1967 年 デジタル銀塩プリント・タイプ C 48.2 × 32.0	小島一郎 《疾走》 下北地方 1961 年頃 ゼラチンシルバープリント 19.1 × 28.9 青森県立美術館サポートシップ倶楽部より寄贈	小島一郎 津軽地方 1957-58 年 11.5 × 30.5
澤田教一 ブノンベン 1969 年 11 月 9-10 日 デジタル銀塩プリント・タイプ C 35.5 × 43.2	澤田教一 《台風の後》 青森県上北地域 1955 (昭和 30) -61 年 デジタル銀塩プリント・タイプ C 27.0 × 40.5	小島一郎 つがる市車力 1957-58 年 ゼラチンシルバープリント 30.3 × 18.7 青森県立美術館サポートシップ倶楽部より寄贈	小島一郎 下北郡大間町 1961 年頃 28.2 × 19.8
澤田教一 ブノンベン 1969 年 11 月 9-10 日 デジタル銀塩プリント・タイプ C 27.0 × 40.7	澤田教一 アンコール・ワット 1967 年 デジタル銀塩プリント・タイプ C 48.3 × 32.0	小島一郎 つがる市木造 1958 年 ゼラチンシルバープリント 16.6 × 24.2 青森県立美術館サポートシップ倶楽部より寄贈	小島一郎 つがる市稲垣 1957-58 年 18.4 × 30.4
澤田教一 ブノンベン 1967-70 年 デジタル銀塩プリント・タイプ C 27.0 × 41.0	澤田教一 ベトナム市場 サイゴン 1970 年 デジタル銀塩プリント・タイプ C 32.0 × 48.3	小島一郎 つがる市車力 1958 年 10 月 19.7 × 30.4	
澤田教一 ブノンベン 1967-70 年 27.0 × 41.0cm デジタル銀塩プリント・タイプ C 27.0 × 41.0	澤田教一 八戸えんぶり 八戸市 1958 (昭和 33) 年 2 月 17 日 デジタル銀塩プリント・タイプ C 25.0 × 37.8		
澤田教一 ブノンベン 1969 年 11 月 9-10 日 デジタル銀塩プリント・タイプ C 41.2 × 27.0			

小島一郎 つがる市稲垣 1960年頃 29.8 × 19.2	小島一郎 むつ市脇野沢九艘泊 1961年1月15日, 16日 30.1 × 20	小島一郎 《地藏さん》つがる市稲垣 1960年頃 30.1 × 19.4	小島一郎 撮影地不詳 1958-1962年 24.6 × 15.7
小島一郎 つがる市稲垣 1957-58年 18.2 × 30.3	小島一郎 下北郡大間町 1961年頃 19.8 × 28.9	小島一郎 津軽地方西北部 1957-58年 18.8 × 30.4	小島一郎 津軽地方西北部 1958年11月 24.3 × 16.3
小島一郎 吹雪の浜 五所川原市磯松 1960年頃 29.9 × 19.3	小島一郎 津軽地方 1957-58年 18.9 × 30.3	小島一郎 五所川原市十三 1957-58年 30 × 18.4	小島一郎 下北郡大間町 1961年1月17日 24.2 × 16.1
小島一郎 《荒天》五所川原市磯松 1960年頃 30.1 × 19.4	小島一郎 むつ市脇野沢九艘泊 1961年頃 29.9 × 19.6	小島一郎 五所川原市十三 1957-58年 30 × 18.9	小島一郎 つがる市木造 1958年 16.6 × 24.2
小島一郎 中津軽群西目屋村付近 1959年春 29.4 × 19.5	小島一郎 《北国の漁村》五所川原市十三付近 1960年頃 30.1 × 18.8	小島一郎 つがる市 1957-58年 30.5 × 19	小島一郎 津軽地方 1958-61年 24.3 × 16.6
小島一郎 津軽地方 1960年6月10日 30.4 × 21.4	小島一郎 津軽地方 1958-61年 19.2 × 30	小島一郎 《雪地蔵》五所川原市十三 1957-58年 30.4 × 19.7	小島一郎 津軽地方 1957-58年 16.7 × 25.4
小島一郎 《段畑の雪模様》弘前市国吉付近 1959年早春 19.6 × 29.8	小島一郎 津軽地方 1957-58年 29.8 × 18.1	小島一郎 津軽地方西北部 1957-58年 18.7 × 30.3	小島一郎 下北地方 1961年頃 10.2 × 15.1
小島一郎 津軽地方 1957-58年 30.4 × 18.9	小島一郎 つがる市木造～稲垣 1959年1月 19.3 × 30.1	小島一郎 津軽地方 1957-58年 30 × 19.5	小島一郎 下北地方 1962年頃 16.5 × 24.1
小島一郎 津軽地方西北部 1957-58年 19.3 × 30.1	小島一郎 (百万遍) つがる市車力 1959年9月20日 30.5 × 19.5	小島一郎 津軽地方 1957-58年 30.4 × 18.2	小島一郎 下北地方 1962年頃 24.2 × 16.8
小島一郎 津軽地方西北部 1957-58年 29.6 × 19.6	小島一郎 (百万遍) つがる市車力 1959年9月20日 30.1 × 19.4	小島一郎 《冬が来る》津軽地方 1957-58年 30.1 × 19.7	小島一郎 下北地方 1962年頃 24.2 × 16.4
小島一郎 津軽地方西北部 1957-58年 29.6 × 18.2	小島一郎 (百万遍) つがる市車力 1959年9月20日 30.1 × 19.4	小島一郎 《母と子》津軽地方西北部 1958年11月 30 × 19.2	小島一郎 下北地方 1962年頃 23.9 × 16.4
小島一郎 津軽地方 1950年代半ば 18.9 × 30.4	小島一郎 (百万遍) つがる市車力 1959年9月20日 30 × 19.3	小島一郎 つがる市木造 1958年11月 24.3 × 16.6	小島一郎 下北地方 1961年頃 23.9 × 16.1
小島一郎 むつ市脇野沢九艘泊 1961年1月15日, 16日 30 × 20.1	小島一郎 (百万遍) つがる市車力 1959年9月20日 30.2 × 19.5	小島一郎 つがる市稲垣沼崎～車力 1958年8月 24.2 × 16.1	小島一郎 下北地方 1961年頃 15.7 × 23.9

小島一郎 下北地方 1962年頃 24.2 × 16.0	小島一郎 弘前市桜庭（東目屋方面） 1958-61年 16.5 × 24.3	小島一郎 富士山麓 1963年頃 24.1 × 16.8	小島一郎 《辻の大黒さん》津軽地方 1957-58年 24.3 × 16.4
小島一郎 下北地方 1961年頃 23.5 × 16.0	小島一郎 不詳 24.5 × 16.3	小島一郎 富士山麓 1963年頃 24 × 15.8	小島一郎 五所川原市磯松 1958年11月 16.6 × 24.4
小島一郎 五所川原市磯松 1960年頃 24.2 × 15.8	小島一郎 つがる市稲垣沼崎～車力 1958年 24.5 × 16.8	小島一郎 つがる市木造亀ヶ岡 1958年11月 24.2 × 15.9	小島一郎 不詳（津軽？） 1960年1月 16 × 24
小島一郎 五所川原市十三 1959年1月 24.5 × 16.8	小島一郎 不詳 24.3 × 16.1	小島一郎 （岩木山お山参詣）弘前市百沢 1959年9月2日、3日 24.2 × 16.5	小島一郎 五所川原市十三 1958年12月 15.9 × 24.4
小島一郎 つがる市木造 1958-61年 24.7 × 16.8	小島一郎 南 サルカ神社 川辺 1958年7月 16.6 × 24.1	小島一郎 （岩木山お山参詣）弘前市百沢 1959年9月2日、3日 16.1 × 24.5	小島一郎 つがる市稲垣沼崎～車力 1958年 16.5 × 24.3
小島一郎 津軽地方西北部 1958-61年 16.1 × 24.2	小島一郎 1958-1962年 24.7 × 17.7	小島一郎 （岩木山お山参詣）弘前市百沢 1959年9月2日、3日 16.1 × 23.7	小島一郎 《道》つがる市木造 1960年 25.8 × 17.2
小島一郎 撮影地不詳 撮影年不詳 24.5 × 16.7	小島一郎 《寒風》下北郡大間町 1961年1月17日 24.3 × 16.2	小島一郎 （岩木山お山参詣）弘前市百沢 1959年9月2日、3日 16 × 24.4	小島一郎 《寒さにふるえる馬》つがる市木造 1960年1月14日、15日 23.9 × 16.5
小島一郎 五所川原市十三付近 1960年頃 24.4 × 15.9	小島一郎 不詳 24.5 × 15.6	小島一郎 津軽地方 1958-61年 24.6 × 17.4	小島一郎 つがる市木造～車力 1958年8月 24.3 × 16.1
小島一郎 つがる市木造柴田 1959年 16.3 × 24.4	小島一郎 小島一郎 津軽地方 1960年1月 24.1 × 16.6	小島一郎 むつ市脇野沢九艘泊 1961年1月15日 24.2 × 15.7	小島一郎 下北郡佐井村長後牛滝 1961年1月18日 23.8 × 17
小島一郎 津軽地方 1958年11月 24.2 × 16.0	小島一郎 下北地方 1961年頃 24.4 × 16.9	小島一郎 下北地方 1961年 24.4 × 15.5	小島一郎 下北地方 1961年頃 24 × 15.7
小島一郎 つがる市木造 1958-61年 24.5 × 18.1	小島一郎 下北地方 1962年頃 24.1 × 16.0	小島一郎 《津軽の子》つがる市木造亀ヶ岡 1958年12月 24.4 × 16.2	小島一郎 《破風》つがる市稲垣沼崎付近～車力 1958年6月14日 24.4 × 16.8
小島一郎 五所川原市十三～藤元 1960年1月 24.5 × 16.9	小島一郎 下北地方 1961年1月 23.9 × 16.1	小島一郎 五所川原市十三付近 1960年頃 24.2 × 16.7	小島一郎 五所川原市十三付近 1958年8月28日 24 × 15.9
小島一郎 つがる市稲垣付近 1960年1月 24.3 × 16.5	小島一郎 24.2 × 16.4	小島一郎 下北地方 1961年頃 15.8 × 24.6	小島一郎 下北地方 1961年頃 24.2 × 16.4
	小島一郎 富士山麓 1963年頃 23.8 × 15.5		

小島一郎 下北地方 1961年頃 15.9 × 23.8	小島一郎 下北地方 1961年頃 24.3 × 16.6	小島一郎 津軽地方 1957-58年 16.0 × 24.3	小島一郎 つがる市木造柴田 1959年 16.2 × 24.6
小島一郎 下北地方 1961年頃 23.9 × 17	小島一郎 下北地方 1961年頃 24.3 × 16.6	小島一郎 津軽？ 24.6 × 17.2	小島一郎 《農家の片スミ》つがる市木造 1958年 24.6 × 16.2
小島一郎 五所川原市十三付近 1960年1月 24.5 × 16.8	小島一郎 下北地方 1961年頃 24.2 × 16.5	小島一郎 不詳 24.5 × 16.3	小島一郎 津軽地方 1958-61年 16.7 × 24.6
小島一郎 北海道 1960年12月 24 × 16.4	小島一郎 下北地方 1961年頃 24.1 × 16.1	小島一郎 1962年頃 24.2 × 16.3	小島一郎 つがる市稲垣 1960年頃 16.5 × 24.3
小島一郎 下北地方 1961年1月1日、2日 25.3 × 16.6	小島一郎 不詳 16.5 × 24.4	小島一郎 つがる市車力 1957-58年 24.5 × 16.7	小島一郎 西津軽郡深浦町北金ヶ沢 1957-58年 25 × 16.5
小島一郎 北海道 1960年 24 × 15.8	小島一郎 五所川原市十三 1959年1月 15.4 × 24.3	小島一郎 津軽地方西北部 1958-61年 24.6 × 15.4	小島一郎 つがる市木造川除 1959年6月 16.6 × 25
小島一郎 下北地方 1962年頃 25 × 16.1	小島一郎 不詳 24.5 × 16	小島一郎 むつ市脇野沢九艘泊 1961年頃 24.4 × 16.5	小島一郎 下北地方 1961年頃 24.2 × 16.5
小島一郎 下北郡佐井村長後福浦 1961年1月20日 24.1 × 16.6	小島一郎 不詳 25.4 × 17.9	小島一郎 五所川原市十三～脇元 1960年1月1日、2日 24.5 × 16.7	小島一郎 下北地方 1962年頃 24 × 16.1
小島一郎 下北地方 1961年頃 23.7 × 16.5	小島一郎 不詳 24.1 × 16.5	小島一郎 五所川原市十三～脇元 1960年1月1日、2日 24.9 × 15.7	小島一郎 下北地方 1961年1月1日、2日 24.2 × 16.4
小島一郎 むつ市脇野沢九艘泊 1961年 24 × 17.1	小島一郎 下北地方 1962年頃 24.7 × 16	小島一郎 《津軽の子》つがる市車力～木造亀ヶ岡 1957-58年 24.5 × 16.5	小島一郎 下北地方 1961年頃 24.1 × 16.6
小島一郎 下北郡風間浦村付近 1961年頃 16 × 24	小島一郎 五所川原市十三付近 1958年8月28日 24.2 × 16.5	小島一郎 24.4 × 15.9	小島一郎 つがる市稲垣 1960年1月14日、15日 24.1 × 17
小島一郎 下北郡風間浦村付近 1961年1月1日、2日 23.6 × 15.8	小島一郎 竜飛岬付近 1960年2月21日、22日 16.3 × 24.2	小島一郎 つがる市稲垣 1959年8月 24.5 × 16.8	小島一郎 《波浪》下北地方 1961年頃 15.2 × 10.7
小島一郎 下北地方 1961年頃 24.2 × 16.3	小島一郎 五所川原市十三～脇元 1960年1月1日、2日 24.2 × 15.9	小島一郎 つがる市木造 1958年11月 24.4 × 16.5	小島一郎 津軽地方西北部 1959年3月 10.8 × 15.7

小島一郎 弘前市悪戸 1959年 17.2 × 11.5	小島一郎 丹沢山麓 1962年 25.3 × 16.2	小島一郎 《薄暮》下北地方 1961年頃 10.1 × 15.2	小島一郎 (風景、雪) 24.2 × 16.6
小島一郎 孤独 むつ市脇野沢九艘泊 1961年1月15日、16日 15.0 × 10.6	小島一郎 《氷結》下北郡佐井村長後牛滝 1961年1月18日 23.8 × 16.2	小島一郎 津軽地方 1960年1月 8.1 × 9.1	小島一郎 (風景) 30.1 × 19
小島一郎 西津軽郡鯨ヶ沢町付近 1958 30.2 × 19.3	小島一郎 三戸郡五戸町 (旧川内村付近) 1958年頃 24.5 × 16.3	小島一郎 北金ヶ沢 1950年代半ば 30.0 × 18.5	小島一郎 (風景、海) 16.8 × 25.4
小島一郎 青森市内 1961年頃 28.9 × 19.7	小島一郎 竜飛岬付近 1960年2月 24.3 × 17	小島一郎 津軽地方 1950年代半ば 19.2 × 30.0	小島一郎 五所川原市磯松 17.4 × 25.6
小島一郎 青森市内 19.7 × 29.8	小島一郎 津軽地方西北部 1957-58年 24.5 × 16.7	小島一郎 津軽地方 1950年代半ば 30.1 × 19.1	小島一郎 (風景、雪) 24.2 × 16.3
小島一郎 津軽地方西北部 1957-58年 28.9 × 18.3	小島一郎 弘前市 1960年1月 16.4 × 24.2	小島一郎 不詳 1950年代 24.4 × 15.8	小島一郎 《北国》五所川原市十三付近 16.5 × 24.5
小島一郎 津軽地方 1957-58年 30.5 × 19	小島一郎 津軽地方 1957-58年 16.3 × 24.4	小島一郎 下北地方 1961年頃 10.5 × 15.1	小島一郎 津軽地方西北部 16.7 × 29.1
小島一郎 津軽地方西北部 1957-58年 30.4 × 20	小島一郎 五所川原市十三付近 1960年1月 24.6 × 16.6	小島一郎 (風景) 24.5 × 16.2	小島一郎 弘前市国吉付近 29.8 × 19.4
小島一郎 《石を運ぶ女たち》中津軽郡西目屋付近 1960年頃 29.9 × 19.4	小島一郎 下北郡佐井村 1962年頃 24 × 16.2	小島一郎 (風景、津軽) 17 × 25.9	小島一郎 (風景、雪) 30.1 × 20.1
小島一郎 津軽地方 1957-58年 30.5 × 18.8	小島一郎 下北郡佐井村 1962年頃 23.2 × 15.8	小島一郎 (風景) 24.5 × 16.8	小島一郎 つがる市車力 30.4 × 20.9
小島一郎 津軽地方西北部 1957-58年 18 × 29.9	小島一郎 下北郡佐井村 1962年頃 23.8 × 16	小島一郎 (風景、雪) 24.2 × 15.5	小島一郎 木造 29.6 × 19.1
小島一郎 野の地藏堂 つがる市稲垣沼崎～車力 1958年6月14日 24.3 × 16.2	小島一郎 《吹雪の夕ぐれ》 津軽地方西北部 1958-61年 24 × 17	小島一郎 (風景、津軽) 17.9 × 29.8	小島一郎 津軽地方西北部 18.3 × 28.2
小島一郎 丹沢山麓 1962年 25.7 × 16.5	小島一郎 竜飛岬付近 1960.2 16.2 × 24.1	小島一郎 (室内) 24.3 × 16	小島一郎 (風景、津軽?) 24.6 × 17.6
		小島一郎 24.9 × 17.9	小島一郎 (室内) 24.4 × 16.4
		小島一郎 (室内) 24.9 × 17.6	

小島一郎 東京都内 24.1 × 16.0	小島一郎 (風景、雪) 24.2 × 16.3	小島一郎 (木こり?) 24.3 × 16.5	小島一郎 (風景、人、雪) 24.3 × 17.4
小島一郎 田舎館 24.3 × 16.1	小島一郎 (風景) 24.3 × 16.3	小島一郎 (風景、馬) 24.1 × 16.0	小島一郎 (漁村?) 24.3 × 16.3
小島一郎 (風景) 16.5 × 24.4	小島一郎 (風景、雪) 24.2 × 16.8	小島一郎 (風景、津軽?) 24.7 × 17.4	小島一郎 (室内) 23.8 × 17.0
小島一郎 (風景) 24.4 × 16	小島一郎 木造～林～出の里 16.1 × 24	小島一郎 (風景、海) 16.0 × 24.5	小島一郎 (風景、津軽) 25.3 × 17.0
小島一郎 (木こり) 24.8 × 18.1	小島一郎 五所川原市十三 16.7 × 24.3	小島一郎 (風景、雪) 16.7 × 24.4	小島一郎 (風景、津軽) 25.2 × 16.8
小島一郎 つがる市稲垣 24.5 × 16.6	小島一郎 (風景、雪) 24.3 × 16.5	小島一郎 (風景、津軽) 24.5 × 16.1	小島一郎 (風景・雪) 17.3 × 26.0
小島一郎 (風景、雪) 16.8 × 24.1	小島一郎 下北地方 17.2 × 24	小島一郎 (風景、海) 16.0 × 24.2	小島一郎 (風景・雪) 17.1 × 25.8
小島一郎 (風景、雪) 24.1 × 16.7	小島一郎 (風景、津軽?) 24.2 × 16.1	小島一郎 (鳥) 24.2 × 16.6	小島一郎 (風景、津軽、りんご畑) 16.7 × 24.6
小島一郎 (風景) 24.5 × 17.3	小島一郎 (風景、雪、下北?) 24.5 × 16.2	小島一郎 (骨) 24.1 × 16.6	小島一郎 (風景、雪) 17.5 × 26.2
小島一郎 (風景) 24.6 × 17.2	小島一郎 つがる市木造 17.2 × 11.2	小島一郎 (風景、津軽?) 16.6 × 24.5	小島一郎 (風景、雪) 24.6 × 16.8
小島一郎 (風景、雪) 24.5 × 15.9	小島一郎 (風景、津軽?) 19.3 × 30.4	小島一郎 (津軽) 24.1 × 16.2	小島一郎 (風景、雪) 24.6 × 16.7
小島一郎 つがる市 24.3 × 16.7	小島一郎 (風景、津軽?) 18.0 × 29.9	小島一郎 (風景・雪) 16.8 × 24.2	小島一郎 (風景、馬) 24.4 × 16.5
小島一郎 (風景、雪) 24.4 × 17.9	小島一郎 (室内) 30.0 × 25.0	小島一郎 (風景、馬) 16.5 × 24.2	小島一郎 (風景、雪) 24.4 × 18.0
小島一郎 (木こり) 24.7 × 17	小島一郎 (包丁) 24.5 × 16.4	小島一郎 (風景・海) 16.0 × 24.0	小島一郎 (風景、雪、舟) 19.7 × 30.4
小島一郎 (木こり) 24.8 × 17.6	小島一郎 (風景) 24.3 × 16.2	小島一郎 (風景、津軽?) 24.6 × 16.2	小島一郎 (風景、雪、津軽?) 29.5 × 18.8
小島一郎 (風景、雪) 24 × 16.3	小島一郎 (風景、海) 24.2 × 16.5	小島一郎 (風景、馬) 16.2 × 24.4	小島一郎 (風景、雪、津軽?) 18.0 × 29.7

小島一郎 (津軽) 19.1 × 30.0	小島一郎 (風景) 30.5 × 19.5	小島一郎 (風景、雪) 30.2 × 18.5	小島一郎 (風景) 30.5 × 18.9
小島一郎 (風景、雪) 29.5 × 18.9	小島一郎 (風景) 30.6 × 19.0	小島一郎 (風景) 30.4 × 17.8	小島一郎 (風景) 18.4 × 30.2
小島一郎 (風景、雪) 18.7 × 30.4	小島一郎 (岩木山) 30.5 × 19.0	小島一郎 (風景) 30.4 × 18.2	小島一郎 (風景) 20.2 × 30.5
小島一郎 (風景、雪、津軽?) 19.0 × 30.2	小島一郎 (風景、雪) 18.5 × 30.2	小島一郎 (風景、家) 18.8 × 30.4	小島一郎 (風景) 30.5 × 18.9
小島一郎 (岩木山) 14.0 × 30.5	小島一郎 (風景、雪) 16.5 × 24.5	小島一郎 (風景、雪) 19.0 × 30.3	小島一郎 (風景、雪) 30.1 × 18.5
小島一郎 (風景、枯野) 29.4 × 20.5	小島一郎 (風景、雪) 16.8 × 24.5	小島一郎 (風景、雪) 18.9 × 30.4	小島一郎 (風景、小屋) 30.0 × 18.4
小島一郎 (岩木山) 29.6 × 20.5	小島一郎 (風景、雪、車輪) 16.8 × 24.7	小島一郎 (風景、雪) 30.0 × 16.5	小島一郎 (風景) 18.4 × 30.2
小島一郎 (風景) 30.4 × 18.7	小島一郎 (風景、雪、舟) 16.5 × 24.5	小島一郎 (風景、雪) 18.5 × 30.3	小島一郎 (風景、雪、舟) 12.8 × 30.6
小島一郎 (風景、雪) 20.2 × 29.5	小島一郎 (風景、雪) 18.4 × 30.3	小島一郎 (風景) 30.9 × 18.8	小島一郎 (風景) 20.1 × 30.3
小島一郎 (風景、川) 17.4 × 30.4	小島一郎 (風景、雪) 17.3 × 30.2	小島一郎 (風景) 19.4 × 30.0	小島一郎 (風景、枯野) 30.5 × 19.2
小島一郎 (風景、イチョウ) 30.4 × 19.8	小島一郎 (風景) 30.5 × 18.5	小島一郎 (風景、雪) 18.2 × 30.2	小島一郎 (風景、雪) 17.2 × 24.5
小島一郎 (風景、薬ぶき) 18.8 × 30.2	小島一郎 (風景、家) 30.0 × 19.7	小島一郎 (風景) 30.2 × 18.8	小島一郎 (風景) 24.5 × 16.0
小島一郎 (風景、雪) 30.2 × 18.4	小島一郎 (風景、雪) 10.8 × 30.4	小島一郎 (風景、雪、雪だるま) 30.1 × 18.5	小島一郎 (津軽) 25.2 × 16.5
小島一郎 (風景、雪) 17.5 × 30.2	小島一郎 (風景、雪、車輪、凧) 29.6 × 19.2	小島一郎 (風景、雪) 29.6 × 18.9	小島一郎 (風景、雪) 16.8 × 24.5
小島一郎 (風景、雪、馬) 30.0 × 18.5	小島一郎 (風景) 19.1 × 30.4	小島一郎 (風景、牛、リンゴ畑) 18.5 × 30.2	小島一郎 (風景) 17.5 × 24.8
小島一郎 (風景) 30.5 × 19.2	小島一郎 (風景、包丁) 30.4 × 17.4	小島一郎 (風景、雪) 30.3 × 20.2	小島一郎 (風景、雪) 24.4 × 17.8

小島一郎 (風景) 24.3 × 16.3	小島一郎 (風景、雪) 24.1 × 16.2	小島一郎 (風景、下北) 15.8 × 24.3	小島一郎 (下北群、大間町) 23.9 × 16.0
小島一郎 (風景) 24.5 × 15.8	小島一郎 (串) 24.5 × 17.6	小島一郎 (風景、地藏、雪) 24.5 × 16.7	小島一郎 (風景) 26.0 × 17.3
小島一郎 (風景) 24.5 × 16.5	小島一郎 (卒塔婆) 24.3 × 16.0	小島一郎 (風景、雪) 17.2 × 25.8	小島一郎 (風景、雪、津軽) 16.7 × 24.5
小島一郎 (風景、雪) 24.5 × 16.7	小島一郎 (風景、雪) 24.0 × 16.8	小島一郎 (風景、雪) 24.2 × 16.3	小島一郎 (風景、雪) 24.0 × 16.7
小島一郎 (風景、津軽) 24.6 × 16.8	小島一郎 (風景、半鐘) 24.7 × 16.5	小島一郎 (風景、雪、窓) 24.2 × 16.0	小島一郎 (風景、雪、津軽) 17.0 × 24.5
小島一郎 (風景) 24.9 × 17.2	小島一郎 (風景、雪) 29.2 × 19.4	小島一郎 (風景、雪、津軽?) 16.0 × 24.3	小島一郎 (風景、津軽) 16.8 × 24.5
小島一郎 (風景、雪) 24.5 × 17.0	小島一郎 (地藏、津軽) 25.4 × 17.2	小島一郎 (風景、雪) 16.2 × 24.5	小島一郎 (風景、雪、津軽) 16.7 × 24.5
小島一郎 (風景、雪) 23.7 × 16.6	小島一郎 (風景) 24.2 × 16.6	小島一郎 (風景、雪、下北?) 24.1 × 16.2	小島一郎 (風景) 24.3 × 16.7
小島一郎 (風景、下北?) 24.1 × 16.5	小島一郎 (風景) 24.4 × 16.7	小島一郎 (風景、雪) 24.2 × 17.0	小島一郎 (風景、雪、津軽) 17.5 × 26.0
小島一郎 (風景、雪) 16.2 × 24.3	小島一郎 (風景、雪) 24.1 × 17.0	小島一郎 (室内) 16.6 × 24.4	小島一郎 (風景、雪、津軽) 26.0 × 17.2
小島一郎 (風景) 17.4 × 26.1	小島一郎 (風景、津軽) 16.7 × 24.6	小島一郎 (風景、雪、落書き) 24.2 × 16.7	小島一郎 (風景、雪、津軽) 16.4 × 24.2
小島一郎 (風景) 24.4 × 17.0	小島一郎 (風景、雪、家) 30.1 × 20.1	小島一郎 (風景、雪、下北郡大間) 16.6 × 24.2	小島一郎 (風景、雪) 17.2 × 25.9
小島一郎 (風景、海) 16.4 × 24.0	小島一郎 (風景、家) 30.1 × 19.3	小島一郎 (風景、雪、津軽) 24.8 × 16.4	小島一郎 (風景、津軽) 26.0 × 17.3
小島一郎 (風景、雪) 24.1 × 16.3	小島一郎 (風景、海) 16.2 × 24.0	小島一郎 (風景、雪、窓) 24.2 × 17.0	小島一郎 (風景、津軽) 24.3 × 16.7
小島一郎 (風景、雪) 24.6 × 16.8	小島一郎 (風景、海) 17.3 × 25.5	小島一郎 (風景、雪、津軽) 25.9 × 17.2	小島一郎 (風景、雪) 16.3 × 24.5
小島一郎 (風景) 24.1 × 16.5	小島一郎 (風景、雪、津軽) 16.8 × 24.5	小島一郎 (室内) 16.2 × 24.0	小島一郎 (風景、雪、津軽) 24.5 × 16.7

小島一郎 (風景、津軽) 24.5 × 16.5	小島一郎 (風景、雪、津軽) 17.0 × 24.5	小島一郎 (風景) 24.3 × 16.4	小島一郎 (風景、雪) 24.6 × 16.9
小島一郎 (風景、雪、岩木山) 17.4 × 26.0	小島一郎 (風景、津軽) 16.4 × 24.5	小島一郎 (風景、雪) 17.5 × 26.0	小島一郎 (風景) 24.2 × 16.5
小島一郎 (風景、地藏) 24.7 × 16.8	小島一郎 (風景) 24.2 × 16.3	小島一郎 (風景、漁師) 24.7 × 17.1	小島一郎 (風景) 24.4 × 16.5
小島一郎 (風景、雪) 16.9 × 24.6	小島一郎 (風景、青森県外、お遍路) 16.1 × 24.4	小島一郎 (風景) 24.6 × 17.7	小島一郎 (風景、雪) 24.5 × 16.4
小島一郎 (風景、津軽) 16.6 × 24.3	小島一郎 (風景、青森県外、富士山?) 16.2 × 24.3	小島一郎 (風景、雪) 24.3 × 16.1	小島一郎 (風景、かかし) 24.4 × 16.7
小島一郎 (風景) 24.3 × 16.5	小島一郎 (風景、青森県外、富士山?) 24.1 × 16.0	小島一郎 (風景) 16.2 × 23.8	小島一郎 (風景、墓、雪) 24.5 × 17.0
小島一郎 (風景、雪、津軽) 15.9 × 24.2	小島一郎 (風景) 24.2 × 16.4	小島一郎 (風景) 24.4 × 17.2	小島一郎 (室内) 24.3 × 15.8
小島一郎 (風景、雪) 24.7 × 16.6	小島一郎 (風景、青森県外) 24.5 × 16.4	小島一郎 (風景、雪) 16.8 × 25.5	小島一郎 (風景、壁) 25.5 × 17.3
小島一郎 (風景) 24.0 × 16.6	小島一郎 (風景) 16.2 × 24.1	小島一郎 (風景、雪) 24.3 × 16.3	小島一郎 (風景、人) 16.5 × 24.5
小島一郎 (風景、津軽) 16.8 × 25.3	小島一郎 (風景、青森県外) 24.2 × 16.6	小島一郎 (風景) 24.0 × 16.5	小島一郎 (風景) 24.3 × 16.2
小島一郎 (風景、雪) 15.8 × 24.2	小島一郎 (風景、青森県外?) 16.5 × 24.2	小島一郎 (障子、下北?) 24.0 × 16.3	小島一郎 (風景、雪、海) 24.1 × 15.8
小島一郎 (風景、雪) 26.0 × 17.3	小島一郎 (風景、牛) 16.4 × 24.5	小島一郎 (風景) 24.3 × 16.6	小島一郎 (風景、鳥居) [反転?] 25.4 × 20.5
小島一郎 (風景、雪) 24.6 × 17.2	小島一郎 (風景、牛) 24.3 × 16.0	小島一郎 (風景) 24.5 × 16.8	小島一郎 (風景、雪) 24.2 × 16.6
小島一郎 (風景、海) 24.0 × 17.8	小島一郎 (風景、牛) 16.5 × 24.2	小島一郎 (風景、雪) 24.0 × 16.5	小島一郎 (風景) 24.7 × 17.4
小島一郎 (風景、雪、津軽) 16.8 × 25.3	小島一郎 (風景、牛) 16.1 × 24.4	小島一郎 (風景、雪) 24.3 × 16.3	小島一郎 (風景) 24.4 × 16.4
小島一郎 (風景、雪、津軽) 16.8 × 25.4	小島一郎 (室内) 24.6 × 16.0	小島一郎 (風景) 24.2 × 16.4	小島一郎 (風景、雪) 24.6 × 16.3

小島一郎 (風景、雪) 24.3 × 16.7	小島一郎 (風景) 19.4 × 30.0	小島一郎 (風景、屋根) 24.5 × 16.8	小島一郎 (風景、家) 24.4 × 16.4
小島一郎 (風景、雪) 24.4 × 17.2	小島一郎 (風景、雪) 29.0 × 20.1	小島一郎 (風景) 26.0 × 17.5	小島一郎 (風景、看板) 24.2 × 16.5
小島一郎 (風景、雪) 24.0 × 15.9	小島一郎 (風景、雪) 29.6 × 20.4	小島一郎 (風景、馬) 16.4 × 24.5	小島一郎 (風景、雪) 24.0 × 16.6
小島一郎 (風景、雪) 24.4 × 16.7	小島一郎 (風景、雪) 29.0 × 18.8	小島一郎 (風景、雪) 18.7 × 30.0	小島一郎 (風景、映画、ポスター) 24.6 × 16.4
小島一郎 (風景) 24.2 × 16.8	小島一郎 (風景、雪) 29.7 × 17.6	小島一郎 (風景、雪、舟) 17.8 × 29.5	小島一郎 (風景、映画、ポスター) 24.0 × 16.5
小島一郎 (室内) 24.5 × 16.8	小島一郎 (風景、雪) 19.4 × 30.0	小島一郎 (風景、雪) 18.4 × 30.3	小島一郎 (室内、絵馬) 24.3 × 16.6
小島一郎 (風景) 24.3 × 16.7	小島一郎 (風景、雪) 28.5 × 18.8	小島一郎 (風景、雪、海) 17.8 × 30.4	小島一郎 (風景) 23.8 × 15.7
小島一郎 (室内) 24.5 × 15.8	小島一郎 (風景、雪) 29.5 × 19.8	小島一郎 (風景、雪) 30.2 × 18.6	小島一郎 (風景、雪、家) 24.5 × 16.8
小島一郎 (風景) 26.0 × 17.2	小島一郎 (風景) 29.7 × 19.5	小島一郎 (風景、雪) 30.2 × 19.3	小島一郎 (風景、雪、海) 19.0 × 27.3
小島一郎 (風景) 24.3 × 16.3	小島一郎 (風景、津軽) 19.3 × 30.0	小島一郎 (風景) 30.4 × 20.2	小島一郎 (風景) 18.9 × 29.5
小島一郎 (風景) 24.5 × 16.7	小島一郎 (風景、津軽) 19.6 × 30.1	小島一郎 (風景) 30.5 × 22.2	小島一郎 (風景) 29.4 × 21.0
小島一郎 (風景) 24.3 × 16.0	小島一郎 (風景、雪、津軽) 19.0 × 30.3	小島一郎 (風景、雪) 14.6 × 30.2	小島一郎 (風景) 30.3 × 19.8
小島一郎 (風景、馬) 24.4 × 16.5	小島一郎 (風景) 24.5 × 17.6	小島一郎 (風景、雪) 24.5 × 16.5	小島一郎 (風景) 30.5 × 20.5
小島一郎 (風景、雪) 24.0 × 16.7	小島一郎 (風景、雪) 24.2 × 16.0	小島一郎 (風景) 24.5 × 16.5	小島一郎 (風景、壁) 30.3 × 18.7
小島一郎 (風景) 24.2 × 16.2	小島一郎 (風景、雪) 24.3 × 14.4	小島一郎 (風景) 24.2 × 16.5	小島一郎 (風景、雪) 17.3 × 26.0
小島一郎 (風景) 16.8 × 24.2	小島一郎 (人物) 24.5 × 17.3	小島一郎 (風景、家) 24.2 × 16.5	小島一郎 (風景、雪) 24.6 × 16.7

小島一郎 (風景、雪) 24.6 × 16.8	小島一郎 (風景、雪) 24.3 × 17.0	小島一郎 (風景、雲) 24.1 × 15.8	小島一郎 (風景、馬) 17.0 × 24.8
小島一郎 (風景、雪) 16.7 × 24.7	小島一郎 (風景) 24.6 × 17.2	小島一郎 (風景) 15.8 × 24.2	小島一郎 (風景) 25.1 × 16.5
小島一郎 (風景、雪) 23.8 × 15.8	小島一郎 (風景) 15.8 × 24.0	小島一郎 (風景、雲) 16.0 × 24.1	小島一郎 (風景) 24.7 × 17.0
小島一郎 (風景、雪) 24.6 × 16.5	小島一郎 (風景) 24.3 × 15.6	小島一郎 (木こり?) 23.9 × 17.5	小島一郎 (木こり?) 23.8 × 16.4
小島一郎 (風景、雪) 24.5 × 16.8	小島一郎 (風景) 24.7 × 16.2	小島一郎 (木こり?) 17.0 × 24.0	小島一郎 (風景、屋根) 14.4 × 16.4
小島一郎 (風景、雪) 16.8 × 24.5	小島一郎 (風景) 16.9 × 25.5	小島一郎 (風景) 24.5 × 16.5	小島一郎 (風景) 17.4 × 24.5
小島一郎 (風景、雪、海) 24.3 × 15.5	小島一郎 (風景、津軽) 17.2 × 25.4	小島一郎 (風景) 24.5 × 16.5	小島一郎 (風景) 24.6 × 16.5
小島一郎 (風景、雪) 16.6 × 24.2	小島一郎 (風景) 24.6 × 16.0	小島一郎 (風景) 24.5 × 16.5	小島一郎 (風景) 24.7 × 16.3
小島一郎 (風景、雪) 24.2 × 17.6	小島一郎 (風景) 24.0 × 16.7	小島一郎 (風景) 24.0 × 16.8	小島一郎 (風景、海) 24.4 × 16.5
小島一郎 (風景、雪) 24.5 × 16.7	小島一郎 (風景) 24.7 × 16.5	小島一郎 (人物) 24.6 × 16.3	小島一郎 (風景) 24.3 × 16.0
小島一郎 (風景、雪) 24.2 × 16.0	小島一郎 (風景、海) 24.8 × 16.3	小島一郎 (風景) 24.1 × 16.4	小島一郎 (風景) 16.0 × 23.0
小島一郎 (風景、雪、墓) 29.5 × 19.5	小島一郎 (風景) 24.5 × 16.5	小島一郎 (風景) 24.5 × 16.4	小島一郎 (風景) 15.3 × 23.0
小島一郎 (風景) 24.6 × 17.0	小島一郎 (風景、海、蟹) 23.8 × 15.9	小島一郎 (風景、墓) 24.5 × 16.5	小島一郎 (風景、雪) 15.5 × 23.0
小島一郎 (風景) 24.4 × 16.5	小島一郎 (風景) 24.5 × 16.7	小島一郎 (風景、海) 24.5 × 16.3	小島一郎 (風景、雪、麻) 24.8 × 17.9
小島一郎 (風景、家) 24.5 × 17.6	小島一郎 (風景、家) 24.3 × 16.8	小島一郎 (風景) 24.6 × 16.5	小島一郎 (風景、雪) 25.2 × 17.7
小島一郎 (風景) 24.5 × 16.3	小島一郎 (人物、木こり?) 24.8 × 17.5	小島一郎 (風景、馬) 24.5 × 16.2	小島一郎 (風景、雪) 16.8 × 24.5

小島一郎 (風景、雪) 17.0 × 24.5	小島一郎 (地藏、雪) 18.5 × 30.3	小島一郎 (風景) 26.0 × 19.4	小島一郎 (風景、灯台) 29.8 × 23.8
小島一郎 (壁) 17.3 × 24.5	小島一郎 (地藏、雪) 24.5 × 16.8	小島一郎 (風景) 16.8 × 23.8	小島一郎 (風景) 24.3 × 30.3
小島一郎 (風景、雪) 17.0 × 24.5	小島一郎 (地藏、雪) 30.4 × 17.9	小島一郎 (風景) 16.8 × 25.3	小島一郎 (風景) 24.0 × 30.1
小島一郎 (風景、雪) 16.5 × 24.9	小島一郎 (風景、雪) 15.5 × 24.4	小島一郎 (風景) 24.4 × 16.5	小島一郎 (風景) 31.0 × 23.3
小島一郎 (風景、雪) 24.5 × 16.7	小島一郎 (地藏、雪) 16.2 × 24.4	小島一郎 (風景) 24.2 × 16.0	小島一郎 (床) 21.5 × 28.2
小島一郎 (風景、雪) 17.0 × 24.4	小島一郎 (風景、雪、津軽) 16.1 × 24.3	小島一郎 (風景、雪) 23.0 × 15.5	小島一郎 (風景、灯台) 26.7 × 24.3
小島一郎 (風景、雪) 17.1 × 24.5	小島一郎 (風景、雪、津軽) 29.8 × 19.6	小島一郎 (風景) 24.3 × 16.9	小島一郎 (風景、灯台) 28.1 × 22.5
小島一郎 (風景、雪) 16.8 × 24.4	小島一郎 (風景、雪、津軽) 24.5 × 17.0	小島一郎 (風景、雪) 17.2 × 26.0	小島一郎 (風景) 19.2 × 29.5
小島一郎 (風景、雪) 17.0 × 24.5	小島一郎 (風景、雪、津軽) 24.7 × 17.0	小島一郎 (風景、雪) 24.6 × 17.0	小島一郎 (風景) 24.3 × 16.2
小島一郎 (風景、雪) 16.7 × 24.5	小島一郎 (風景、雪、津軽) 29.7 × 19.5	小島一郎 (風景、雪) 17.5 × 26.0	小島一郎 (風景、雪) 24.4 × 16.2
小島一郎 (風景、雪) 16.8 × 24.5	小島一郎 (風景、雪) 19.6 × 30.2	小島一郎 (風景、雪) 25.8 × 17.0	小島一郎 (風景、雪) 16.5 × 24.5
小島一郎 (風景、雪) 16.8 × 24.6	小島一郎 (風景、雪) 19.3 × 30.3	小島一郎 (風景、雪) 26.0 × 17.3	小島一郎 (風景、雪) 17.0 × 24.5
小島一郎 (風景、雪) 24.5 × 16.4	小島一郎 (風景、雪) 30.2 × 19.0	小島一郎 (風景、雪) 17.4 × 26.0	小島一郎 (風景、雪) 24.5 × 16.7
小島一郎 (風景、雪) 16.7 × 24.6	小島一郎 (風景、雪) 19.5 × 30.3	小島一郎 (風景、雪) 24.2 × 16.7	小島一郎 (風景、雪) 24.2 × 16.4
小島一郎 (地藏、雪) 30.3 × 19.7	小島一郎 (風景、雪、墓) 16.8 × 25.4	小島一郎 (風景) 24.2 × 30.5	小島一郎 (風景、雪、津軽) 24.5 × 13.0
小島一郎 (地藏、雪) 30.0 × 18.5	小島一郎 (壁) 24.2 × 16.4	小島一郎 (風景) 24.0 × 30.0	小島一郎 (風景、雪、津軽) 24.6 × 16.2

小島一郎 (風景、雪、津軽) 24.3 × 16.0	小島一郎 (風景、雪、子ども) 23.9 × 16.7	小島一郎 (八甲田山、雪) 16.6 × 25.2	小島一郎 蕨沼 (カラー) 十和田市 / 蕨沼 1964年頃 44.7 × 45.0
小島一郎 (風景、雪) 24.5 × 16.5	小島一郎 (お山参詣) 24.2 × 16.7	小島一郎 (八甲田山、雪) 16.6 × 25.2	小島一郎 「小島のトランプ」シリーズ 名刺～手札程度
小島一郎 (風景、雪) 24.5 × 16.8	小島一郎 (お山参詣) 29.4 × 16.0	小島一郎 (八甲田山、雪) 16.6 × 25.1	小島一郎 習作プリント1 キャビネ程度
小島一郎 (風景、雪) 17.2 × 25.9	小島一郎 (お山参詣) 24.2 × 16.5	小島一郎 (八甲田山、雪) 16.5 × 25.2	小島一郎 習作プリント2 3.7 × 5.5
小島一郎 (風景、雪) 17.0 × 25.8	小島一郎 (お山参詣) 16.5 × 24.2	小島一郎 (八甲田山、雪) 30.0 × 20.2	小島一郎 見本帳：津軽・竜飛シリーズ 36.5 × 47.5
小島一郎 (風景、雪) 26.8 × 16.0	小島一郎 (ねぶた) 24.3 × 15.8	小島一郎 バイブ 青森市内 1954年 40.5 × 50.8	小島一郎 見本帳：下北シリーズ 40 × 37、27 × 38.5
小島一郎 (風景、雪、津軽) 24.8 × 16.2	小島一郎 (ねぶた) 26.0 × 17.4	小島一郎 《村の半鐘》[[カメラ毎日]] 下北地方 1956年 35.9 × 27.8	小島一郎 コンタクトプリントアルバム (津軽) アルバムサイズ 32.5 × 26.5 30頁
小島一郎 (風景、雪、津軽) 24.9 × 16.3	小島一郎 (ねぶた) 17.7 × 30.5	小島一郎 《海ぞいの家》[[カメラ毎日]] 下北地方 1956年 27.8 × 35.9	小島一郎 アルバム (八甲田①) アルバムサイズ 30 × 25 (キャビネ程度のプリント28点貼付)
小島一郎 (風景) 24.5 × 16.5	小島一郎 (八甲田山、雪) 16.6 × 25.1	小島一郎 《雨の日の舟小屋》[[カメラ毎日]] 下北地方 1956年 27.8 × 35.9	小島一郎 アルバム (八甲田②) アルバムサイズ 30 × 25 (キャビネ程度のプリント24点貼付)
小島一郎 (風景) 24.3 × 16.4	小島一郎 (八甲田山、雪) 16.6 × 25.1	小島一郎 奥入瀬の溪流 (カラー) 十和田市 1963年頃 41.7 × 28.5	小島一郎 アルバム (南部方面) 32.7 × 26 (名刺程度のプリント389点貼付)
小島一郎 (風景、海、牛) 16.3 × 24.5	小島一郎 (八甲田山、雪) 16.6 × 25.2	小島一郎 みちのくの春1 (カラー) 津軽地方 1962年頃 24.4 × 16.1	小島一郎 アルバム (「冬の農家」等) 31.8 × 25.7 (キャビネ程度のプリント16点貼付)
小島一郎 (風景、祭り) 16.9 × 24.2	小島一郎 (八甲田山、雪) 25.0 × 16.4	小島一郎 みちのくの春2 (カラー) 津軽地方 1962年頃 24.4 × 16.1	小島一郎 スクラップブック 22.5 × 21.5
小島一郎 (風景青森県外、祭り) 18.3 × 24.0	小島一郎 (八甲田山、雪) 16.8 × 25.3	小島一郎 みちのくの春2 (カラー) 津軽地方 1962年頃 24.4 × 16.1	
小島一郎 (風景、祭り) 18.2 × 23.9	小島一郎 (八甲田山、雪) 25.2 × 16.6		
小島一郎 (風景、祭り) 18.3 × 24.0	小島一郎 (八甲田山、雪) 25.2 × 16.4		

美術資料貸出状況

Art and Air ～空と飛行機をめぐる、芸術と科学の物語

貸出先

- ・苫小牧市美術館

展示施設（会期）

- ・苫小牧市美術館
(2016/7/9 - 2017/9/4)

貸出点数：24

作品名

- ・恩地孝四郎「Poème No.8 蝶の季節」
- ・松江泰治「JP-01」
- ・松江泰治「JP-02」
- ・松江泰治「JP-03」
- ・松江泰治「JP-04」
- ・村上善男「津軽・赤倉澤支脈釘打圖」
- ・林田嶺一「上海郊外スコットロード街の、とある喫茶店の窓から見た櫻村兵曹長の片翼で帰還する陸軍機の機影と店内風景」
- ・林田嶺一「とある玩具店のショーウィンドウケース（兵器工場「キャラクター」）」
- ・林田嶺一「八幡港に帰国」
- ・林田嶺一「とある食堂のショーウィンドウケース（戦争と廃墟）の「キャラクター」」
- ・林田嶺一「トーチカの窓から見た国境の街、スイブンカの独立国境守備隊の基地」
- ・林田嶺一「とある食堂の窓から見た第二次上海事変」
- ・成田亨「科学特捜隊基地セット」
- ・成田亨「ビートル2号試作」
- ・成田亨「ビートル2号試作」
- ・成田亨「ビートル2号試作」
- ・成田亨「特殊潜航艇s号（3面図）」
- ・成田亨「ビートル、S号ドッキング案」
- ・成田亨「ウルトラマン初稿」
- ・成田亨「ウルトラセブン決定稿B案」
- ・成田亨「バルタン星人決定稿」
- ・アンリ・マティス版画集「ジャズ」より「イカロス」
- ・棟方志功「天駆妃妙業青赫図」
- ・小野忠弘「BLUE」

奈良美智 for better or worse

貸出先

- ・豊田市美術館、中京テレビ放送株式会社

展示施設（会期）

- ・豊田市美術館
(2016/7/15 - 2017/9/24)

貸出点数：11

作品名

- ・奈良美智「港のあの娘」
- ・奈良美智「Sleepless Night、先生の夢」
- ・奈良美智「アラビアの船」
- ・奈良美智「ゼロ戦、空中戦」
- ・奈良美智「ゼロ戦のゆめ」
- ・奈良美智「自分がかめないよ」

- ・奈良美智「西と東、2わの兎」
- ・奈良美智「続いてゆく道に」
- ・奈良美智「The Last Match」
- ・奈良美智「Mumps」
- ・奈良美智「Heads」

棟方志功—平櫛田中を「先醒」と呼んだ板画家

貸出先

- ・井原市立田中美術館

展示施設（会期）

- ・井原市立田中美術館
(2016/9/16 - 11/6)

貸出点数：11

作品名

- ・棟方志功「雪国風景図」
- ・棟方志功「八甲田山麓図」
- ・棟方志功「勝鬨譜善知鳥版画曼陀羅」
- ・棟方志功「瘋癲老人日記板画欄屏風」
- ・棟方志功「御吉祥大辨才天御妃尊像図」
- ・棟方志功「大印度の花の欄」
- ・棟方志功「富嶽大観々図」
- ・棟方志功「青森山之神図」
- ・棟方志功「日出の欄」
- ・棟方志功「日没の欄」
- ・棟方志功「日神の欄」

Tetsumi Kudo, Retrospective (工藤哲巳 回顧展)

貸出先

- ・Fridericianum（カッセル、ドイツ）

展示施設（会期）

- ・Fridericianum（カッセル、ドイツ）
(2016/9/25 - 2017/1/1)

貸出点数：45

作品名

- ・工藤哲巳「集合—増殖」
- ・工藤哲巳「バリの仏陀」
- ・工藤哲巳「カゴの中のカゴの中のカゴ」
- ・工藤哲巳「養殖・郷愁病用・あなたの居間に」
- ・工藤哲巳「放射能による養殖」
- ・工藤哲巳「電子回路の中における放射能による養殖」
- ・工藤哲巳「自然による養殖—それを見ている人々」
- ・工藤哲巳「郷愁病用、あなたの居間に」
- ・工藤哲巳「黒メカから白メカへ、それから…」
- ・工藤哲巳「巨大な化石予想図A 現在発掘中 銀山にて」
- ・工藤哲巳「巨大な化石予想図B 現在発掘中 銀山にて」
- ・工藤哲巳「巨大な化石予想図C 現在発掘中 銀山にて」

- ・工藤哲巳「遺伝染色体による無限のあやとり」
- ・工藤哲巳「前衛芸術家の魂」
- ・工藤哲巳「人生のドブラー効果 透明ブルーの輪になる可能性は一億分の一確率」
- ・工藤哲巳「未来と過去とのエンドレステープの間での瞑想」
- ・工藤哲巳「脱皮の記念碑（サナギ）」
- ・工藤哲巳「インボ哲学」
- ・工藤哲巳「環境汚染—養殖—新しいエコロジー」
- ・工藤哲巳「危機の中の芸術家の肖像」
- ・工藤哲巳「バリの仏陀」
- ・工藤哲巳「イオネスコの肖像—あなたの肖像（コンピューターによって翻訳された絵画）」
- ・工藤哲巳「増殖性連鎖反応-1」
- ・工藤哲巳「増殖性連鎖反応-2」
- ・工藤哲巳「さいころの中の自己充足」
- ・工藤哲巳「[脱皮]の記念品」
- ・工藤哲巳「[脱皮]の記念品・郷愁病用・あなたの居間に」
- ・工藤哲巳「[脱皮]の記念品 ホモ・サビエンス 1965 バリ」
- ・工藤哲巳「[脱皮]の記念品 ホモ・サビエンス 1965 バリ」
- ・工藤哲巳「縄文の精子の生き残り」
- ・工藤哲巳「モルモットの関係」
- ・工藤哲巳「足型」
- ・工藤哲巳「無題」
- ・工藤哲巳「無題」
- ・工藤哲巳「あなたの肖像 1970-1974」
- ・工藤哲巳「あなたは変態しつつある-D」
- ・工藤哲巳「あなたの肖像」
- ・工藤哲巳「あなたの肖像」
- ・工藤哲巳「あなたの肖像」
- ・工藤哲巳「あなたの肖像」
- ・工藤哲巳「あなたの肖像」
- ・工藤哲巳「融合反応 585B」
- ・工藤哲巳「養殖」
- ・工藤哲巳「[脱皮]の記念品」

作品名

- ・工藤哲巳「精神に於ける流動とその凝集性」

わだばゴッホになる 世界の棟方志功

貸出先

- ・あべのハルカス美術館

展示施設（会期）

- ・あべのハルカス美術館
(2016/11/19 - 2017/1/15)

貸出点数：21

作品名

- ・棟方志功「雪国風景図」
- ・棟方志功「八甲田山麓図」
- ・棟方志功「桃真盛り」
- ・棟方志功「勝鬨譜善知鳥版画曼陀羅」
- ・棟方志功「御三尊像図」
- ・棟方志功「angeles (A)」
- ・棟方志功「angeles (B)」
- ・棟方志功「鍵盤画欄」
- ・棟方志功「幻想板画欄より「二銭銅貨」」
- ・棟方志功「幻想板画欄より「屋根裏の散歩者」」
- ・棟方志功「幻想板画欄より「人間椅子」」
- ・棟方志功「幻想板画欄より「押絵と旅する男」」
- ・棟方志功「貴理寿波の欄」
- ・棟方志功「摩訶那跋闍門多に建立すの欄」
- ・棟方志功「鷲嘯の欄」
- ・棟方志功「花矢の欄」
- ・棟方志功「御吉祥大辨才天御妃尊像図」
- ・棟方志功「青森山之神図」
- ・棟方志功「賜顔の欄」
- ・棟方志功「鷲栖図」
- ・棟方志功「富嶽大観々図」

endless 山田正亮の絵画

貸出先

- ・東京国立近代美術館

- ・京都国立近代美術館

展示施設（会期）

- ・東京国立近代美術館
(2016/12/6 - 2017/2/12)
- ・京都国立近代美術館
(2017/3/1 - 4/9)

貸出点数：1

作品名

- ・山田正亮「Work C-62」

Postwar: Art between the Pacific and Atlantic 1945-1965 (太平洋と大西洋の間の戦後美術 1945-1965年)

貸出先

- ・Haus der Kunst（ミュンヘン、ドイツ）

展示施設（会期）

- ・Haus der Kunst（ドイツ、ミュンヘン）
(2016/10/14 - 2017/3/26)

貸出点数：1

作品保存修復

保存管理

展示・保管している美術資料の公開と保存を両立させるため、温湿度等の空調や照度の調整、粉塵・有害ガス・虫菌害等の定期的な環境調査の実施などにより展示・収蔵環境を管理している。また、日常的な点検に基づき、必要に応じて収蔵作品等のマット装や表装・額装の改善、保存箱の作成、専門家による調査・保存処置等を行った。さらに、基本データの整理、写真撮影による画像データの記録をおこなった。

教育普及

普及プログラム

スクールプログラム

サポートスタッフ

普及プログラム

1 こども（親子）プログラム

(1) 鑑賞ワークショップ「親子でふくらむアート鑑賞の楽しみ」
アート鑑賞の楽しみ方や深め方を紹介するプログラム「じぶん鑑賞のすすめ」の関連企画として、親子鑑賞ワークショップを行った。簡単なゲームなども取り入れながら、親子でじっくり作品を味わう機会となった。

講師：青森県立美術館スタッフ

開催日時：3月18日（土） 10:00 - 15:00

場所：青森県立美術館ワークショップAほか

参加者数：4人



鑑賞ワークショップ

2 一般プログラム

(1) 浅井裕介滞在制作プロジェクト

浅井氏が青森に約2週間滞在し、公募によるボランティア参加



滞在制作プロジェクト

者約50名とともに、県内各地で採取された土や墨を細かく砕いて画材とし、縦8m×横16mの巨大な絵画を制作した。完成した作品は、アレコホールに展示された。

制作期間：6月6日（月） - 18日（土） 各日 10:00 - 18:00

制作場所：青森県立美術館 ワークショップB及び創作ヤード

展示期間：7月23日（土） - 9月25日（日）

展示場所：青森県立美術館 アレコホール

延べ参加人数：335人

(2) 県美アートスクール

当館と青森市民図書館との連携企画として、当館学芸員が同館の蔵書の中から、若桑みどり著「クアトロ・ラガッツィ 天正少年使節と世界帝国」を取り上げ、天正少年使節と、彼らが訪れたルネサンス期イタリアの美術について解説した。

開催日時：1月15日（日） 13:30 - 16:00

場所：青森市民図書館第二会議室

参加者数：21人



県美アートスクール

(3) 講演会「アート鑑賞入門 -楽しみながら自分を育てる-」
アート鑑賞ナビゲーターの藤田令伊氏を招き、鑑賞を深めるポイントや展覧会を楽しむコツ、アート鑑賞を通じて得られるものなど、鑑賞体験を実り多いものにする方法についての講演を開催。

日時：3月11日（土） 14:00 - 15:30

講師：藤田令伊（アート鑑賞ナビゲーター／大正大学文学部
非常勤講師）

会場：青森県立美術館シアター

定員：74人



講演会アート鑑賞入門

3 展覧会関連プログラム

(1) シンポジウム「青森の子 棟方志功～棟方志功について語る」

日時：4月16日（土）13:30 - 15:30

場所：青森県立美術館シアター

パネリスト：

石井頼子（棟方志功研究・学芸員、棟方志功令孫）

須藤弘敏（弘前大学教授、日本美術史）

武田公平（棟方志功記念館館長補佐）

牧野研一郎（青森県立美術館館長特別補佐）

コーディネーター：池田亨（青森県立美術館美術企画課長）

参加者数：60人

(2) 棟方志功展関連企画「お茶会～棟方志功流 お茶のたのしみ」
棟方志功は無類の抹茶好きで、日に何度か、仕事の息抜きに飲む抹茶が活力の源だった。志功の令孫が講師となり、志功が好んだ茶碗を使用してお茶会を行った。

日時：4月30日（土）1回目 10:00 - 12:00、

2回目 14:00 - 16:00

場所：青森県立美術館ワークショップA

講師：石井頼子（棟方志功研究・学芸員、棟方志功令孫）

参加者数：31人



棟方展お茶会

(3) 記念講演会「近代日本美術史における棟方志功」

（青森県立美術館サポートシップ倶楽部との共催事業）

日時：5月14日（土）13:30 - 15:00

場所：青森県立美術館シアター

講師：女子美術大学教授 北澤憲昭（近・現代日本美術史）

参加者数：36人

(4) 講演「棟方志功と民芸」

（青森県立美術館サポートシップ倶楽部との共催事業）

日時：5月15日（日）13:30 - 15:00

場所：青森県立美術館ワークショップA

講師：青森県民芸協会会長 會田秀明

参加者数：38人

(5) 棟方志功展ギャラリートーク

担当学芸員が、棟方志功展において作品等の解説を行った。

講師：池田亨（青森県立美術館美術企画課長）

日時：4月23日（土）、5月7日（土）、5月21日（土）、

5月28日（土）、6月4日（土）

各日 14:00 - 15:00

場所：青森県立美術館企画展示室

参加者数：111人

(6) 青森EARTH2016 アートツアー

「ジャッカ・ドフニの舟、あるいは記憶の海路ー T.K. への手紙」
（青森県立美術館サポートシップ倶楽部協賛事業）

今福龍太と中村達哉による誘いのもと、青森は津軽半島の様々な土地をバスでめぐるアートツアーを行った。

日時：8月13日（土）10:00 - 17:00

出演：今福龍太（文化人類学者、批評家）、中村達哉（ダンサー）
他

参加者数：15人

(7) 青森EARTH2016 講演会「半島、孤島、群島ー根と路の交差点で」

日時：8月14日（日）13:00 - 15:00

場所：青森県立美術館スタジオ

出演：今福龍太 他

参加者数：25人

(8) 青森EARTH2016 アピチャッポン・ウィーラセタクン監督映画上映会

（青森県立美術館サポートシップ倶楽部協賛事業）

展覧会出品作家アピチャッポン・ウィーラセタクン（映画監督・アーティスト）による代表作「ブンミおじさんの森」、最新作「光りの墓」、短編フィルム作品などを日替わりで上映。

日時：9月3日（土）、4日（日）各日 10:00 - 16:00

場所：青森県立美術館シアター

参加者数：105人

(9) 青森EARTH2016 展ギャラリートーク

担当学芸員が、青森EARTH2016 展において作品等の解説を行った。

講師：奥脇嵩大（青森県立美術館学芸員）

日時：7月31日（日）、8月21日（日）、9月25日（日）

各日 14:00 - 14:45

場所：青森県立美術館企画展示室

参加者数：22人

(10) 澤田教一展関連企画 講演会「カメラマンの戦場」

UPI 通信社時代の同僚で、澤田教一と交流のあったフォトジャーナリストである今城力夫により、澤田の生前のエピソードや戦地でのカメラマンたちの現場について語ってもらった。

日時：10月8日（土）14:00 - 15:30

講師：今城力夫（フォトジャーナリスト／元UPI通信社）

場所：青森県立美術館シアター

参加者数：50人

(11) 映画「SAWADA サワダ」(1997年) 上映会＋アフタートーク

青森県出身の五十嵐匠監督による澤田教一の軌跡をたどったドキュメンタリー映画を上映後、監督と澤田教一夫人によるトークを行った。

日時：10月15日（土）

映画上映：13:00 -

アフタートーク：15:00 - 15:30

場所：青森県立美術館シアター

参加者数：100人

(12) [株式会社ニコン主催] ニコンポートフォリオレビュー＋澤田教一展鑑賞ツアー

テーマを持って撮影されている方、写真展の開催を目指す方々のための公開講評会。講評後は、講師や展覧会担当学芸員とともに澤田教一展の鑑賞ツアーを行った。

日時：10月29日（土）13:00 - 16:30

講師：北島敬三（写真家・ニコンサロン選考委員）

場所：青森県立美術館スタジオ

参加者数：17人

(13) 映画「ドゥン ドット（焼いてはいけない）」(2009年) 上映会＋アフタートーク

ベトナムを代表するダン・ニャット・ミン監督による、ベトナム戦争で戦死した、実在の女性医師を描いた映画を上映。上映後、映画の歴史的背景やベトナムの映画事情などを、東南アジア映画研究者の坂川直也が語った。

日時：11月23日（水・祝）

映画上映：13:00 -

アフタートーク：14:50 - 15:30

場所：青森県立美術館シアター

参加者数：75人

スクールプログラム

概要

未来の青森県を担う感性豊かな人材を育成するためには、多くの子どもたちに対して、優れた美術作品に出会い本物が持つ素晴らしさを体験し、ふるさと青森の芸術文化や先人を学ぶ機会を提供することで、郷土に対する誇りが持てる鑑賞指導を行うことが極めて重要である。

このため、子どもたちが居住地域や家庭環境の違いの影響を受けずに、級友と語り合いながら発達段階に応じた深さで等しく学ぶ機会を提供する学校教育の場を活用して、児童・生徒、教育関係者を対象に、鑑賞指導、研修会、鑑賞教材開発等の多様な事業を行うスクールプログラムを実施した。

学校団体の来館受入れ

多くの子どもたちが優れた美術作品に接し、豊かな感性や能力を伸ばす機会として、学校団体の来館を積極的に受け入れている。特に、作品を見て子どもたちが感じたことや考えたことを大切に、言葉で伝え合うことを通して、主体的に鑑賞する能力を育むことを重視したギャラリートークに力を入れている。

メニュー：

鑑賞プログラム（ギャラリートークコース、自由鑑賞コース）、鑑賞＋遺跡見学プログラム、オリジナルプログラム（学校連携プログラム）

月	常設展 (人数)	企画展 (人数)	団体数				
			合計	小	中	高	特
4月	354	104	8	6	2	0	0
5月	703	380	20	12	5	2	1
6月	1,120	114	26	14	3	1	8
7月	209	261	12	6	6	0	0
8月	198	32	5	2	3	0	0
9月	538	637	8	6	0	1	1
10月	190	52	3	1	1	0	1
11月	121	0	5	2	2	1	0
12月	59	26	3	2	1	0	0
1月	4	0	0	0	0	0	0
2月	0	0	0	0	0	0	0
3月	48	0	1	0	1	0	0
合計	3,544	1,606	91	51	24	5	11

合計 5,150 人



学校団体の来館受入れ オリジナルプログラム



学校団体の来館受入れ ギャラリートーク

職場体験

美術館の教育普及活動、学校連携、キャリア教育推進等の観点から、各学校の要望を踏まえながら、中学校・高等学校等からの職場体験、見学等を受け入れ、美術館の公共施設・観光施設としての役割や仕事を、体験を通じて学ぶ機会を提供した。

受入実績：1校 26人

アートカード

図工・美術の授業及びクラブ活動などの学校教育活動で気軽に使用できる鑑賞教材として、棟方志功、奈良美智、鷹山宇一、豊島弘尚等、本県ゆかりの作家の作品や三内丸山遺跡出土遺物などを50点にまとめた「アートカード」を制作し、平成19年度から県内9施設において学校への貸出しを行っている。

平成 28 年度は県外の 1 校にアートカードを提供し、広く利用促進を図っている。

貸出し実績：1 件

貸出施設一覧

施設・機関名	所在地	電話番号
青森県立美術館	青森市安田字近野 185	017-782-1919 fax 783-5244
青森県総合学校教育センター	青森市大矢沢字野田 80-2	017-739-1251 fax 739-1279
青森市教育研修センター	青森市栄町 1-10-10	017-743-4900 fax 743-4919
つがる市生涯学習交流センター「松の館」 (つがる市教育委員会指導課)	つがる市木造若緑 52	0173-42-5532 fax 42-5542
五所川原市立図書館	五所川原市字栄町 119	0173-34-4334 fax 34-3256
弘前市教育研究所	弘前市末広 4-10-1	0172-26-4802 fax 26-2250
十和田市現代美術館	十和田市西 2 番町 10-9	0176-20-1127 fax 20-1138
むつ市立図書館	むつ市中央 2 丁目 3-10	0175-28-3500 fax 28-3400
八戸市美術館	八戸市番町 10-4	0178-45-8338 fax 24-4531

鑑賞サポーターの育成

学校団体鑑賞ツアーで来館した児童・生徒の鑑賞指導にあたる鑑賞サポーター（平成 22 年度までの「ファシリテーター」を呼称変更。）を配置・養成し、多くの学校団体の受入・指導を行った。

平成 28 年度 3 月末現在：22 人

教員研修

美術館と連携した鑑賞教育について教員の理解を深めるため、当館のコレクションや鑑賞指導法（アートカードの活用、ギャラリートーク演習等）などをテーマに、県総合学校教育センター、市町村教育委員会図工及び美術等教科研究会との連携講座を実施した。

主催	月日	曜日	研修講座の名称	会場	人数
県・市町村教育委員会と共催	8月4日	木	青森県総合学校教育センター 初任者研修（小・中学校）教職一般 研修講座	県立美術館	122
	9月14日	水	青森県総合学校教育センター 図画工作・美術科教育講座【鑑賞】	県立美術館	8
体等研究会と共催	11月2日	水	南地方中学校教育研究会 美術部会	県立美術館	8
	1月5日	木	青森小学校教育研究会 図工部会	県立美術館	37
	2月3日	金	西北美術教育研究会	県立美術館	9

合計 184 人



教員研修

サポートスタッフ

概要

青森県立美術館では、県民が美術館の活動に積極的に参加できるよう常に工夫し、「県民とともに活動する」ことを目指している。その取り組みの一つとして、美術館の様々な事業等の運営に参加、協力するボランティアを「サポートスタッフ」として募集し、各種イベント運営や、管理事務の補助、環境安全整備等、幅広いボランティア活動の展開を図っている。

なかでも、県美コンシェルジュ活動は、青森県立美術館のコンテンツの理解を促したり、来館者に寄り添って多角的なサポートを提供し、来館者の満足度向上に寄与している。

募集・登録

募集概要

募集期間：2016年2月1日～3月18日

募集人数：50人程度

応募条件：

- ・満18歳以上（2016年4月1日現在）。未成年は保護者の承諾が必要。
- ・美術館活動に関心があり、積極的に学び活動する意欲のあること。
- ・美術館に通勤可能なこと。

登録者数：75人（28年度未現在）

※このうち県美コンシェルジュ活動希望者37人

活動内容

1 研修

第1回研修会 4月23日（土）10:00 - 16:00

内容：平成27年度事業実施概要及び平成28年度活動内容説明
美術館の概要説明

コンシェルジュとは（コンシェルジュ活動希望者のみ対象）



コンシェルジュ研修

第2回研修会 8月18日（木）13:30 - 14:30

内容：中国語による接客等の演習

2 サポート活動

(1) 10周年記念イベント

活動日数：19日

参加人数：延べ78人

(2) 学芸（企画展関連イベント運営補助）

活動日数：5日

参加人数：延べ37人

(3) 教育普及（スクールプログラム、ワークショップの運営補助）

活動日数：21日

参加人数：138人

(4) 舞台芸術（コンサート、おはなしフェスタの運営補助）

活動日数：23日

参加人数：186人

(5) 運営管理（資料整理、アンケート調査等）

活動日数：41日

参加人数：228人

(6) 環境安全整備（県立美術館・三内丸山遺跡周辺の草刈等）

活動日数：41日

参加人数：477人

(7) 自主企画イベント実施（自主企画コンサート）

活動日数：2日

参加人数：41人

(8) 県美コンシェルジュ活動

活動日数：74日

参加人数：128人

対応客数：7,830人



環境安全整備（草刈隊）

パフォーミングアーツ

演劇

ダンス

音楽

映画

演劇

青森県立美術館 ドラマリーディングクラブ事業

1 ドラマリーディングクラブ

県立美術館に県民が積極的に参加できる環境を舞台芸術企画部門からアプローチすることを目的に「青森県立美術館ドラマリーディングクラブ」を2009年に設立し、経験や技術の枠にとられない幅広い年齢層の県内在住者を参加対象に、オリジナルの戯曲や詩・小説、その他の文章を用いた朗読形式による公演を実施している。

例年、定期公演や県内小中高等学校での出前公演のほか、美術館主催による各舞台芸術企画公演へのスタッフ参加や出演等の協力も行っている。

設立：

2009年

参加条件：

- ・青森県立美術館での稽古に参加できること
- ・年齢・経験不問（未成年者は保護者の同意が必要）
- ・年間に最低1公演には参加できる
- ・交通費や食費など、活動に際して個人に係るものは全て自己負担

活動場所：

青森県立美術館施設内を基本とする。

募集期間：

募集定員に達するまで随時募集

定員：

50名（欠員が出た場合は補充）

参加料：

無料（交通費・食費等の個人に係わるものは全て自己負担となる。）

選考方法：

書類選考とし、書類受理後に随時面談を行う。

稽古内容・日程：

- ・青森県立美術館パフォーミングアーツ専門スタッフの指導のもと、オリジナルの戯曲や既成の詩・小説、その他の文章を使い、空間を意識しつつ朗読する。
- ・定期公演に向けた稽古を実施する。
- ・青森県立美術館企画サポート公演に向けた稽古を実施する。
- ・その他公演に向けた稽古を実施する。
- ・週1回の稽古を基本とする。
- ・公演1週間前は毎日稽古を行う。

2 定期公演



(1) 公演概要

青森県立美術館ドラマリーディングクラブ公演
「声の寺山修司ー短歌・童話ー」

日時：2016年9月10日（土）18:30開演
（18:00開場 17:30受付開始）

会場：青森県立美術館シアター

入場料金：前売 一般 1,000円

学生・60歳以上 500円

（当日は全て200円増し）

席数：180席（自由席）

構成・演出：長谷川孝治（青森県立美術館舞台芸術総監督）

照明：野村真仁

映像：齋藤耕平

出演者：金恵美子 須藤哲也 齋津悦子

田澤京子 小野寺圭子 福田寿枝

小林早智子 菊地泰子 水上ユリエ

平井正樹

（ドラマリーディングクラブ員番号順）

観客動員数：144人 ※うち招待36人

(2) 広報宣伝、営業概要

宣材物作成枚数：

チラシ（A4版／カラー）8,000枚

ポスター（B2版／カラー）100枚

広報：

- ・2016年7月下旬から配布開始。

- ・県内情報誌において公演告知。
- ・美術館周辺町会にチラシ折り込み配布
- ・県内高等学校・大学、図書館、文化施設等を中心に宣材物を配布し、掲示を依頼。
- ・県内PA顧客へダイレクトメールの送付。
- ・美術館ホームページ、Facebookに公演告知。
- ・県内読み聞かせ団体へ公演告知。
- ・出演者へチケット先行販売の実施。

(3) チケット販売

チケット販売場所：

青森市：成田本店しんまち店

青森県立美術館ミュージアムショップ

弘前市：紀伊國屋書店弘前店

ヒロロ

八戸市：ラピア

五所川原市：ELM インフォメーション

事務局予約：

電話、FAX、Eメールのいずれかの方法により、前売りチケットの事務局予約を受け付けた。

(4) 来場者サービス

託児サービス：

公演日の開場から終演まで、キッズルームにて無料託児サービスを実施。

終演後の送迎サービス：

公演終演後に青森駅までの無料送迎を実施。

3 出前公演

平成25年度より、次代を担う多くの子ども達に舞台芸術への理解を深めてもらうことを目的に、県内各小中高等学校へのドラマリーディング出前公演を実施してきたが、平成28年度は、社会福祉施設において出前公演を実施した。

(1) 訪問施設及び公演概要

- ・デイサービスセンター平和台（青森市）

日時：2016年6月22日（水）

演目：「あおり犬のおはなし～ビートルズの引用による～」、
「津軽の詩・写真の声」

鑑賞者数：34人

- ・デイサービスセンターおきだて（青森市）

日時：2016年7月6日（水）

演目：「津軽の詩・写真の声」

鑑賞者数：44人

- ・藤聖母園デイサービスセンター（青森市）

日時：2016年7月7日（木）

演目：「津軽の詩・写真の声」

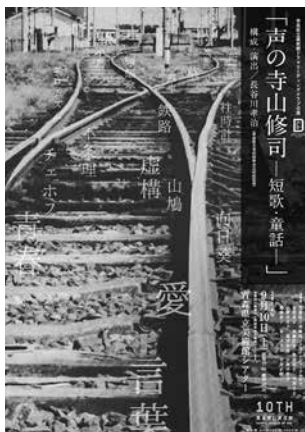
鑑賞者数：62人

- ・デイサービスセンターせんじゅ園（青森市）

日時：2016年11月15日（火）

演目：「津軽の詩・写真の声」

鑑賞者数：41人



定期公演チラシ（表）



定期公演チラシ（裏）

世代間交流舞台芸術創造事業 おはなしフェスタ開催事業

1 事業概要

おはなしフェスタは、県内各地域で活動している読み聞かせ団体・昔語り団体・個人が一堂に会し、青森県立美術館舞台芸術企画課と各団体・個人が協力して絵本の読み聞かせや地域に伝わる昔話の公演を行う事業として、2012年から開催している。各世代の県民が共に鑑賞できる公演を行うことで、幅広い世代の県民に舞台公演の魅力を知る機会を創出し、また、各団体の活動を広く県民に伝え、相互に交流を通じて各団体の活性化をはかり、読み聞かせや昔話を通じて地域の様々な世代の交流を促進させ、地域の文化力の向上を目指すことを目的としている。

平成28年度は、「なつやすみ！おはなしフェスタ2016」を開催すると共に、絵本朗読についての理解を高め、朗読者の増加を図るため「児童書作家 杉山亮 講演会＆ものがたりライブ」及び「けんび読み聞かせキッズ」を開催した。

主催：青森県立美術館パフォーミングアーツ推進実行委員会、
青森県立美術館

助成：公益財団法人むつ小川原地域・産業振興財団

協力：青森県書店商業組合

コーディネート：秋田敏博（親子ふれあい読書アドバイザー）

監修：長谷川孝治（青森県立美術館舞台芸術総監督）

(1) 児童書作家 杉山亮 講演会＆ものがたりライブ

児童書作家杉山亮氏を招き、2部構成で実施した。第1部では絵本等の読み聞かせに興味を持つ人を対象とした読み聞かせに関する講演会を行い、第2部ものがたりライブでは、杉山氏が自作した物語を自らが語る公演を行った。

日時：2016年7月10日（日）10:00 - 12:00

会場：青森県立美術館シアター

料金：無料、往復ハガキによる予約制

観客動員：第1部 講演会

第2部 ものがたりライブ

計 248人

(2) 交流会

なつやすみ！おはなしフェスタ出演団体が参加し、各団体の活動報告やおはなしフェスタで上演する演目を相互鑑賞し、情報交換を行うことで各団体の活動の活性化を図った。

日時：2016年7月10日（日）13:00 - 15:20

会場：青森県立美術館シアター、スタジオ

参加団体：4団体・個人（24人）

(3) けんび読み聞かせキッズ

県内の小・中学生を対象に参加者を募集し、ワークショップを経て「なつやすみ！おはなしフェスタ2016」8月20日（土）

の午前の部に出演した。

講師：秋田敏博（親子ふれあい読書アドバイザー）

川端 誠（絵本作家）

募集：5月後半～6月

応募者：21人

（単位：人）

学年	小学生						中学生			計
	1	2	3	4	5	6	1	2	3	
男	1	2	1	1	-	-	-	-	-	5
女	1	4	5	3	-	2	-	-	1	16
計	2	6	6	4	0	2	0	0	1	21

参加者：10名

（単位：人）

学年	小学生						中学生			計
	1	2	3	4	5	6	1	2	3	
男	1	-	1	1	-	-	-	-	-	3
女	-	2	1	1	-	2	-	-	1	7
計	1	2	2	2	0	2	0	0	1	10

実施日時：

ワークショップ

① 2016年7月30日（土） 9:30 - 12:00

② 2016年7月31日（日） 9:30 - 12:00

③ 2016年8月6日（土） 9:30 - 12:00

④ 2016年8月19日（金） 18:00 - 19:00

公演への出演

2016年8月20日（土） 午前の部



けんび読み聞かせキッズワークショップ

(4) なつやすみ！おはなしフェスタ2016

青森県立美術館シアターを主会場に、県内各地域の読み聞かせ団体が出演するドラマリーディング形式での絵本の上演、昔語り等を上演した。シアター以外にも図書室、屋外で公演を行った。

また、シアター会場での上演は午前・午後で「未就学児」「小学校低学年」「小学校中学年以上」と対象年齢を分け、観客が参加しやすい環境を整えた。

日時：2016年8月20日(土)、21日(日)

午前の部 10:00 - 12:00

午後の部 13:00 - 15:00

会場：青森県立美術館シアター、図書室、屋外

参加：26団体(237人)

料金：無料、往復ハガキによる予約制

観客動員：1,389人

・「なつやすみ!おはなしフェスタ2016」では、県内小学校、幼稚園、保育園、児童館に全児童・幼児分のチラシを送付。

記録：

・全ての公演について記録写真撮影。

・「なつやすみ!おはなしフェスタ2016」シアター上演について記録映像収録



なつやすみ!おはなしフェスタ2016 シアター会場



児童書作家 杉山亮 講演会 & ものがたりライブ チラシ



けんぴ読み聞かせキッズ募集 チラシ



なつやすみ!おはなしフェスタ2016 図書室会場



なつやすみ!おはなしフェスタ2016 チラシ (オモテ)



なつやすみ!おはなしフェスタ2016 チラシ (ウラ)

2 広報宣伝、営業概要

宣材物作成枚数：

- ・「児童書作家杉山亮 & ものがたりライブ」
チラシ (A4版 白黒) 60,000部
- ・「けんぴ読み聞かせキッズ」
チラシ (A4版 白黒) 43,000部
- ・「なつやすみ!おはなしフェスタ2016」
チラシ (B4版 カラー二つ折り) 125,000部
ポスター (B2版 カラー) 100部

広報：

- ・県内文化施設、教育機関、観光施設、書店等を中心に配布、掲示を依頼した。
- ・PA顧客等へのダイレクトメールの配布を実施。

ダンス

世代間交流舞台芸術創造事業 公演事業「Dance Aleko 2017」

1 事業概要

青森県立美術館のコレクションの中核をなすシャガール作のバレエ「アレコ」舞台背景画が展示されているアレコホールを会場とし、バレエ「アレコ」の原作となったプーシキンによる詩「ジプシー」を題材とした公演を行った。

公募により選抜された青森県民のダンサーと、県内各地で活躍するダンサーが出演し、ナレーション・声の出演として青森県立美術館ドラマリーディングクラブ員も参加した。

本公演の振付・演出を担当し、出演もした岩渕伸雄（Nobuo）氏は、県立美術館が開館した2007年3月に上演した「青森県立美術館 version 舞踊劇『アレコ』」にアレコ役で出演しており、約10年ぶりにアレコホールの舞台に立った。このほかにも同公演には、岩渕氏同様「舞踊劇『アレコ』」に出演していたダンサーや、今後活躍が期待され、県内外で活躍中のダンサーなどが多数出演し、多彩なダンスで「アレコ」の世界を表現し、これまでの10年と、これからの10年をつなげることを目指した。

日時：2017年1月27日（金）

開演 19:30

開場 19:00 / 受付開始 18:30

1月28日（土）

開演 18:00

開場 17:30 / 受付開始 17:00

会場：青森県立美術館アレコホール（190席 / 全席自由）

入場料：前売一般 2,000円

前売大学生・60歳以上 1,500円

前売高校生以下 1,000円

※当日は全て500円増し

ペア券 3,000円（前売販売のみ）

主催：青森県立美術館パフォーミングアーツ推進実行委員会、
青森県立美術館

助成：公益財団法人むつ小川原地域・産業振興財団

2 広報宣伝、営業概要

(1) 出演者募集

宣材物作成枚数：

チラシ（A4版 / カラー）60,000枚

広報：

- ・2016年8月上旬から宣材物配布開始。

- ・青森県内の高等学校・大学・文化施設・各商店街等を中心に広報物を配布し、掲示を依頼。
- ・PA顧客へダイレクトメールの送付。
- ・新聞各社に対して募集に関する記事掲載を依頼。

(2) 公演

宣材物作成枚数：

チラシ（A4版 / カラー）60,000枚

ポスター（B2版 / カラー）100枚

広報：

- ・2016年12月上旬から宣材物配布開始。
- ・出演者へのチケット先行販売を実施。
- ・青森県内の小学校・中学校の対象児童・生徒へのチラシの配布。
- ・青森県内の高等学校・大学・文化施設・各商店街等を中心に広報物を配布し、掲示を依頼。
- ・PA顧客へダイレクトメールの送付。
- ・新聞各社において、練習時および公演の様態を取材依頼。
- ・青森市内一部世帯（14,440世帯）に新聞折込広告にてチラシを配布。
- ・青森県立美術館サポートシップ倶楽部会員向けチケットを作成し、会員一人あたりチケット2枚まで前売料金から各500円割引を実施。

3 チケット販売

チケット販売場所：

全 国：ローソンチケット（Lコード：21356）

青森市：成田本店しんまち店

青森県立美術館ミュージアムショップ

弘前市：ヒロロ

弘前市まちなか情報センター

五所川原市：ELM インフォメーション

八戸市：ラビア

八戸ポータルミュージアムはっち

三沢市：スカイプラザミサワ

事務局予約：

電話、FAX、Eメールのいずれかの方法により、前売りチケットの事務局予約を受け付けた。

4 各種サービス

託児サービス：

各公演日の開場から終演まで、キッズルームにて無料託児サービスを実施。

終演後の送迎サービス：

各日公演終演後に青森駅までの無料送迎を実施。

カフェ「4匹の猫」臨時営業：

各公演日は、開場時間まで延長営業を実施。

5 出演者募集

応募資格：

- ・青森県内在住であること
- ・ダンス経験があること
- ・11月～1月下旬に青森県立美術館、弘前市で行う稽古に、原則、全日程参加可能であること
- ・未成年にあっては、保護者の同意が得られていること

※稽古、公演出演に係る出演料・交通費等の支給はない。

募集人数：若干名

選考方法：応募時の「申込書」及び「動画」等の資料により審査を実施。

募集期間：2016年8月下旬から10月31日（月）まで

応募者：41人（単位：人）

	～10代	20代	30代	40代	50代	計
男	4	7	0	0	0	11
女	12	17	0	0	1	30
計	16	24	0	0	1	41

選考者：34人（単位：人）

	～10代	20代	30代	40代	50代	計
男	2	7	0	0	0	9
女	9	15	0	0	1	25
計	11	22	0	0	1	34

出演者：40人（選考者＋ゲストダンサー）（単位：人）

	～10代	20代	30代	40代	50代	計
男	2	8	2	0	0	12
女	9	15	2	0	2	28
計	11	23	4	0	2	40

6 各公演詳細

公演時間：90分

観客動員数：計382名

（内訳）1月27日（金）観客動員 177人（93.2%）

1月28日（土）観客動員 205人（107.9%）

出演者：

・ダンサー

秋元名歩、浅田萌々子、小笠原悦子、小保内香里、葛西七海、Kanu、Ki-chi、菊地このみ、Kiyoka、Kirara、Guri、Ktea、Ksps、齋藤茉耶、佐々木千洋、澁谷桃、Shoei、Dysk、Takao、田上拓磨、丹代真緒、Chanchi、傳法谷愛斗、Tomma、富田笑莉、長井風歌、西谷彩姫、西谷桃花、沼尾みやこ、沼尾陽、Nobuo、長谷川遥己、浜杏優菜、Mao、三浦茉寛、Mion、Yukitomo、横山莉瑚、Yoshico、吉原由紀

・ナレーション、声の出演

青森県立美術館ドラマリーディングクラブ

會津悦子、平井正樹、福田寿枝

7 演出・振付プロフィール

岩淵伸雄（NOBUO）／FUNKY STADIUM 代表、

ひろさき芸術舞踊実行委員会 委員長

岩手県出身。弘前大学入学をきっかけにストリートダンスと出会う。そこで得た多くの経験や出会いをもとに、弘前市でダンススタジオFUNKY STADIUMを設立。ダンサーの育成、イベントの主催・演出、県内外でのワークショップ・審査員等で幅広く活躍している。自身もダンサーとして数多くの受賞歴を持つ。



震災をきっかけに、「ダンスで地域を活性化させるために自分たちにできることはないか」という思いから2012年“ひろさき芸術舞踊実行委員会”を発足。これまで、こども達の舞台公演や弘前ダンスフェスティバル、学生を対象にした交流文化祭などを手がけ、青森県の舞台芸術発展のための活動も行っている。

青森県立美術館主催事業では、2007年に青森県立美術館 version 舞踊劇「アレコ」にアレコ役で出演したほか、「MIYAZAWA」、「ソウルの雨」（共に2007年）、「ダンスアレコ青森 Lab' #1」（2008年）に出演。2015年に各世代の県民から参加者を募集した青森県立美術館主催のダンス公演「Night at the Museum」（ナイト・アット・ザ・ミュージアム）では演出、振付及びワークショップ講師を務めた。

・三沢七夕ダンスコンテスト

優勝4回／準優勝2回

・函館ダンスフェスティバルコンテスト部門 優勝2回

・WDC北日本大会 優勝4回

・「FREE STYLE SESSION」準優勝 他、受賞歴多数

・子供達の舞踊公演「DREAMER」主宰（演出・指導）

・弘前ダンスフェスティバル 主宰

・学生のためのダンス交流文化祭 主宰

・土手町まちなかフェス CHROSS CROSS 主宰

《青森県立美術館主催事業》

・舞踊劇「アレコ」出演（アレコ役）

・県民参加型演劇「MIYAZAWA」出演

・青森県日韓演劇交流事業「ソウルの雨」出演

・「ダンスアレコ青森 Lab'#1」出演

・「Night at the Museum」演出、振付



出演者募集チラシ (オモテ)



出演者募集チラシ (ウラ)



公演開催チラシ (オモテ)



公演開催チラシ (ウラ)

音楽

青森県立美術館開館 10 周年記念 5 台ピアノコンサート 「北十字星からの贈りもの」

1 事業概要

開館 10 周年を記念して『青森県立美術館開館 10 周年記念 5 台ピアノコンサート「北十字星からの贈りもの」』を 2016 年 7 月 22 日（金）・23 日（土）の全 2 回に渡り開催した。

当館所蔵のマルク・シャガール作の「アレコ」舞台背景画が開館より常設されているアレコホールに 5 台のピアノを配置し、「アレコ」を演奏家の背後に据えながら、5 名のピアニストが 5 台のピアノを演奏した。

出演者は青森県在住のピアニスト、浅野清氏、矢野吉晴氏、佐藤慎悟氏、村田恵理氏に、北海道函館市在住のピアニスト・高実希子氏の計 5 名。

日時：2016 年 7 月 22 日（金）

2016 年 7 月 23 日（土）

開演 19:00

開場 18:30 / 受付開始 18:00

会場：青森県立美術館アレコホール

席数：200 席（全席自由）

入場料金：前売一般 2,500 円 /

前売学生・60 歳以上 1,500 円

※当日は全て 500 円増し

ペア券 4,000 円（前売販売のみ）

主催：青森県立美術館パフォーミングアーツ推進実行委員会、
青森県立美術館

2 広報宣伝、営業概要

宣材物作成枚数：

チラシ（A4 版 / カラー）180,000 枚

ポスター（B2 版 / カラー）100 枚

広報：

- ・2016 年 5 月下旬から宣材物配布開始。
- ・青森県内の小学校・中学校・高等学校の対象児童・生徒へのチラシを配布。
- ・青森県内の大学・文化施設・教育機関・道の駅・音楽教室・各商店街等を中心に広報物を配布し、掲示を依頼。
- ・PA 顧客へダイレクトメールを送付。
- ・北海道函館市を中心とした北海道道南地域の学校・文化施設等へ広報物を配布。

- ・青森県立美術館サポートシップ倶楽部会員向けチラシを作成し、会員 1 名あたりチケット 2 枚まで各 500 円割引を実施。

3 チケット販売 / 小・中・高校生 無料招待

チケット販売場所：

全 国：ローソンチケット

青森市：サンロード青森

成田本店しんまち店

イトーヨーカドー青森店

青森県立美術館ミュージアムショップ

弘前市：ヒロロ

紀伊國屋書店弘前店

イトーヨーカドー弘前店、弘前大学生協

五所川原市：ELM インフォメーション

つがる市：イオンモールつがる柏インフォメーション

八戸市：ラピア、三春屋

事務局予約：

電話、FAX、Eメールのいずれかの方法により、前売りチケットの事務局予約を受け付けた。

小・中・高校生 無料招待：

青森県内・北海道の小・中・高校生を各公演日の先着 60 名まで無料招待実施。

4 各種サービス

託児サービス：

各公演日の開場から終演まで、キッズルームにて無料託児サービスを実施。

終演後の送迎サービス：

各日公演終演後に青森駅までの無料送迎を実施。

カフェ「4 匹の猫」臨時営業：

各公演日は、開場時間まで延長営業を実施。

5 各公演詳細

出演者（演奏者）：浅野 清

高 実希子

佐藤 慎悟

村田 恵理

矢野 吉晴

演奏曲目：

第一部 ソロと 2 台ピアノの作品

・三宅榛名

鉄道唱歌による変奏曲

演奏：浅野清

・坂本龍一

鉄道員くぼっばや>

演奏：矢野吉晴

・ヨハン・セバスティアン・バッハ

主よ、人の望みの喜びよ

演奏：浅野清、矢野吉晴

・中西圭三

Choo Choo TRAIN

演奏：佐藤慎悟

・フレデリック・ショパン

幻想即興曲

演奏：佐藤慎悟、矢野吉晴

・竹内まりや

駅

演奏：村田恵理

・溝口肇

世界の車窓から

演奏：高実希子

・ウォルフガング・アマデウス・モーツァルト

『二台のピアノのためのソナタ K.448』より

第一楽章

演奏：高実希子、村田恵理

第二部 5台ピアノの作品

・ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー

花のワルツ

演奏：浅野清、高実希子、佐藤慎悟、村田恵理、矢野吉晴

・エマニュエル・シャブリエ

スペイン

演奏：浅野清、高実希子、佐藤慎悟、村田恵理、矢野吉晴

・グスターヴ・ホルスト

組曲『惑星』

1 火星、戦争をもたらす者

2 海王星、神秘主義者

3 木星、快楽をもたらす者

演奏：浅野清、高実希子、佐藤慎悟、村田恵理、矢野吉晴

アンコール

・N. リムスキー＝コルサコフ

熊蜂の飛行

演奏：浅野清、高実希子、佐藤慎悟、村田恵理、矢野吉晴

観客動員：449人（112.3%）

日	有料	招待	合計
7/22	116	108	224
7/23	119	106	225
計	235	214	449

6 ピアノ仕様

YAMAHA CF-Ⅲ（青森県立美術館所有）

KAWAI SK-EX（河合楽器製作所提供）

KAWAI EX（河合楽器製作所提供）

KAWAI EX（河合楽器製作所提供）

Bösendorfer model 275（個人所有）

7 演奏家プロフィール

浅野 清

1975年、国立音楽大学卒業。同年L. バーンスタインとC. エッセンバッハの推薦によりニューヨークのジュリアード音楽院に入学、J. ラタイナーのもとで主に古典派楽曲を学び、大学院修士課程を修了。その後ニューヨーク大学にてE. リストに師事。1981年ドイツのマンハイム音楽大学演奏科を首席で卒業。ドイツ各地やパリで、ソロ及び室内楽の演奏会、シュヴェービッシュ・シンフォニーオーケストラとの共演で好評を博し、有力紙で絶賛される。カイゼルスラウテルン市立音楽学校専任講師、マンハイム音楽大学非常勤講師を務め、1984年帰国。1987年弘前大学へ赴任。以降、数多くの器楽・声楽・映画の伴奏並びに室内楽リサイタルやオーケストラとの共演を重ねている。他、ルーマニアの「国際現代音楽祭」（1999、2004）での招待演奏、二度にわたるベートーヴェン「32のソナタ」全曲演奏（1989～1990、2006～2007）や、モーツァルト「18のソナタ」全曲演奏（2013～2014）などソロリサイタルを中心に国内外で演奏活動を行っている。平成6年度青森県芸術文化奨励賞受賞。弘前大学教育学部教授。

高実希子

函館市出身。桐朋女子高等学校音楽科、桐朋学園大学音楽学部演奏学科ピアノ専攻首席卒業。2008年パリ国立高等音楽院卒業後、帰国。第4回ショパン国際ピアノコンクール in ASIA 大学生部門最高位。2007年カワイ表参道にて東京デビューリサイタル開催。2008年イル・ド・フランス国際ピアノコンクールドビュッシー特別賞を受賞。2010、2011年エクサンプロヴァンス（仏）国際音楽祭に出演。現在はソロ・室内楽において函館市を中心に日本各地で積極的に演奏活動を行い、パリ国立高等音楽院卒業生によるJACOBピアノ四重奏団のピアニストとしても活動している他、函館短期大学では非常勤講師として後進の指導にも当たっている。2013年初のソロCD「ブリランテ・アラカルト」をリリース。青森県立美術館では、2015年に2度のソロリサイタル、2016年3月の舞台公演ではピアノトリオで出演。さらに2016年9月にヴェローナ楽友協会主催により、イタリアのヴェローナ市とパドヴァ市にてソロリサイタル、10月には東京でピアノデュオでの出演が決定している。

佐藤 慎悟

八戸市生まれ。昭和音楽大学ピアノ演奏家コース特待生入学。在学中、S. ベルティカローリ賞ピアノコンクール第1位、第11回日本クラシック音楽コンクール全国大会第2位（1位、3

位なし) など様々なコンクールで賞を受賞。その後、2004年～2009年、渡伊。イタリア国立ローマ・サンタ・チェチリア音楽院アカデミアに入学。2007年、ピオンビーノ音楽コンクールで審査員満場一致で第1位と現代曲賞を、エウテルペ音楽コンクールでは審査員満場一致で第1位と最優秀演奏賞、バリ市市民大賞を受賞。2008年、G.カンポキアール国際音楽コンクール第1位を受賞。2009年、インターナショナル・アーツ・アカデミーピアノ演奏家コース満場一致で首席修了。帰国後、自宅ピアノ教室を主宰。ソロ活動や合唱団、室内楽、声楽や器楽の各ソリストとの共演にも力を入れ、「PianoPiano」「Iris」「TrioBearissimo」「Musica Liberta」「Ensemble da Camera」のメンバーでもあり、また、青森県ピアノ研究会八戸支部長を務めている。これまでにピアノを浅野清、故・海老原直美、石塚幸生、横山幸雄、S. ヘルティカローリ、V. アウディーノ、C. グアイトリ、故・C. ジュディチ各氏に師事。歌曲伴奏を金井紀子、室内楽を川染雅嗣、奈良康祐の各師に師事。

村田 恵理

東京藝術大学音楽学部器楽科ピアノ専攻卒業。英国王立音楽院大学院課程ディプロマコース修了。これまでに石郷勝彦、友田恭子、北川暁子、小林仁、クリストファー・エルトン、キャサリン・ストットの各氏に師事。第8回岩手県ピアノ音楽コンクール銀賞、第26回イタリア・セニガリア国際青少年ピアノコンクール第4位入賞。第8回東京音楽コンクールピアノ部門入選。帰国後はソロリサイタルを中心に、室内楽演奏会やデュオリサイタルの自主公演を定期的に行う。コンサート出演も多数行っており、2011年7月～2012年3月にかけては、青森県立美術館の開館5周年記念において全5回にわたる連続ソロリサイタルを、2013年、2014年の弘前交響楽団定期演奏会では「ラフマニノフ：ピアノ協奏曲第2番」「ベートーヴェン：ピアノ協奏曲第5番《皇帝》」のソリストを務め、好評を博した。現在、自宅にてピアノ教室を主宰し後進の指導にも力を注ぐとともに、NHK文化センター弘前教室にて、演奏とお話を交えた講座「ピアノ音楽紀行」を開講している。また、2015年より古楽器演奏における第一人者である渡邊順生氏に師事し、フォルテピアノ（時代楽器）を学ぶ。弘前市在住。

矢野 吉晴

山口県光市出身。五嶋加代子、杉田谷道の各氏に師事。山口県立光高等学校、エリザベト音楽大学器楽学科卒業。「第3回日本ピアノコンクール」第2位、「第1回かやぶき音楽堂ピアノ連弾コンクール」第2位、「第1回スーパークラシックオーディション アンサンブル部門」ディプロマ賞、「第10回日本クラシックコンクール」ディプロマ賞など、多くのコンクールに入賞。ソロ・ピアノデュオを中心に、室内楽・伴奏など多数のコンサートに出演し、ホールでのコンサートの他、サロンコンサートやトークコンサートも好評。各種コンクール審査員や講座を行い、高校・短大などで後進の育成にも努める。また、故・工藤正（元青森市長）市民葬、故・淡谷のり子市民葬に於ける献呈演奏、青森公立大学卒業式での記念演奏、青森市教育委員会

主催の中学生音楽コンクールの審査員を務めるなど、青森市民として地域に根差した音楽活動も多い。近年は、プログラムに現代音楽家の作品を積極的に加え初演の機会も多い。また、絵画・彫刻の展示会場での演奏や、詩の朗読と音楽を交えたコンサートを試みるなど、精力的に活躍中である。



公演開催チラシ（オモテ）



公演開催チラシ（ウラ）

映画

「特集・相米慎二の10年間」

1 事業概要

近年の映画事業では『特集・高倉健』（平成26年度）、『特集・北野武／成瀬巳喜男』（平成27年度）などを開催し、各作品や各映画人の再評価を試みると同時に、「映画を劇場で観る」ことの価値を改めて提示してきたが、今年度は「特集・相米慎二の10年間＜テン・イヤーズ＞」と題し、相米慎二監督作品の特集上映を行った。

相米慎二監督は、独特の長回しにこだわった演出法や、新人俳優をとことん追い詰めながらも、各自の才能を新たな次元で開花させることに長けた日本映画界に名を残す名匠であり、2001年の逝去後も未だその才が惜しまれ、現在は、本県田子町の先祖墓に永眠している。本上映会では監督デビューを飾った1980年から瑞々しい感性で'80年代を駆け抜けた10年間の作品群から全7作品を上映した。

また、上映会初日には相米慎二監督『シヨンベン・ライダー』で俳優デビューした永瀬正敏氏を迎え【ゲストトーク】を実施した。

公演名：青森県立美術館 映画上映「特集・相米慎二の10年間＜テン・イヤーズ＞」

会場：青森県立美術館シアター

席数：180席（全席自由）

開催日：2016年9月17日（土）、18日（日）、22日（木・祝）、24日（土）、25日（日）

計5日間

主催：青森県立美術館パフォーミングアーツ推進実行委員会、青森県立美術館

共催：青森県立美術館サポートシップ倶楽部

2 広報宣伝、営業概要

宣材物作成枚数：

チラシ（B5版／カラー）40,000枚

ポスター（B2版／カラー）200枚

広報：

- ・2016年8月上旬から配布開始。
- ・県外含む各映画館、各映画上映会での上映会宣材物の掲示・配布。
- ・青森県内の高等学校・大学・文化施設・教育機関・道の駅・各商店等を中心に宣材物を配布し、掲示・周知を依頼。
- ・PA顧客へダイレクトメールを送付。

- ・青森県立美術館サポートシップ倶楽部会員向けチラシを作成し、会員1人あたりチケット3枚まで前売料金から各500円割引を実施。
- ・青森県立美術館公式アカウントのFacebook・Twitter上にて公演周知。
- ・情報サイト「映画ナタリー」に公演情報掲載。
- ・県内各新聞紙上に公演情報を掲載し、チケットプレゼントを実施。
- ・青森市内一部地区において、上映会チラシを新聞折り込み。
- ・県内ラジオ番組へ事務局員が出演し、公演を周知。

3 入場料金／チケット販売

- 1日券：（9/17上映のみ）前売2,000円
（9/17以外の上映日）前売1,200円
※当日は各200円増し
※日時指定で当日の全作品鑑賞可
（9/17はゲストトークも鑑賞可）

1日券販売プレイガイド：

全 国：ローソンチケット

青森市：成田本店しんまち店

青森県立美術館ミュージアムショップ

弘前市：ヒロロ

五所川原市：ELMインフォメーション

つがる市：イオンモールつがる柏インフォメーション

ラスト1本割引：

500円均一

※前売・当日料金同額

※日時指定で各日の最終回上映のみ鑑賞可

（9/17はゲストトーク鑑賞不可）

※事務局予約・当日受付のみで販売

通し券：

前売のみ 3,000円

※当日販売なし

※上映会期間中の全上映を鑑賞可

（9/17はゲストトークも鑑賞可）

事務局予約：

電話、FAX、Eメールのいずれかの方法により、前売りチケットの事務局予約を受け付けた。

4 公演詳細

上映作品：

相米慎二監督（全7作品）

『翔んだカップル<オリジナル版>』（1982）

『シオンベン・ライダー』（1983）

『魚影の群れ』（1983）

『台風クラブ』（1985）

『雪の断章-情熱-』（1985）

『光る女』（1987）

『東京上空いらっしゃいませ』（1990）

全7作品（全作品35ミリフィルム上映）

ゲストトーク：

出演：永瀬正敏（俳優）

開催スケジュール：

2016年9月17日（土）

10:15 上映 『台風クラブ』

13:00 上映 『シオンベン・ライダー』

15:00 開始 【ゲストトーク】

16:10 上映 『光る女』

※各広報物では【ゲストトーク】の時間を14:50開始と誤表記。

※【ゲストトーク】を予定時間より延長したため、続く『光る女』上映開始時間を変更。

2016年9月18日（日）

10:15 上映 『光る女』

13:00 上映 『台風クラブ』

15:10 上映 『シオンベン・ライダー』

※『台風クラブ』の上映時間を「96分」と誤認識（正しくは115分）したため、続く『シオンベン・ライダー』の上映開始時間を当日変更した。

2016年9月22日（木・祝）

10:00 上映 『魚影の群れ』

13:00 上映 『雪の断章-情熱-』

14:50 上映 『東京上空いらっしゃいませ』

2016年9月24日（土）

10:15 上映 『翔んだカップル<オリジナル版>』

13:00 上映 『魚影の群れ』

15:25 上映 『東京上空いらっしゃいませ』

2016年9月25日（日）

10:30 上映 『東京上空いらっしゃいませ』

13:00 上映 『翔んだカップル<オリジナル版>』

※各日初回上映の10分前開場

観客動員数：558人（全14上映）

【内訳】（カッコ内は上数字に含まれる招待者数）

作品名	上映①	上映②	計
『翔んだカップル<オリジナル版>』	26 (5)	22 (1)	48 (6)
『シオンベン・ライダー』	101 (14)	21 (0)	122 (14)
『魚影の群れ』	40 (9)	26 (2)	66 (11)
『雪の断章-情熱-』	35 (1)	17 (0)	52 (1)
『台風クラブ』	58 (12)	20 (0)	78 (12)
『光る女』	28 (0)	15 (0)	43 (0)
『東京上空いらっしゃいませ』	35 (1)	10 (0)	45 (1)
【ゲストトーク】	104 (16)	-	104 (16)
計	427 (58)	131 (3)	558 (61)

5 助成・協力

助成：芸術文化振興基金

上映協力：松竹株式会社、東宝株式会社、株式会社キティ・ライツ&エンターテインメント、株式会社電通ミュージック・アード・エンターテインメント、株式会社AID JAPAN、青森映画



公演開催チラシ（オモテ）



公演開催チラシ（ウラ）



ゲストトーク

「特集・川島雄三と岡本喜八」

1 事業概要

9月開催の相米慎二監督の特集上映に引き続き、11月18日(金)から11月20日(日)の3日間に「特集・川島雄三と岡本喜八」と題し、両監督の特集上映を実施した。

川島雄三監督は青森県むつ市の出身で、本県出身の映画監督として代表的な存在で、軽妙な風俗喜劇で名を上げた初期を経て、中期から早逝する晩年までは喜劇の中にも深みのある人間描写が光る作品を連発した。一方、1958年の監督デビューから半世紀近くに渡り日本映画界に寄与し続けた岡本喜八監督は、学生時代に観た洋画から受けた衝動そのままに、日本人離れしたアメリカンスタイル活劇とも言えるキレのある演出作品で定評を集めた。本上映会では、その両監督の作品群から、厳選した4作品を上映した。なお、本上映会は文化庁と東京国立近代美術館フィルムセンターが、広く国民に優れた映画鑑賞の機会を提供するため日本各地の公立文化施設と連携・協力し、所蔵映画フィルムの巡回上映を全国の会場で実施している「優秀映画鑑賞推進事業」の一環としての上映となる。

公演名：青森県立美術館 映画上映

「特集・川島雄三と岡本喜八」

会場：青森県立美術館シアター

席数：180席(全席自由)

開催日：2016年11月18日(金)～20日(日)

計3日間

主催：青森県立美術館パフォーミングアーツ推進実行委員会、
青森県立美術館、文化庁、東京国立近代美術館フィルムセンター
協賛：松竹ブロードキャスティング株式会社
協力：株式会社オーエムシー

2 広報宣伝、営業概要

(1) 宣伝

- ・宣材物作成枚数
チラシ (B5版/カラー) 20,000枚
ポスター (B2版/カラー) 100枚
- ・宣材物配布開始 9月下旬～

(2) 広報

- ・県外含む各映画館、各映画上映会での上映会広報物の掲示・配布。
- ・青森県内の文化施設・教育機関・道の駅・各商店等を中心に広報物を配布し、掲示・周知を依頼。
- ・PA顧客へダイレクトメールの送付。
- ・青森県立美術館サポートシップ倶楽部会員向けチラシを作成し、会員1人あたりチケット3枚まで前売料金から各500円割引を実施。
- ・青森県立美術館公式アカウントのFacebook・Twitter上にて公演周知。

- ・県内17市町村の広報誌へ上映会情報の掲載。
- ・青森市内のすべて(166ヶ所)の老人クラブへ上映会チラシを送付。
- ・青森市内一部地区において、上映会チラシの新聞折り込みを実施。

3 入場料金・チケット販売

(1) 1日券

- (11/18) 前売 800円
- (11/19) 前売 1,000円
- (11/20) 前売 1,000円
- ※当日は各200円増し
- ※日時指定で当日の全作品鑑賞可

【1日券 販売プレイガイド】

- 青森市：成田本店しんまち店
青森県立美術館ミュージアムショップ
- 弘前市：ヒロロ
- 五所川原市：ELM インフォメーション
- つがる市：イオンモールつがる柏インフォメーション

(2) ラスト1本割引

- 500円均一
- ※前売・当日料金同額
- ※日時指定で各日の最終回上映のみ鑑賞可
- ※事務局予約・当日受付のみで販売

(3) 通し券

- 前売のみ 1,500円
- ※当日販売なし
- ※上映会期間中の全上映を鑑賞可
- ※購入者は11/26(土)・27(日)開催の「特集・川島雄三」上映の3作品も無料鑑賞可能

【予約受付】

青森県立美術館パフォーミングアーツ推進実行委員会事務局
(青森県立美術館内)
電話：017-783-5243(平日9:00～17:00)
FAX：017-783-5244
Eメール：eiga@aomori-museum.jp

4 公演詳細

(1) 上映作品

- 川島雄三監督(2作品)
『洲崎パラダイス 赤信号』(1956)
『雁の寺』(1962)
 - 岡本喜八監督(2作品)
『独立愚連隊』(1959)
『日本のいちばん長い日』(1967)
- 計4作品(全作品35ミリフィルム上映)

(2) 開催スケジュール

2016年11月18日(金)

10:10 上映 『洲崎パラダイス 赤信号』

12:10 上映 『独立愚連隊』

2016年11月19日(土)

10:10 上映 『雁の寺』

12:20 上映 『日本のいちばん長い日』

15:25 上映 『洲崎パラダイス 赤信号』

2016年11月20日(日)

10:10 上映 『独立愚連隊』

12:30 上映 『雁の寺』

14:25 上映 『日本のいちばん長い日』

※各日初回上映の10分前開場

(3) 観客動員数 284人(全8上映)

【内訳】 (カッコ内は上数字に含まれる招待者数)

作品名	上映①	上映②	計
『洲崎パラダイス 赤信号』	23 (3)	40 (3)	63 (6)
『雁の寺』	50 (2)	42 (4)	92 (6)
『独立愚連隊』	18 (3)	42 (3)	60 (6)
『日本のいちばん長い日』	35 (2)	34 (2)	69 (4)
計	126 (10)	158 (12)	284 (22)

青森県立美術館 映画上映 10TH 青森県立美術館

特集 川島雄三と岡本喜八

川島雄三監督作品 『洲崎パラダイス 赤信号』 『雁の寺』

岡本喜八監督作品 『独立愚連隊』 『日本のいちばん長い日』

2016年 11月18日(金)・19日(土)・20日(日)

会場 青森県立美術館シアター

公演開催チラシ (オモテ)

川島雄三 Yuzo Kawashima

『洲崎パラダイス 赤信号』 1954年 11巻 10分 1000円

『雁の寺』 1955年 11巻 10分 1000円

『独立愚連隊』 1956年 11巻 10分 1000円

『日本のいちばん長い日』 1962年 11巻 10分 1000円

岡本喜八 Kichiro Okamoto

『独立愚連隊』 1956年 11巻 10分 1000円

『日本のいちばん長い日』 1962年 11巻 10分 1000円

公演開催チラシ (ウラ)

「特集・川島雄三」

1 事業概要

11月18日（金）から20日（日）まで開催した映画上映「特集・川島雄三と岡本喜八」の追加上映として、その翌週に、本県むつ市の出身である川島雄三監督のより深く多彩な魅力に触れられる上映会を開催した。

上映作品は、日本映画史に残る名作『幕末太陽傳』をはじめ、美空ひばり主演の『お嬢さん社長』、パロディ精神にあふれた『縞の背広の親分衆』の全3作品。

公演名：青森県立美術館 映画上映

「特集・川島雄三」

会場：青森県立美術館シアター

席数：180席（全席自由）

開催日：2016年11月26日（土）～27日（日）

計2日間

主催：青森県立美術館パフォーミングアーツ推進実行委員会、
青森県立美術館

2 広報宣伝、営業概要

(1) 宣伝

- ・宣材物作成枚数
チラシ（B5版／カラー）10,000枚
- ・宣材物配布開始 10月下旬～

(2) 広報

- ・県外含む各映画館、各映画上映会での上映会広報物の掲示・配布。
- ・青森県内の文化施設・教育機関・道の駅・各商店等を中心に広報物を配布し、掲示・周知を依頼。
- ・青森県立美術館サポートシップ倶楽部会員向けチラシを作成し、会員1人あたりチケット3枚まで前売料金から各500円割引を実施。
- ・青森県立美術館公式アカウントのFacebook・Twitter上にて公演周知。
- ・県内17市町村の広報誌へ上映会情報の掲載。
- ・県内ラジオ番組へ事務局員が出演し、公演を周知。
- ・青森市内のすべての老人クラブ（166ヶ所）へ上映会チラシを送付。
- ・青森市内一部地区において、上映会チラシの新聞折り込みを実施。

3 入場料金・チケット販売

(1) 1日券

前売 1,000円

※当日は200円増し

※日時指定で当日の全作品鑑賞可

(2) ラスト1本割引

500円均一

※前売・当日料金同額

※日時指定で各日の最終回上映のみ鑑賞可

※事務局予約・当日受付のみで販売

(3) 「通し券」無料鑑賞

11/18（金）～20（日）開催「特集・川島雄三と岡本喜八」
通し券の提示で無料。

【予約受付】

青森県立美術館パフォーミングアーツ推進実行委員会事務局
（青森県立美術館内）

電話：017-783-5243（平日9:00～17:00）

FAX：017-783-5244

Eメール：eiga@aomori-museum.jp

4 公演詳細

(1) 上映作品

川島雄三監督（3作品）

『お嬢さん社長』（1953）

『幕末太陽傳』（1957）

『縞の背広の親分衆』（1961）

（『お嬢さん社長』のみ16ミリフィルム上映、ほか2作品は
35ミリフィルム上映）

(2) 開催スケジュール

2016年11月26日（土）

10:10 上映 『お嬢さん社長』

12:30 上映 『幕末太陽傳』

14:50 上映 『縞の背広の親分衆』

2016年11月27日（日）

10:10 上映 『幕末太陽傳』

12:45 上映 『縞の背広の親分衆』

14:50 上映 『お嬢さん社長』

※各日初回上映の10分前開場

(3) 観客動員数 182人 (全6上映)

【内訳】 (カッコ内は上数字に含まれる招待者数)

作品名	上映①	上映②	計
『お嬢さん社長』	42 (2)	23 (2)	65 (4)
『幕末太陽傳』	42 (4)	18 (2)	60 (6)
『縞の背広の親分衆』	28 (2)	29 (1)	57 (3)
計	112 (8)	70 (5)	182 (13)

5 助成・協力

助成：芸術文化振興基金

上映協力：松竹株式会社、東宝株式会社、日活株式会社、青森
映研

公演開催チラシ (オモテ)

公演開催チラシ (ウラ)

サービス等

貸館

図書室

キッズルーム

博物館実習

サポートシップ倶楽部

貸館

使用施設について

(1) 使用目的

展覧会や作品の創作活動、映像、演劇及び音楽などの芸術活動の発表、練習の場として本県の芸術振興に資する使用であること。

(2) 使用料

① 展示施設を使用する場合

■ コミュニティギャラリー

室名 (面積)	使用料 (入場料等を徴収しない場合)		
	9:30 - 12:00	13:00 - 17:00	左記以外の時間帯
A (148.76㎡)	2,180円	3,480円	1時間 870円
B (60.47㎡)	900円	1,440円	1時間 360円
C (131.30㎡)	1,930円	3,080円	1時間 770円

- ※ 1 入場料等を徴収する場合は、上記使用料の2倍とします。
- ※ 2 コミュニティギャラリーの1室が使用されている場合、他のコミュニティギャラリーが使用できない場合があります。

■ 企画展示室

室名 (面積)	使用料 (入場料等を徴収しない場合)		
	9:30 - 12:00	13:00 - 17:00	左記以外の時間帯
A (182.70㎡)	2,550円	4,080円	1時間 1,020円
B (140.39㎡)	2,050円	3,280円	1時間 820円
C (389.51㎡)	5,650円	9,040円	1時間 2,260円
D (228.06㎡)	3,330円	5,320円	1時間 1,330円
E (105.91㎡)	1,530円	2,440円	1時間 610円
映像室 (70.38㎡)	1,030円	1,640円	1時間 410円

- ※ 1 入場料等を徴収する場合は、上記使用料の2倍とします。
- ※ 2 企画展示室の使用については、県立美術館との共催事業に限ります。

② シアター等を使用する場合

室名 (面積)	使用料 (入場料等を徴収しない場合)
シアター (220席) (348.20㎡)	1時間 2,460円
映写室 (36.36㎡)	1時間 260円
アナウンスブース (6.35㎡)	1時間 50円
ワークショップA (124.38㎡)	1時間 920円
ワークショップB (185.28㎡)	1時間 1,330円
暗室 (22.45㎡)	1時間 160円
スタジオ (100.98㎡)	1時間 740円
映像編集室 (24.77㎡)	1時間 180円
スタジオ映写室 (28.88㎡)	1時間 210円

- ※ 1 入場料等を徴収する場合は、上記使用料の2倍とします。
- ※ 2 暗室は、ワークショップAを利用する場合、又はワークショップAが利用されていないとき使用できます。
- ※ 3 映写室、アナウンスブースは、シアターを利用する場合、使用できます。
- ※ 4 映像編集室、スタジオ映写室は、スタジオを利用する場合、使用できます。

(3) 使用期間

① 展示施設

- ・コミュニティギャラリーは、原則として月曜日始まり、日曜日終わりの1週間単位での使用期間とし、同一の利用者について引き続き5週間を超えることはできません。
- ・企画展示室については、1週間単位での使用期間とし、同一の利用者について引き続き5週間を超えることはできません。

② シアター等

- ・1時間単位での使用期間とし、同一の利用者について引き続き10日を超えることはできません。

* 美術館のすべての施設において

- ・美術館の休館日は、使用できません。(準備、撤去作業の場合は除く。)
- ・毎年度日数を定めて開催している展覧会や上記使用期間では開催目的が達成されない場合において必要と認められるときは、使用期間を変更できるものとします。

(4) 使用時間

- ① 美術館の施設使用時間は、美術館の開館時間〔9時30分から17時まで(7月～9月は、9時から18時)〕とします。なお、施設使用上やむを得ない理由があると認められる場合には、閉館後、1時間単位で21時(シアター利用に限り22時)まで延長することができます。開館時間前の使用については、ご相談ください。
- ② 施設使用時間には、展覧会等の準備の時間及び撤収の時間も含まれます。(延長した場合であっても21時(シアターについては22時)には撤収が完了していなければなりません。)
- ③ 展示施設は、9時30分から12時、13時から17時の使用区分とし、それ以外は1時間単位での使用とします。
- ④ シアター等は、1時間単位での使用とします。

■コミュニティギャラリー

(単位：人)

使用期間	使用者	展覧会名等	使用施設	入場者数
5/15-5/16	株式会社パディズ	青森スタイリストアワード2016 コンテスト作品展示	コミュニティギャラリーABC、シアター、映写室、スタジオ	200
5/29	サイエンスワークス	映像制作 (ミュージックビデオ撮影)	コミュニティギャラリーAB	15
6/23-6/26	奥崎 文一	グループ写真展	コミュニティギャラリーB	254
6/27-7/18	有限会社ボロボロタイムス社	本橋成一写真展「上野駅の幕間～そして、青函連絡船」	コミュニティギャラリーABC	1,570
8/10-8/17	学校法人青森田中学園創立70周年記念イベント 実行委員会 曾我 武	学校法人青森田中学園創立70周年記念 青森中央文化専門学校 「DRESSEDUNDRESSED 展」	コミュニティギャラリーABC (8/11 除く)	348
8/11	青森中央文化専門学校 学校長 久保 薫	学校法人青森田中学園創立70周年記念 青森中央文化専門学校 「DRESSEDUNDRESSED 展」 トークイベント	コミュニティギャラリーABC	84
8/20-8/21	住友生命保険相互会社 青森支社	第40回スミセイこども絵画コンクール	コミュニティギャラリーABC	700
8/24-8/26	一般社団法人青森県文化振興会議	第57回青森県美術展覧会「県展2016」 審査	コミュニティギャラリーABC	80
9/2-9/4	津軽裂織サクリ会	津軽裂織教室展示-木の色・花の色-	コミュニティギャラリーB	131
9/10-9/11	社会福祉法人平館福祉会	エコル作品展	コミュニティギャラリーA	115
9/15-9/19	柳谷 暁彦	柳谷暁彦作品展 カゼニナビイテ (仮)	コミュニティギャラリーB	100
9/21-9/26	mizuuro 株式会社	100人のおやさいクレヨン画展	コミュニティギャラリーA	1,117
9/25	mizuuro 株式会社	100人のおやさいクレヨン画展クロージングイベント	コミュニティギャラリーA	103
10/1-10/1	公益社団法人青森青年会議所	あもりこころアート	コミュニティギャラリーABC、 ワークショップAB, シアター	300
10/5-10/17	一般社団法人青森県文化振興会議	第57回青森県美術展覧会「県展2016」	コミュニティギャラリーABC ※10/11はBのみ	1,010
10/28-10/30	MOA 美術館青森児童作品展実行委員会	第28回 MOA 美術館青森児童作品展	コミュニティギャラリーABC、 シアター、映写室	1,720
11/3	高坂 富美子	木村ギターアンサンブルコンサート	コミュニティギャラリーAB (会場はAのみ)	100
11/7-11/13	吉澤 秀香	～書に魅せられて～吉澤秀香大作展	コミュニティギャラリーABC	350
11/21-1/17	青森放送株式会社	みんな大好き!! トムとジェリーの愉快な世界展	コミュニティギャラリーABC、 ワークショップA	48,038
3/3-3/5	株式会社田名部組	第9回 建築家展	コミュニティギャラリーABC	60

■シアター・映写室・スタジオ

(単位：人)

使用期間	使用者	展覧会名等	使用施設	入場者数
6/17	佐藤 朋英	個人使用	シアター、映写室	10
5/28-5/29	青森市教育委員会	棟方志功サミット	シアター、映写室	220
10/22-10/23	ひろさき芸術舞踊実行委員会	次世代ダンサー&パフォーマー "DREAMER"	シアター、映写室	225
3/4-3/5	青森ダンスエクスペリエンスの会	BUTOH Performance Festival in AOMORI II (舞踏公演)	シアター、映写室	180
3/3-3/5	青森ダンスエクスペリエンスの会	BUTOH Performance Festival in AOMORI II (舞踏写真展)	スタジオ	350

合計 57,380 人

図書室

概要

図書室は、館の美術情報センターとしての機能を担い、その機能のうち美術に関する図書資料情報を収集、整理、保存、提供することで美術の普及を図ることを目的として、一般開放している。

具体的には、美術に関する専門ライブラリとして、来館者に対し、当館所蔵作品・作家に関するものをはじめ、美術に関する知識を深める図書資料情報の提供、閲覧、美術及び図書資料に関する相談受付（レファレンス）、他美術館等の展覧会情報の提供等を行っている。

また、図書室所蔵の絵本を利用し、当館キッズルームでおはなし会を開催するなど、当館の美術教育普及事業の支援機関としての機能も担っている。

設備：来館者用パソコン端末 1台、図書閲覧席 20席

開館日・開室時間：美術館開館日の10:00 - 16:00

図書資料の収集方針

「青森県立美術館作品収蔵基本方針」に準じ、1) 近・現代の青森県出身作家及びゆかりのある作家に関するもの、2) 青森県以外の近・現代の美術状況に対応するために必要な優れた美術作品に関するもの、3) 今に生きる県民の心の原点に関わり、未来に資するもの、4) 1～3を理解するために必要なものを購入および寄贈により収集した。

蔵書数（平成28年度3月末現在）

- ・美術図書 5,161冊
- ・デザイン・建築関係図書 466冊
- ・写真関係図書 460冊
- ・絵本・イラスト関係図書 1,105冊
- ・民俗・歴史関係図書 515冊
- ・音楽・映画・舞台関係図書 993冊
- ・展覧会カタログ 12,693冊
- ・その他（自然科学、文学など） 2,330冊
- ・雑誌（60タイトル） 10,782冊 ※継続購入は17タイトル

サービス

図書資料閲覧

美術に関する映像ソフトの鑑賞

美術に関する図書資料に係る相談受付（レファレンス）

当館に関する情報の掲載誌の閲覧

実績

開室日数：324日

利用者数：4,741人

レファレンス利用件数：29件

	開室日数(日)		入室者数(人)		レファレンス	
	月計	月計	1日平均	月計	1日平均	
4月	28	224	8.0	1	0.0	
5月	29	391	13.5	4	0.1	
6月	29	362	12.5	3	0.1	
7月	30	578	19.3	1	0.0	
8月	29	980	33.8	3	0.1	
9月	24	624	26.0	2	0.1	
10月	29	322	11.1	5	0.2	
11月	28	248	8.9	3	0.1	
12月	19	260	13.7	0	0.0	
1月	29	315	10.9	1	0.0	
2月	26	131	5.0	2	0.1	
3月	24	306	12.8	4	0.2	
計	324	4,741	14.6	29	0.1	

事業

1 美術館事業への支援・事業との連携

当館で行う常設展示及び企画展示と連携し、開催期間中、所蔵図書資料のうち展示に関連する資料を展示用書架にて紹介した。また、当館キッズルームで行ったおはなし会に所蔵絵本を活用した。

2 他の美術館・関係団体等との連携

「新着カタログコーナー」にて、新しく受け入れた他美術館の展覧会カタログを継続的に紹介した。

キッズルーム

概要

絵本やお絵かき、積み木などを親子で楽しむことを通じて、子どもたちの美術への関心を高めることを目的として、地下1階「キッズルーム」を、来館者の多い土日祝日と企画展開催時の平日に無料で開放している。

「キッズルーム」は、約500冊の絵本をはじめとして、スイスのnaef（ネフ）社製やおもり木製玩具研究会「わらはんど」製作の色や形の美しい積み木やお絵かきを自由に楽しめる空間となっている。

利用実績

開室時間：土日祝日及び企画展開催時の平日 10:00 - 15:00

平成28年度キッズルーム利用実績

	開室日数(日)		入室者数(人)		平均
	月計	子ども	おとな	月計	
4月	18	101	78	179	9.9
5月	29	212	162	374	12.9
6月	20	99	90	189	9.5
7月	22	189	115	304	13.8
8月	29	257	187	444	15.3
9月	24	120	98	218	9.1
10月	24	97	95	192	8.0
11月	28	199	187	386	13.8
12月	14	270	247	517	36.9
1月	11	239	202	441	40.1
2月	8	93	68	161	20.1
3月	9	73	67	140	15.6
計	236	1,949	1,596	3,545	15.0

博物館実習

概要

博物館法施行規則第1条に定められた学芸員資格取得に関する博物館実習を実施した。

実施内容：美術館における諸活動（展示・収蔵・教育普及等）

期間：2016年8月17日（水）－8月21日（日）

実習指導：青森県立美術館職員他

実習生：13名

秋田公立美術大学（2名）、岩手大学（1名）、女子美術大学（1名）、筑波大学（1名）、東京学芸大学（1名）、東北芸術工科大学（2名）、弘前学院大学（1名）、弘前大学（1名）、明治学院大学（1名）、立教大学（1名）、八洲学園大学（1名）

プログラム

平成28年度 博物館（美術館）学芸員実習日程

第1日目 8月17日（水）

- ・オリエンテーション
- ・青森県立美術館の概要
- ・学芸員の仕事について
- ・美術館の教育普及活動について
- ・美術館におけるパフォーミングアーツ活動
- ・実習日誌作成

第2日目 8月18日（木）

- ・美術館のコレクション形成について
- ・展覧会の企画と実施1
- ・作品の保存・管理について
- ・展覧会の企画と実施2
- ・展覧会の企画と実施3
- ・実習日誌作成

第3日目 8月19日（金）

- ・美術館の施設およびサイン計画について
- ・作品の取扱いおよび調書作成（日本画、油彩画、立体、紙作品）
- ・展覧会の運営および広報活動
- ・地域に根ざした美術館の活動について
- ・実習日誌作成

第4日目 8月20日（土）

- ・来館者対応とホスピタリティー
- ・展示室での監視ポジションの紹介とふるまい方研究（監視員補助実習を含む）
- ・[演習] 展覧会を企画してみよう
 - 1 テーマ設定、作品リストの完成
- ・[演習] 展覧会を企画してみよう
 - 2 普及活動の検討（展覧会関連イベント見学も含む）
- ・実習日誌作成

第5日目 8月21日（日）

- ・[演習] 展覧会を企画してみよう
 - 3 展示プラン作成
- ・[演習] 展覧会を企画してみよう
 - 4 展示場の留意点
- ・[演習] 企画した展覧会を発表してみよう 1人15分（発表＋講評）
- ・実習日誌作成

サポートシップシップ倶楽部

概要

青森県立美術館の活動に協力するとともに広く県民の美術その他の芸術文化の向上に寄与するために平成27年度（平成28年3月）に発足した任意団体。

会員の区分と年会費

一般会員

成人会員：3,000円、学生会員（高校生以上）：2,000円、
法人会員：30,000円

特別会員（総会出席）

法人会員：一口100,000円

会員数（29年3月31日現在）

一般会員：成人会員106名、学生会員3名、法人会員2団体
特別会員：20法人（69口）

特典

会員への情報提供

一般会員

常設展観覧料無料観覧（法人会員は3名まで同時観覧可能）
企画展観覧料無料招待券配布のほか、いつでも団体料金で観覧可
ミュージアムショップ割引
カフェ割引
等

特別会員

企画展内覧会・レセプション招待
等

特別会員一覧

（公表を承諾した会員 50音順 平成29年3月31日現在）

青森朝日放送株式会社
株式会社青森銀行
学校法人青森田中学園
株式会社青森テレビ
青森トヨタ自動車株式会社
青森放送株式会社
津軽海峡フェリー株式会社
株式会社東奥日報社
東北化学薬品株式会社

トヨタL&F青森株式会社
トヨタ小野グループサービス株式会社
株式会社トヨタレンタリース青森
ネットトヨタ青森株式会社
株式会社弘前公益社
株式会社みちのく銀行
吉田産業協同組合

平成28年度事業報告

1 美術館活動への支援事業

(1) 美術館ファンの拡大

一般会員の会員特典（観覧料無料）をアピールし観覧者数の増加を図った。延べ観覧者数316名

(2) 美術資料の充実

美術品寄付のための積み立て。

(3) 美術品の購入及び寄贈

澤田教一写真作品10点、小島一郎写真作品10点を購入し、美術館に寄贈した。

2 県民の美術その他の芸術文化の向上に寄与するための事業

(1) 企画展関連の講演会・ワークショップ等の共催・後援

① 「棟方志功とその時代」展記念講演会

「近代日本美術史における棟方志功」

平成28年5月14日（土）13:30 - 15:00

青森県立美術館シアター

講師 女子美術大学教授 北澤憲昭

○ 「棟方志功と民芸」

平成28年5月15日（日）13:30 - 15:00

青森県立美術館ワークショップA

講師 青森民芸協会会長 會田秀明

② 「青森EARTH2016」展アートツアー及び映画上映会

○アートツアー「ジャッカ・ドフニの舟、あるいは記憶の海路 - T.Y. への手紙」

平成28年8月13日（土）10:00 - 17:00

津軽半島各所

講師 今福龍太（文化人類学者）ダンサー 中村達哉

○映画上映 アピチャップン・ウィーラセタクン監督映画「ブンミおじさんの森」等

平成28年9月3日（土）・4日（日）10:00 - 16:00

青森県立美術館シアター

③ 「生誕80周年澤田教一：故郷と戦場」展講演会及び映画上映

- 講演会「カメラマンの戦場」
平成28年10月8日(土) 14:00 - 15:30
青森県立美術館シアター
講師 フォトジャーナリスト/元UPI通信社 今城力夫
- 映画上映「SAWADA サワダ」
平成28年10月15日(土) 13:00 - 15:30
青森県立美術館シアター
映画監督 五十嵐匠
アフタートーク 五十嵐匠(映画監督)
澤田サタ(澤田教一夫人)
- 映画上映「ドゥン ドット(焼いてはいけない)」
平成28年11月23日(水・祝) 13:00 - 15:30
青森県立美術館シアター
映画監督 ダン・ニャット・ミン
アフタートーク 坂川直也(東南アジア映画研究者)
- ④「生誕80周年澤田教一：故郷と戦場」展来館者特典リーフレット製作
「澤田教一と行くベトナム戦争史／作者 西島大介」
印刷部数 20,000部 A3両面2色刷り 4つ折り
平成28年10月8日(土)から配布
- ⑤青森県立美術館映画上映「特集・相米慎二の10年間」
映画上映「シヨンベンライダー」「魚影の群れ」ほか
平成28年9月17日(木) - 9月25日(日)
青森県立美術館シアター
ゲストトーク 永瀬正敏(俳優)
- ⑥開館10周年記念イベント「県美の冬物語(八角堂リニューアルオープニングセレモニー)」
ホットドリンクのふるまい
平成28年12月23日(金・祝)
青森県立美術館八角堂周辺

(2) 視察研修(一般会員参加者17名)

日帰り研修視察ツアー

～八戸市美術館・是川縄文館をたずねて～

平成28年11月6日(日) 8:00 - 18:00

- ①新美術館建設に伴い平成28年度で閉館となる八戸市美術館で「北斎展」を学芸員の解説とともに観覧。
- ②合掌土偶でおなじみの是川縄文館をボランティアガイドの解説付きで見学。

資料

広報

広聴

入館者数

運営予算・決算

組織

関係規程等

施設設備概要

広報

開館 10 周年記念企画展や記念事業の開催について、県の広報媒体を積極的に活用した広報活動や、Twitter・Facebook 等のソーシャルメディアネットワークによる活動を展開したほか、ホームページのトップページを開館 10 周年記念デザインにリニューアルした。また、北海道新幹線の開業 1 周年を機に JR 東日本が「青森県・函館ディステーション・キャンペーン」を展開したこと等により、多数の旅行雑誌等へ掲載された。

(1) 県広報による実績

- ・ ABA 「メッセージ」
- ・ RAB ラジオ 「広報タイム」
- ・ エフエム青森 「あおり・ふぁん」
- ・ 東奥日報、デーリー東北、陸奥新報 「広報あおりけん」
- ・ 県民だより
- ・ 県庁ホームページアイキャッチ

(2) ソーシャルメディアネットワーク

- ・ Twitter
アカウント：aomori_museum_of_art@aomorikenbi
- ・ Facebook
アカウント：https://www.facebook.com/aomori.museum
- ・ Youtube
アカウント：http://www.youtube.com/user/aomorikenbi

(3) ホームページ

URL：http://www.aomori-museum.jp (PC 版)
http://www.aomori-museum.jp/ja_mobile (モバイル版)
年間アクセス数 (2016.4 - 2017.3)：518,352 件

(4) 雑誌等掲載実績 (主なもの、順不同)

- ・ 美術手帖
- ・ rakra
- ・ マップル
- ・ るるぶ
- ・ ことりっぶ
- ・ C a s a B R U T U S
- ・ 東京カメラガールズ
- ・ マリソル
- ・ 日経プラスワン 「建物が美しい美術館ランキング」
- ・ 25ans
- ・ 小原流挿花
- ・ OZ magazine (オズマガジン)
- ・ 散歩の達人別冊 MOOK 「女子旅行」

- ・ 青森県・函館 DC ガイドブック
- ・ 青森県観光ガイドブック 「あおり紀行」
- ・ 「旅人類」 Vol.3 津軽海峡の南北 (道南・東北エリア)
- ・ GOOD LUCK TRIP 青森・函館
- ・ 家庭画報
- ・ 「Kappo 仙台闊歩」
- ・ 台湾 MOOK ガイドブック 「東北自遊人」
- ・ おとな旅 プレミアム 「函館・津軽」
- ・ おとな旅 プレミアム 「十和田湖・奥入瀬・盛岡・遠野・角館」
- ・ 月刊『一個人』
- ・ ELLE JAPON
- ・ 台湾角川 Japan Walker
- ・ 婦人画報
- ・ 現代デザイン事典
- ・ 日本の美術館 Best200
- ・ 和楽

ほか多数

広聴

青森県立美術館アドバイザー・ボード

青森県立美術館のより良い運営を推進するため、青森県立美術館の運営に関して専門的及び県民の立場から必要な助言等を行う第三者委員会を設置。

アドバイザー（順不同）

座長 建 畠 哲（全国美術館会議会長・多摩美術大学学長・
埼玉県立近代美術館館長）

三上 満良（宮城県美術館副館長）

山田 泰子（八戸市美術館館長）

蜷川 有紀（美術家・女優）

三澤 一実（武蔵野美術大学教授）

大嶋 憲通（株式会社リンクステーション代表取締役
社長）

花田 玲子（県民代表）

松下 三恵（県民代表）

会議開催状況

第1回

開催日：2016年3月19日（土）

会場：青森県立美術館

第2回

開催日：2017年2月9日（木）

会場：青森県立美術館

入館者数

(単位：人)

		18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度①	28年度②	増減(②-①)
常設展	一般観覧者	193,501	89,229	109,609	190,672	233,192	141,904	177,266	179,793	73,541	137,198	92,714	△ 44,484
	スクールプログラム	12,685	6,968	6,668	9,098	11,574	6,777	5,798	3,712	3,845	3,530	3,295	△ 235
	常設展計	206,186	96,197	116,277	199,770	244,766	148,681	183,064	183,505	77,386	140,728	96,009	△ 44,719
企画展	シャガール展	192,918											
	縄文と現代展	14,894											
	工藤甲人展	1,680	10,950										
	旅順博物館展		30,065										
	舞台芸術の世界展		6,282										
	棟方志功・崔榮林展		4,156										
	寺山修司展			9,533									
	大ナボレオン展			46,609									
	小島一郎展			8,660									
	ウィーン展				36,884								
	(特別展 太宰治と美術展)				(23,191)								
	馬場のぼる展				25,464								
	ラブラブショー				5,160								
	ローマ展					45,622							
	ロボット展					25,076							
	芸術の青森展					3,530							
	印象派展						105,758						
	今和次郎展						4,807						
	フィンランド展								31,876				
	Art and Air 展								18,267				
	奈良美智展								80,275				
	種差展									16,807			
	横尾忠則展									10,516			
	日本の民家展									5,115			
	工藤哲巳展										5,056		
	美少女展										33,866		
	関野準一郎展										8,158		
	成田亨展											18,257	
	化け物展											32,984	
	「青森EARTH2015 みちの奥へ」展示											3,022	
	棟方志功展												17,427
日展												19,094	
青森EARTH2016 根と路												11,190	
澤田教一展												10,195	
企画展計	209,492	51,453	64,802	67,508	74,228	110,565	130,418	32,438	47,080	54,263	57,906	3,643	
教育普及	スクールプログラム	18,775	9,905	9,242	7,087	7,272	7,368	6,310	5,792	3,974	4,065	4,158	93
	普及プログラム	2,300	2,148	2,873	886	718	11,763	2,565	2,744	1,575	557	96	△ 461
	お出かけ講座	1,196	1,587	1,122	1,119	537	1,250	1,022	1,245	383			0
	展示関係プログラム			625	1,526	7,546	930	909	1,738	932	757	1,688	931
	その他	500		464	266	399	387	351	136	440	393	411	18
	教育普及計	22,771	13,640	14,326	10,884	16,472	21,698	11,157	11,655	7,304	5,772	6,353	581
パフォーマンスアート	演劇	2,170	1,821	1,516	1,333	1,085	2,962	3,468	5,255	2,258	2,140	2,163	23
	ダンス			1,419	1,089	520			339	699	662	490	△ 172
	音楽	1,559	471	1,583	1,959	970	979	1,133	810	469	479	469	△ 10
	映画	975	1,954	1,584	685				240	991	503	1,024	521
	パフォーマンスアート計	4,704	4,246	6,102	5,066	2,575	3,941	4,601	6,644	4,417	3,784	4,146	362
貸館 (上記以外の自主事業を含む)	10,268	26,481	194,807	104,625	144,520	20,735	33,410	126,284	26,192	71,045	58,931	△ 12,114	
図書館	2,552	7,727	12,910	10,012	7,864	6,561	10,688	6,818	4,662	4,307	6,557	2,250	
キッズルーム		2,850	3,690	3,127	3,555	20,501	15,889	4,267	2,602	3,118	3,545	427	
合計	455,973	202,594	412,914	400,992	493,980	332,682	389,227	371,611	169,643	283,017	233,447	△ 49,570	

※ キッズルームは平成 19 年 4 月 28 日からオープン

※ 特別展太宰治と美術展入館者数は常設展入館者数を含む

運営予算・決算

平成 28 年度 一般会計予算額

(単位：千円)

事業名	収入	科目	支出	細目	説明
美術館費	34,899	使用料及び手数料	168,443	職員費	人件費
	6,039	国庫支出金			
	316	財産収入	594,133	美術館運営管理費	管理運営費、調査研究費、美術資料収集費、美術資料保存管理費、展示費、教育普及費、情報事業費、パフォーミングアーツ事業費 他
	58,088	繰入金			
	54,088	諸収入			
	623,412	一般財源	15,061	公園管理費	三内丸山遺跡等管理費、青森県総合運動公園管理費
合計	777,637		777,637		

平成 28 年度 一般会計決算額

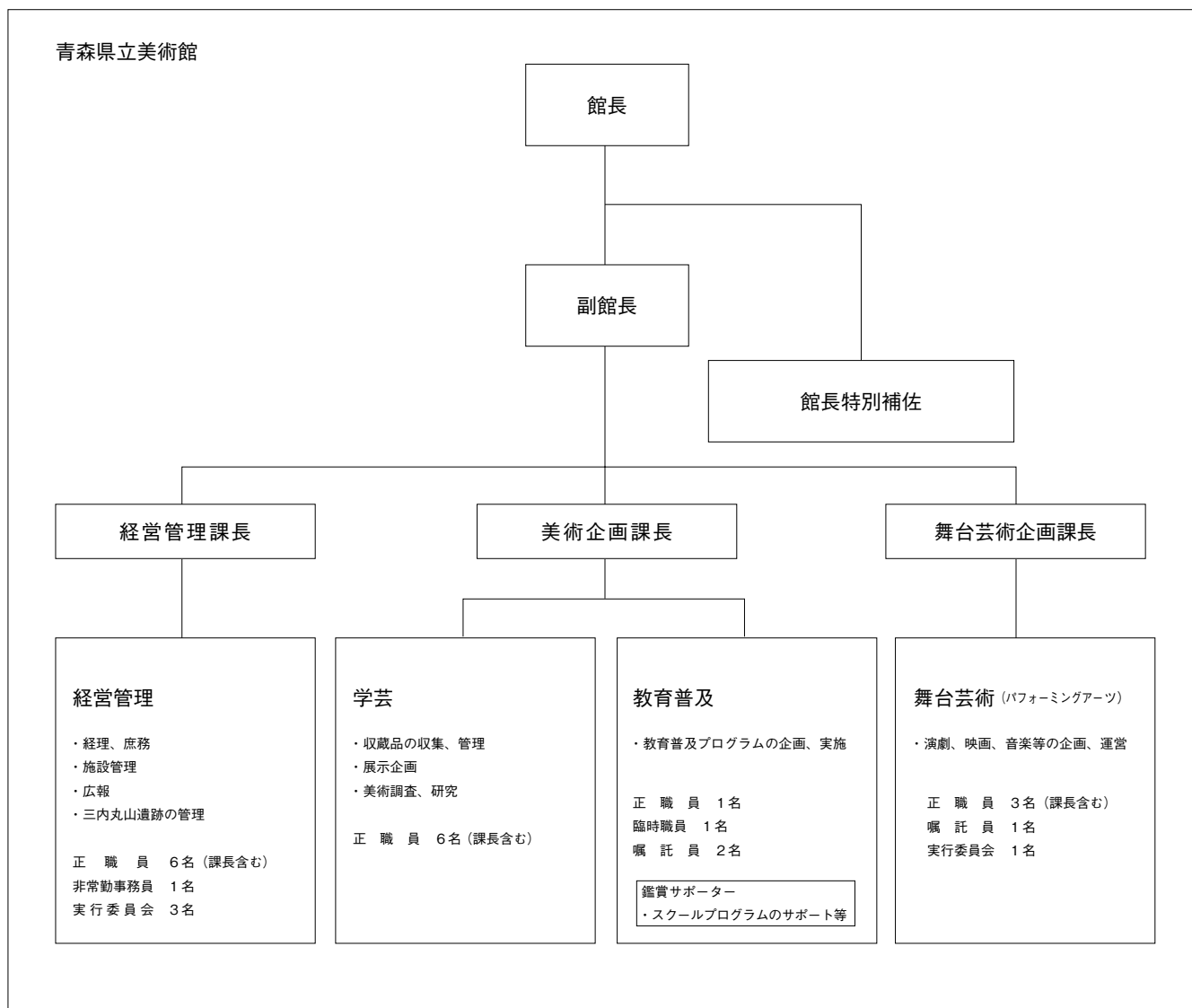
(単位：千円)

事業名	収入	科目	支出	細目	説明
美術館費	36,052	使用料及び手数料	158,977	職員費	人件費
	1,548	国庫支出金			
	316	財産収入	585,036	美術館運営管理費	管理運営費、調査研究費、美術資料収集費、美術資料保存管理費、展示費、教育普及費、情報事業費、パフォーミングアーツ事業費 他
	58,087	繰入金			
	54,671	諸収入			
	608,400	一般財源	15,061	公園管理費	三内丸山遺跡等管理費、青森県総合運動公園管理費
合計	759,074		759,074		

組織

- 県立美術館の運営は、アドバイザー・ボードの助言を得ながら行っている。
- 文化観光の拠点形成を図る観点から、三内丸山遺跡（縄文時遊館を除く）と一体的な管理・運営を行っている。
- このため、館長、県職員（非常勤及び臨時含む）20人、嘱託員3人の計24人が美術館運営にあっている。
このほか、企画展実行委員会職員3名、パフォーミングアーツ実行委員会職員1名が配置されている。

(平成28年4月1日現在)



関係規程等

青森県立美術館条例

(設置)

第一条 美術その他の芸術の鑑賞及び学習の機会並びに創作活動の場の提供を行うことにより、県民の芸術に関する活動への参画を支援し、もって文化の振興を図るため、青森市に青森県立美術館（以下「美術館」という。）を設置する。

(業務)

第二条 美術館は、次に掲げる業務を行う。

- 一 美術品その他の芸術に関する資料（以下「美術品等」という。）の収集、保管及び展示に関すること。
- 二 美術品等の利用に関し必要な説明、助言及び指導に関すること。
- 三 美術品等に関する専門的、技術的な調査研究に関すること。
- 四 美術品等に関する案内書、解説書、目録、図録、年報、調査研究の報告書等の作成及び配布に関すること。
- 五 美術その他の芸術に関する講演会、講習会、映写会、研究会、公演会等の開催に関すること。
- 六 美術その他の芸術に関する情報の収集及び提供に関すること。
- 七 美術その他の芸術に関する創作活動の場の提供に関すること。
- 八 その他県民の芸術に関する活動への参画を支援するために必要な業務

(使用の承認)

第三条 別表第二号又は第三号に掲げる場合において、美術館の施設を使用しようとする者は、知事の承認を受けなければならない。

(使用料)

第四条 美術館の施設を使用する者（以下「使用者」という。）は、別表に定める使用料を納入しなければならない。

2 知事は、特別の理由があると認めるときは、前項の使用料の全部又は一部を免除することができる。

(使用の制限等)

第五条 知事は、使用者が次の各号のいずれかに該当する場合は、当該使用者の美術館の使用を拒み、その使用の承認を取り消し、又はその使用を制限することができる。

- 一 他の使用者に迷惑をかけ、又はそのおそれがあるとき。
- 二 美術館の施設、設備等をき損し、若しくは汚損し、又はそれらのおそれがあるとき。
- 三 この条例又はこの条例に基づく規則に違反したとき。

2 知事は、前項に規定する場合のほか、美術館の管理運営上支障があると認めるときは、美術館の使用を制限することができる。

(委任)

第六条 この条例に定めるもののほか、美術館の管理に関し必要な事項は、規則で定める。

附則 この条例は、規則で定める日から施行する。

別表（第三条、第四条関係）

一 美術品等の観覧のための使用の場合

区分	金額（一回につき）
常設展の観覧	一人につき 千円を超えない範囲内で知事が定める額
企画展の観覧	知事がその都度定める額

二 展示施設の使用の場合

イ 入場料その他これに類する料金を徴収しないで使用する場合

区分	九時三十分から 十二時まで	十三時から 十七時まで	九時三十分以前、 十二時から十三時 まで及び十七時以降
コミュニティギャラリーA	二千三百円	三千四百円	八百五十円
コミュニティギャラリーB	八百八十円	千四百円	三百五十円
コミュニティギャラリーC	千八百八十円	三千円	七百五十円
展示室A	二千五百円	四千元	千円
展示室B	二千円	三千二百円	八百円
展示室C	五千五百円	八千八百円	二千二百円
展示室D	三千二百五十円	五千二百円	千三百円
展示室E	千五百円	二千四百円	六百円
映像室	千円	千六百円	四百円

ロ 入場料その他これに類する料金を徴収して使用する場合は、この場合の使用料の額の二倍に相当する額

三 シアター等の使用の場合

イ 入場料その他これに類する料金を徴収しないで使用する場合

区分	金額（一時間につき）
シアター	二千四百円
映写室	二百六十円
アナウンスブース	五十円
ワークショップA	九百円
ワークショップB	千三百円
暗室	百六十円
スタジオ	七百二十円
映像編集室	百八十円
スタジオ映写室	二百十円

ロ 入場料その他これに類する料金を徴収して使用する場合は、この場合の使用料の額の二倍に相当する額

四 食堂施設又は売店施設の使用の場合

知事が定める額

青森県告示第 五百二十五 号

青森県立美術館条例（平成十七年十月青森県条例第六十九号）別表第四号の規定により、青森県立美術館の食堂施設及び売店施設の使用料の額を次のとおり定める。

平成十八年七月十二日

青森県知事 三村申吾

区分	金額（一年につき）
食堂施設	八十三万四千八百円
売店施設	六十六万五千六百円

備考 使用期間が一年に満たないとき、又は使用期間に一年に満たない端数があるときは、その全期間又は端数部分について日割で計算する。

青森県立美術館規則

（趣旨）

第一条 この規則は、青森県立美術館条例（平成十七年十月青森県条例第六十九号。以下「条例」という。）第六条の規定に基づき、青森県立美術館（以下「美術館」という。）の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

（開館時間）

第二条 美術館の開館時間は、午前九時三十分から午後五時まで（六月一日から九月三十日までの期間にあっては、午前九時から午後六時まで）とする。

2 美術館の副館長（以下「副館長」という。）は、必要があると認めるときは、前項の開館時間を変更することができる。

第三条 美術館の休館日は、次のとおりとする。

一 毎月第二月曜日及び第四月曜日（その日が国民の祝日に関する法律（昭和二十三年法律第七十八号）に規定する休日にあたるときは、その翌日）

二 十二月二十七日から同月三十一日までの日

2 副館長は、必要があると認めるときは、前項の休館日に開館し、又は同項の休館日以外の日に休館することができる。

（使用の承認の手続）

第四条 条例第三条の規定による使用の承認（以下「使用の承認」という。）を受けようとする者は、使用申込書を知事に提出しなければならない。

2 知事は、使用の承認をしたときは、当該使用の承認を受けた者に使用承認書を交付するものとする。

（使用料の免除の申請）

第五条 条例第四条第二項の規定による使用料の免除を受けようとする者は、免除申請書を知事に提出しなければならない。

（使用の承認の取消し等）

第六条 副館長は、美術館の施設を使用する者（以下「使用者」という。）が不正な手段により使用の承認を受けたと認めるときは、その使用の承認を取り消し、又はその使用を制限することができる。

（原状回復等）

第七条 使用者は、故意又は重大な過失により美術館の施設、設備、美術品その他の芸術に関する資料等をき損し、又は汚損したときは、原状に復し、又は現品若しくはそれに相当する代価をもって弁償しなければならない。

附則

この規則は、平成十八年七月十三日から施行する。

附則

1 この規則は、平成二十七年四月一日から施行する。

青森県立美術館管理規程

（趣旨）

第1条 この規程は、青森県立美術館条例（平成17年10月青森県条例第69号。以下「条例」という。）及び青森県立美術館規則（平成18年7月青森県規則第72号。以下「規則」という。）に定めるもののほか、青森県立美術館（以下「美術館」という。）の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

（観覧券の交付）

第2条 条例別表第1号に定める使用料を納入した者に対し、観覧券を交付するものとする。

（使用の承認）

第3条 規則第4条第1項に規定する使用申込書の様式は、第1号様式とする。

2 規則第4条第2項に規定する使用承認書の様式は、第2号様式とする。

3 規則第4条に規定する使用承認の手続きに関し必要な事項は、副館長が別に定める。

（使用料の納付）

第4条 使用の許可を受けた者は、納入通知書により指定する日までに使用料を納入しなければならない。

（使用料の還付）

第5条 納付された使用料は、還付しない。ただし、天災その他利用者の責めによらない理由により美術館を使用できなくなった場合は、この限りではない。

2 前項ただし書きにより使用料の還付を受けようとする者は、使用料還付請求書（第3号様式）を副館長に提出しなければならない。

（使用料等の免除）

第6条 副館長は、条例別表第1号に規定する常設展の観覧が次の各号のいずれかに該当するときは、規則第5条の規定により使用料の全部又は一部を免除するものとし、その免除の額は、当該各号に定める額とする。

一 教育課程に基づく学習活動として観覧する小学校、中学校、中等教育学校前期課程及び特別支援学校の児童、生徒及び引率する教職員が観覧するとき 使用料の全部の額

二 児童福祉法（昭和22年法律第164号）第7条に規定する児童福祉施設に入所している少年及び引率する当該施設の職員が観覧するとき 使用料の全部の額

三 身体障害者福祉法（昭和24年法律第283号）第15条

第4項の規定による身体障害者手帳の交付を受けている者及びその付添人が観覧するとき（ただし、免除する付添人は、当該障害者一人につき一人までとする。）使用料の全部の額

四 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（昭和25年法律123号）第45条第2項の規定による精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者、療育手帳の交付を受けている知的障害者及びこれらの付添人が観覧するとき（ただし、免除する付添人は、当該障害者一人につき一人までとする。）使用料の全部の額

五 前各号に掲げるもののほか、副館長が特別の理由があると認めるとき 使用料の全部の額又は一部の額

2 前項第1号、第2号及び第5号に規定する常設展の使用料の免除を受けようとする者は、常設展の観覧使用料免除申請書（第4号様式）を副館長に提出しなければならない。

3 副館長は、条例別表第2号又は第3号に掲げる施設の使用が美術館の目的にふさわしい資料展示、講習会、研究会等のためであり、かつ、次の各号のいずれかに該当するときは使用料の全部又は一部を免除するものとし、その免除の額は、当該各号に定める額とする。

一 学校教育法（昭和22年法律26号）第1条に規定する学校が教育課程に基づく学習活動として使用するとき 使用料の全部の額

二 児童福祉法（昭和22年法律第164号）第7条に規定する児童福祉施設に入所している少年を対象とする事業に使用するとき 使用料の全部の額

三 身体障害者福祉法（昭和24年法律第283号）第15条第4項の規定による身体障害者手帳の交付を受けている者及びその付添人を対象とする事業に使用するとき 使用料の全部の額

四 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（昭和25年法律123号）第45条第2項の規定による精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者及び療育手帳の交付を受けている知的障害者とこれらの付添人を対象とする事業に使用するとき 使用料の全部の額

五 美術館を構成員とする実行委員会等が主催して使用するとき 副館長が事案に即して相当と認める額又は使用料の全額

六 芸術の振興を目的として活動している団体が主体となって、美術館と共催し使用するとき 使用料の2分の1に相当する額を基本として副館長が事案に即して相当と認める額

七 前各号に掲げる場合のほか、副館長が特別の理由があると認めるとき 副館長が定める額

4 前項に規定する施設の使用料の免除を受けようとする者は、施設使用料免除申請書（第5号様式）を副館長に提出しなければならない。

（美術品等の貸出）

第7条 副館長は、別に定めるところにより美術館の資料を貸し出すことができる。

（美術品等の寄託又は寄贈）

第8条 副館長は、別に定めるところにより美術資料の寄託又

は寄贈を受けることができる。

（美術資料の特別観覧）

第9条 副館長は、美術館に収蔵されている美術資料について学術研究等のために必要があると認めるときは、当該美術資料の模写、模造、撮影等（以下「特別観覧」という。）をさせることができる。

2 前項に規定する特別観覧をしようとする者は、特別観覧承認申請書（第6号様式）を副館長に提出しなければならない。

附則

この規定は、平成18年7月13日から施行する。

この規程は、平成19年6月25日から施行する。

この規定は、平成21年1月19日から施行する。

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

青森県立美術館アドバイザー・ボード設置要綱

（設置）

第1 青森県立美術館（以下「美術館」という。）のより良い運営を推進するため、青森県立美術館アドバイザー・ボード（以下「アドバイザー・ボード」という。）を設置する。

（所掌）

第2 アドバイザー・ボードは、美術館の運営に関して必要な助言等を行う。

（構成）

第3 アドバイザー・ボードは、8名以内のアドバイザーをもって組織する。

2 アドバイザーは、学識経験を有する者その他適当と認められる者から知事が委嘱する。

3 アドバイザー・ボードに座長を置き、アドバイザーの互選により選出する。

4 アドバイザーに欠員を生じた場合の補欠のアドバイザーの任期は、前任者の残任期間とする。

（任期）

第4 アドバイザーの任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

（会議）

第5 アドバイザー・ボードは、青森県立美術館長が招集する。

2 アドバイザー・ボードの議長は、座長が務める。

3 座長に事故があるときは、座長が指示するアドバイザーがその職務を代理する。

（庶務）

第6 アドバイザー・ボードの庶務は、美術館において処理する。

（その他）

第7 この要綱に定めるもののほか、アドバイザー・ボードの運営に関し必要な事項は、美術館が別に定める。

附則

この要綱は、平成27年8月20日から施行する。

施設設備概要

建設概要

施設名称	青森県立美術館
所在地	青森市大字安田字近野 185
主用途	美術館
事業主体	青森県
設計管理	青木淳建築計画事務所 構造：金箱構造設計事務所 設備：森村設計 音響：永田音響設計 土系素材：I N A X
施工	竹中・西松・奥村・北斗特定建設工事共同企業体 強電：きんでん・五十嵐・野呂特定建設工事共同企業体 弱電：奈良・高田特定建設工事共同企業体 空調：高砂・青木・佐藤設備特定建設工事共同企業体 衛生：芝管・五戸特定建設工事共同企業体 昇降機：三菱電機株式会社
面積	敷地面積：129,536.37㎡ 建築面積：7,223.07㎡ 延床面積：21,222.19㎡ 地下2階：4,736.15㎡ 地下1階：3,965.11㎡ 1階：5,339.02㎡ 2階：2,403.81㎡ 3階（機械エリア）：4,778.10㎡ 建ぺい率：5.58% 容積率：16.38%
階数	地下2階 地上3階
寸法	最高高：16,160 mm 軒高：15,150 mm 階高：地下2階 2,300 - 19,000 mm 地下1階 2,500 - 7,500 mm 1階 2,700 - 11,000 mm 2階 2,500 - 4,000 mm 主なスパン：3,000 mm × 3,000 mm
地域・地区	都市計画区域内 市街化区域
構造	鉄骨鉄筋コンクリート造（地下1・2階） 鉄骨造（地上1-3階） 杭・基礎：杭基礎（PHC-ST 杭）600φ・700φ、 （PHC 杭）600φ

空調設備	A H U ・定風量単一ダクト方式、一部F C U、空冷パッケージ方式 熱源：冷温水発生機（320USRt、280USRt）、加湿用蒸気ボイラ、空冷チラー（87USRt）
照明設備	スポットライト及び蛍光灯（調光設備・紫外線カット付）
消火設備	屋内消火栓、スプリンクラー、不活性ガス（窒素）消火、加圧式粉末 ABC 消火器 設備項目：自火報・防排煙設備、屋内消火栓設備、スプリンクラー設備（開放型、予作動型）、窒素ガス消火設備（一部展示室、収蔵庫、熱源機械室）
排煙設備	機械排煙設備（3系統）
防犯設備	開館時、常時警備員巡回。展覧会開催中は会場内に監視員を置く。展示室内には監視カメラを設置し、監視室にて監視。
衛生設備	給水：受水槽（42 t）+加圧給水ポンプユニット方式 給湯：局所式（電気温水器）、ガス湯沸器（厨房） 排水：ポンプアップ排水
電気設備	受電方式：高圧電力3φ3W 6,600V 1回線受電（業務用電力+融雪電力） 設備容量：2,650 kVA 契約電力：660 kW 予備電源：非常用発電設備 500 kVA、直流電源設備（非常照明用） 設備項目：受変電設備、自家発電設備、幹線設備、動力設備、電灯設備、展示調光設備、避雷設備、外構設備、電話設備、情報設備、インターホン設備、誘導支援設備、テレビ共同受信設備、監視カメラ設備、機械警備設備、放送設備、中央監視設備、外構設備、演出照明設備（シアター、スタジオ）、演出音響設備、映写設備（シアター）
昇降機	荷物用エレベータ1台 乗用エレベータ8台
設計期間	1999年12月-2002年3月
施工期間	2002年12月-2005年9月
外部仕上げ	屋根：ウレタン塗膜防水 外壁：煉瓦+アクリルシリコン塗装 外構：コンクリート舗装ほうき目仕上げ
内部仕上げ	展示室（白）

床：カラーモルタル金こて押え t = 20 mm + 防塵
防汚塗装

壁：合板 t = 15 mm × 2 + プラスターボード t = 12
mm + 全面寒冷紗バテ処理 + EP

天井：合板 t = 12 mm + プラスターボード t = 9 mm
+ EP

展示室（土）

床：タタキ t = 50 mm

壁：版築 t = 200 mm

天井：合板 t = 12 mm + プラスターボード t = 9 mm
+ EP

コミュニティホール

床：クリフローリング t = 15 mm

壁：プラスターボード 12 mm × 2 + スタッコ

天井：人工木材ローズウッド練り付け

シアター

床：フェルト t = 8 mm + カーペット t = 7 mm

壁：プラスターボード t = 15 mm + グラスウール
ボード + エキスパンダメタル t = 6 mm（樹
脂コーティング処理）

天井：グラスウール + プラスターボード t = 15 mm
+ エキスパンダメタル t = 6 mm（樹脂コー
ティング処理）

オフィス

床：システム根太ユニット 600 mm × 600 mm +
コンパネ t = 12 mm + クリフローリング t =
15 mm

壁：プラスターボード t = 12 mm × 2 + EP

天井：プラスターボード t = 12 mm + 吸音板 t = 12
mm + EP

